

附則 (大正十五年法律第七十號) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

和議法 (大正十一年四月二十五日法律第七十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル和議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニスル強制和議ヲ謂フ
第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生ス
第三條 破産法第五條及第七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付テハ適用ス
第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ適用ス
第五條 破産法第九十八條乃至第一百四條ノ規定ハ和議債權者ノ相殺權ニ付テハ適用ス
第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス
第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限り其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第八條 破産法第九十九條、第一百零一條、第一百零二條及第一百零四條ノ規定ハ和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ適用ス
第九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス
第十條 前項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登錄ノ屬託ハ破産ノ登記又ハ登錄ノ屬託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十一條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニスルシタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス
第十二條 破産法第二條、第三條、第九十九條乃至第一百一十條、第一百三十三條乃至第一百八十八條トヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス
第十三條 破産法第九十九條、第一百零一條、第一百零二條及第一百零四條ノ規定ハ和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ適用ス
第十四條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス
第十五條 前項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登錄ノ屬託ハ破産ノ登記又ハ登錄ノ屬託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニスルシタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス
第十七條 破産法第二條、第三條、第九十九條乃至第一百一十條、第一百三十三條乃至第一百八十八條トヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス
第十八條 破産法第九十九條、第一百零一條、第一百零二條及第一百零四條ノ規定ハ和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ適用ス
第十九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス
第二十條 前項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登錄ノ屬託ハ破産ノ登記又ハ登錄ノ屬託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二章 和議ノ開始

及第二百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス
和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス
第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債權者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス
第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルニ付テハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス
第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス
第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス
一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ
二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ
三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ
四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ
五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ
第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得
一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ
二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ
三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
四 和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
五 和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
第二十條 裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務者ノ財産ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得
第二十一條 裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得
第二十二條 前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第二十三條 裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財産、帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ノ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス
第二十四條 整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得
第二十五條 和議申立人ハ前條第一項ニ依リ調査ヲ拒ムコトヲ得ス
第二十六條 破産法第五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合各ニ之ヲ適用ス
第二十七條 重要ナル理由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ要ス
第二十八條 破産法第五十九條乃至第六十一條、第六十九條及第七十二條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二十六條 和議開始決定書ニハ決定ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス

二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 和議開始決定ノ主文

二 管財人ノ氏名及住所

三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日

知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ掲ケル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號及第三號ニ掲ケル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 裁判所カ和議開始決定取消ノ決

定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條 和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債權者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 和議ノ開始ハ債權者カ其ノ財産ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ボサス但シ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ハ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

通常ノ行爲ト雖管財人ノ異議アルトキハ債權者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

重要ナル行爲ニ付管財人カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スニハ整理委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三十三條 第三十一條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第三十四條 管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債權者ニ請求スルコトヲ得

第三十五條 管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債

務者及之ニ扶養セラルル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 管財人ハ何時ニテモ債權者ニ對シテ其ノ財産ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債權者ノ財産ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ債權者ノ財産ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ遅滞ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條 第二十四條及破産法第百五十八條乃至第百六十一條第百六十三條乃至第百六十六條第百六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條 和議手續中ハ和議債權ニ付債權者ノ財産ニ對シ強制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス

和議開始前和議債權ニ付債權者ノ財産ニ對シシタル強制執行、假差押及假處分ハ和議手續中ノ中止ス

第三章 和議債權及其ノ届出

第四十一條 債務者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財産上ノ請求權ハ之ヲ和議債權トス

第四十二條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス

第四十三條 破産ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ債務ヲ受ケルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第四十四條 左ニ掲ケル請求權ハ之ヲ和議債權トセス

一 和議開始後ノ利息

二 和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三 和議手續参加ノ費用

四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徴金及過料

前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル

第四十五條 破産法第十七條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十七條及第二百二十八條乃至第二百三十條ノ規定ハ和議債權ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

シタル和議債權者、和議申立人及和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他債務者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ和議債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス但シ第二十八條第二項第三項ノ規定ニ依リテ送達ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 管財人及整理委員ハ届出アリタル各債權ニ付債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ調査スルコトヲ要ス

第四十八條 管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ和議ノ開始ニ至リタル事情、債務者及其ノ財産ニ關スル經過及現狀並前條ノ規定ニ依ル調査ノ結果ニ付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ要ス

破産法第百八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ届出アリタル債權ニ付第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 破産法第百七十八條、第百八十一條、第百三十八條但書、第百三十一條、第三百二條、第三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會ニ付之ヲ準用ス

破産法第三百四條及第三百五條ノ規定ハ和議ニ付之ヲ準用ス

第五十條 債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人及整理委員ハ和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

破産法第百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期日ヲ定ムル決定ニ付之ヲ準用ス

第五十一條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議認否ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一 和議ノ手續又ハ決議力法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺力追完スヘカラサルモノナルトキ

二 第十八條第二號又ハ第三號ニ規定スル事由アルトキ

三 和議ノ決議力不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ

四 和議ノ決議力及和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第五十二條 和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第四章 債權者集會

第五十三條 和議認可ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準用ス

第五十四條 和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第五十六條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債務者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

第五十七條 破産法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル破産ノ申立並第四十條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル強制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章 和議ノ廢止

第五十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權

ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

一 和議ノ可決前ニ和議ノ提供擔當者ノ提供ヲ撤回シタルトキ

二 債權者集會ノ第一期日ヨリ二月内ニ和議ヲ可決セザルトキ

第六十條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス

一 第二項第一項第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

二 債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 債務者カ第三十四條ノ規定ニ依リ請求アリタルニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

第六十一條 裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第七章 讓歩及和議ノ取消

第六十二條 破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十三條 債務者ニ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第八章 罰則

第六十八條 整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒

收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權者其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十條 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者裁判所ニ其ノ事實ヲ申立テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

和議手續參加ハ時効ノ中断ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

民事訴訟法中改正法律

(昭和十年三月二十八日法律第十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中左ノ通改正ス

第五百七十七條第一項第二號中「一個月」ヲ「三個月」ニ改ム

同條第二項中「然レトモ」ヲ削リ「第三號乃至第八號」ヲ「第一項第三號乃至第八號」ニ改メ同項ノ前ニ左ノ二項ヲ加フ

前項第二號ノ場合ニ於テ食料又ハ薪炭ニ各數種ノモノアルトキハ執達吏ハ債務者ノ利益ヲ考慮シテ差押ヲ爲ササル範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏ハ一應差押ヲ爲シタル上執行裁判所ニ差押ヲ可キ物ノ指定ヲ求ムルコトヲ得此指定ニ對シテハ當事者ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第五百七十七條ノ二 差押ニ因リ債務者カ其生活上回復スルコト能ハサル窮迫ノ状態ニ陥ルノ恐アル場合ニ於テ債務者カ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權者ノ經濟ニ甚シキ影響ヲ及ボササルモノト認ム可キ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ債務者ノ申立ニ

商事調停法

(大正十五年三月三十日) 法律第四十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル商事調停法ヲ裁可シ敷ニ之ヲ公布セシム

商事調停法

第一條 商事ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定リタル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得...

労働爭議調停法

(大正十五年四月九日) 法律第五十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル労働爭議調停法ヲ裁可シ敷ニ之ヲ公布セシム

労働爭議調停法

第一條 左ニ掲クル事業ニ於テ労働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得...

組織ス委員ノ中六人ハ労働爭議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ爭議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス...

ノ手續ニ準シ之ヲ補充ス 第六條 委員定リタルトキハ行政官廳ハ直ニ調停委員會ヲ召集シ之ヲ開會ス...

第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業ヲ其ノ他爭議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得...

用者及労働者並其ノ屬スル使用者團體及労働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ結了ニ至ル迄左ニ掲ケタル目的ヲ以テ其ノ争議ニ關係アル使用者又ハ労働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

一 使用者ヲシテ労働争議ニ關係シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ労働者ヲ申込リ拒絶セシムルコト

二 労働者ノ集團ヲシテ労働争議ニ關係シ業務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭關係ノ申込リ拒絶セシムルコト

第二十條 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ説明ヲ爲シタル者

二 故ナク第十四條ノ規定ニ依リ立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第九十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

借地借家調停法

(大正十一年四月十二日)
法律第四十一號
改正、大正一三—法律一七

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル借地借家調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

借地借家調停法

第一條 土地又ハ建物ノ貸借・地代・家賃其ノ他借地借家關係ニ付争議ヲ生シタルトキハ當事者ハ争議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第一項ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條 調停ノ申立ハ争議ノ實情ヲ明ニシテ

之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條 争議ノ目的タル土地又ハ建物力數個ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所力調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四條ノ二 借地借家關係ノ争議ニ付訴訟力關スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得(大正十三年法律第十七號ヲ以テ本條ヲ追加)

第五條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟力關スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件力調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス(同上本條ヲ改正)

第六條 裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第七條 當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ己ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

裁判所ハ何時ニモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第八條 調停手續ハ之ヲ公開セズ但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聴ヲ許スコトヲ得

第九條 費用ヲ要スル行為ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十一條 調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第十四條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得

當事者雙方ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十五條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第十六條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長ノ指定ス

調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ付キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任ノ指定ス

第十七條 調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條 調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第十九條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任ノ指揮ス

第二十條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半数ノ意見ニ依リ可同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第二十一條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス

第二十二條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條、第七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第二十三條 調停委員會ハ當事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調停委員ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調停委員ヲ爲サ

シメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調停委員ハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受ケヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第二十四條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ争議ノ目的タル事項及手續ノ項費用ニ付適當ト認ムル調停條件ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ項事者ニ送付スルコトヲ要ス

當事者力前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

當事者力異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二十五條 調停委員會第三條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第二十六條 調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者力調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限り裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條 調停ノ申立ヲ爲スニハ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

第三十條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ緊屬中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條 第十八條ノ旅費、日當及止宿料並前二條ノ手数料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ緊屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス(大正十三年法律第十七號ヲ以テ本條ヲ追加)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則(大正十三年法律第十七號附則)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十三年法律第十七號ヲ以テ同年七月二十二日ヨリ施行)

第一條ノ七 前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ノ理由トスルトキニ限り非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ニ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(同上本條ヲ追加)

第二條 供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

第三條 供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ付スルコトヲ要ス(八年三月六厘、大正十一年三月司法省令第三號)(同上本條ヲ改正)

第四條 供託局ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金銀又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者又ハ銀行ハ其營業ノ部類ニ屬ス

供託法 (明治三十二年二月八日)
(法律 第十號)

改正、大正一〇一法律六九
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル供託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託法

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金銀及ヒ有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管ス(大正十年法律第六十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第一條ノ二 前條ノ規定ニ依リテ供託ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス(同上本條ヲ追加)

第一條ノ三 利害關係人ハ供託官吏ノ處分ニ對シ供託局ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第一條ノ四 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ供託官吏ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス(同上本條ヲ追加)

第一條ノ五 供託官吏ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス(同上本條ヲ追加)

第一條ノ六 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ供託官吏ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲シ供託官吏及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス(同上本條ヲ追加)

第一條ノ七 前條ノ規定ニ依リ抗告ヲ却下スル決定ニ對シテハ法律違背ノ理由トスルトキニ限り非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ニ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(同上本條ヲ追加)

第二條 供託局ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出タスコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

第三條 供託金ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ利息ヲ付スルコトヲ要ス(八年三月六厘、大正十一年三月司法省令第三號)(同上本條ヲ改正)

第四條 供託局ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金銀又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者又ハ銀行ハ其營業ノ部類ニ屬ス

ル物ニシテ其保管シ得ヘキ数量ニ限リ之ヲ
 保管スル義務ヲ負フ(同上本條ヲ改正)
 第六條 倉庫營業者又ハ銀行ニ供託ヲ爲サン
 ト欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依
 リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付
 スルコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)
 第七條 倉庫營業者又ハ銀行ハ第五條第一項
 ノ規定ニ依ル供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ
 一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請
 求スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)
 第八條 供託物ノ運付ヲ請求スル者ハ司法大
 臣ノ定ムル所ニ依リ其權利ヲ證明スルコト
 ヲ要ス(大正十年法律第六十九號ヲ以テ本
 項ヲ改正)
 第九條 供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依
 ルコト、供託力錯誤ニ出テシコト又ハ其原
 因力消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ
 供託物ヲ取戻スコトヲ得ス
 第十條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セ
 サル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効ト
 ス
 第十一條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ
 爲スヘキ場合ニ於テハ供託者ノ書面又ハ裁
 判、公正證書其他ノ公正ノ書面ニ依リ其給
 付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託
 物ヲ受取ルコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)
 附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ
 之ヲ施行ス
 第十二條 本法施行前ニ供託シタル金銀ニハ
 其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條
 ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス
 第十三條 第四條、第八條及ヒ第十條ノ規定
 ハ本法施行前ニ供託シタル物ニモ亦之ヲ適
 用ス
 第十四條 明治二十三年勅令第四百五號供
 託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 附則(大正十年法律第六十九號附則)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
 十一年勅令第二十八號ヲ以テ同年四月一日ヨ
 リ施行ス)
 本法施行前爲シタル供託ニ關シ必要ナル規定
 ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 供託局所在地外ニ於テハ司法大臣ハ管分ノ内
 其ノ適當ト認ムル銀行ヲシテ第一條ノ規定ニ
 依ル供託事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

朝鮮小作調停令

(昭和七年十二月十日) 勅令 第五十號

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生
 シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地
 ノ所在地ヲ管轄スル地方法院(合議部アル
 地方法院支廳ヲ含ム)ニ調停ノ申立ヲ爲ス
 コトヲ得
 當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ
 所在地ヲ管轄スル合議部ナキ地方法院支廳
 ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第二條 調停事件ハ地方法院又ハ地方法院支
 廳ノ合議部ニ於テ之ヲ取扱フ但シ前條第二
 項ノ規定ニ依リ申立アリタル事件ニ付テハ
 此ノ限ニ在ラス
 第三條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ
 申立ヲ爲シタルト認ムルトキハ裁判所ハ其
 ノ申立ヲ却下スルコトヲ得
 第四條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ
 所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ヲ經
 テ之ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ申立アリタルトキハ府尹、郡守又ハ
 島司ハ遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所
 ニ送付スルコトヲ要ス
 第五條 前條第一項ノ申立アリタル場合ニ於
 テ爭議ノ目的タル土地方數府郡ニ互ルトキ

ハ調停ノ申立ヲ受ケタル府尹又ハ郡守ハ遲
 滞ナク關係府尹又ハ郡守ニ申立アリタル旨
 ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
 第六條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタル
 トキハ遲滞ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ
 所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ニ通
 知スルコトヲ要ス但シ第九條第一項ノ規定
 ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラ
 ス
 第七條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ
 之ヲ爲スヘシ
 第八條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之
 ヲ爲スコトヲ得
 口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ府尹、
 郡守、島司又ハ裁判所書記其ノ調査ヲ作ル
 コトヲ要ス
 第九條 爭議ノ目的タル土地力數箇ノ裁判所
 ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申
 立ヲ受ケタル地方法院又ハ地方法院支廳相
 當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管
 轄地方法院又ハ地方法院支廳ニ移送スルコ
 トヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受
 ケタルトキ亦同シ
 前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコト
 ヲ得ス
 第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル
 裁判所ハ遲滞ナク爭議ノ目的タル土地ノ所

在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ニ其ノ
 旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス
 第十條 小作關係ノ爭議ニ付訴訟力繫屬スル
 トキハ受託裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停
 ニ付スルコトヲ得
 第六條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ事件ヲ調
 停ニ付シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第十一條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付
 訴訟力繫屬スルトキ又ハ裁判所ノ職權ヲ以
 テ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ受託裁
 判所ハ決定ヲ以テ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟
 手續ヲ中止スルコトヲ得
 調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ申立ニ因リ決
 定ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシメスシテ強
 制執行手續又ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコト
 ヲ定メタル競賣法ニ依ル競賣手續ヲ一時停
 止スルコトヲ得
 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民事
 訴訟法第百十二條、第百十三條、第百十五
 條及第百十六條ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ
 準用ス
 第一項及第二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申
 立ツルコトヲ得ス
 第十二條 裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリ
 ト認ムルトキハ之ヲシテ勸解ヲ爲サシムル
 コトヲ得
 第十三條 當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ

全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行為ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十四條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ届出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十五條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ヲ管轄スル府尹、郡守、島司又ハ警察署長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十九條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ府尹、郡守、島司又ハ警察署長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十一條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十二條 調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第二十三條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十四條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十六條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十八條 調停ハ訴訟上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ裁判所ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代力其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代力前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ裁判所ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停成リタルモノト看做ス

裁判所ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代力調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ニ通知スルコトヲ要ス

第三十一條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者力事件ノ繫屬中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十二條 前條ノ手数料ノ額ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三十三條 第十五條第一項ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

テ之ヲ納付スヘシ

附 則

本令ハ朝鮮小作調停令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮小作調停令第三十一條ノ手数料ニ關スル件

(昭和七年十二月十日 府令第一二四號)

朝鮮小作調停令第三十一條ノ手数料ハ各一件ニ付二十錢トス前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以

刑
法

刑
法

刑法目次

刑法(明四〇―法四五)

第一編 總則

第一章	法例	一
第二章	刑	二
第三章	期間計算	三
第四章	刑ノ執行猶豫	三
第五章	假出獄	三
第六章	時効	三
第七章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	三
第八章	未遂罪	三
第九章	併合罪	三
第十章	累犯	三
第十一章	共犯	三
第十二章	酌量減輕	三
第十三章	加減例	三
第二編 罪		
第一章	皇室ニ對スル罪	六
第二章	内亂ニ關スル罪	六
第三章	外患ニ關スル罪	六
第四章	國交ニ關スル罪	六
第五章	公務ノ執行ヲ妨害スル罪	七
第六章	逃走ノ罪	七
第七章	犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪	七

刑法目次

第八章	竊取ノ罪	八
第九章	放火及ヒ失火ノ罪	八
第十章	盗水及ヒ水利ニ關スル罪	八
第十一章	往來ヲ妨害スル罪	九
第十二章	住居ヲ侵入スル罪	九
第十三章	秘密ヲ侵スル罪	九
第十四章	阿片煙ニ關スル罪	九
第十五章	飲料水ニ關スル罪	〇
第十六章	通貨偽造ノ罪	〇
第十七章	文書偽造ノ罪	〇
第十八章	有價證券偽造ノ罪	〇
第十九章	印章偽造ノ罪	〇
第二十章	偽證ノ罪	二
第二十一章	誣告ノ罪	二
第二十二章	猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪	二
第二十三章	賭博及ヒ富籤ニ關スル罪	三
第二十四章	禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	三
第二十五章	瀆職ノ罪	三
第二十六章	殺人ノ罪	三
第二十七章	傷害ノ罪	三
第二十八章	過失傷害ノ罪	四
第二十九章	墮胎ノ罪	四
第三十章	遺棄ノ罪	四
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	四
第三十二章	脅迫ノ罪	五
第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪	五

第三十四章	名譽ニ關スル罪	五
第三十五章	信用及ヒ業務ニ對スル罪	五
第三十六章	竊盜及ヒ強盜ノ罪	五
第三十七章	詐欺及ヒ恐喝ノ罪	六
第三十八章	橫領ノ罪	六
第三十九章	贓物ニ關スル罪	六
第四十章	毀棄及ヒ隱匿ノ罪	七
刑法施行法(明四一―法一九)		七
刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ罪名ニ關スル件(明四一―勅二二〇)		七
刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件(明四一―勅二一七)		三
刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル舊刑法ノ規定(明一三一―布三)		三
第二編 公益ニ關スル重罪輕罪		
第四章 信用ヲ害スル罪		
第九章 公選ノ投票ヲ偽造スル罪		
第九章 健康ヲ害スル罪		
第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪		
警察犯處罰令(明四一―內一六)		三

治安警察法(明三三―法三六)……………三
 治安維持法(大一一―法四六)……………六
 治安維持ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……………六
 (大一一―勅一七五)……………六
 關東州及南洋群島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ルノ件(大一一―勅一七六)……………六
 暴力行為等處分ニ關スル法(大一一―法六〇)……………六
 盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律(昭五―法九)……………九
 行政執行法(明三三―法八四)……………三
 (明三三―勅二五三)……………三
 決闘罪ニ關スル件(明三三―法三四)……………三
 (明三三―勅二五三)……………三
 爆發物取締罰則(明一七―布三二)……………三

銃砲火藥類取締法(明四一―法五三)……………三
 印紙犯罪處罰法(明四二―法三九)……………三
 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律(明三二―法六六)……………三
 通貨及證券模造取締法(明二八―法二八)……………三
 紙幣類似證券取締法(明三九―法五一)……………三
 懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行為取締方(明四二―內二〇)……………三
 法人ノ役員處罰ニ關スル法律(大四―法一八)……………三
 命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件(明三三―法八四)……………三
 未成年者喫煙禁止法……………三

(明三三―法三三)……………三
 未成年者飲酒禁止法(大一一―法二〇)……………六
 朝鮮刑事令(明四五―制令一一)……………三
 朝鮮阿片取締令(大八一―制令一五)……………三
 朝鮮阿片取締令施行規則(大八一―制令一一)……………三
 朝鮮麻藥取締令(昭一〇―制令六)……………三
 朝鮮麻藥取締令施行規則(昭一〇―府令九九)……………三
 朝鮮麻藥取締令施行規則(昭一〇―府令九九)……………三
 朝鮮不穩文書臨時取締令(昭一一―制令一三)……………三

刑法

(明治四十年四月二十四日法律第七十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ刑法改正法律第七十七號ニシテ公布セシム
 此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十一年勅令第六十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)
 明治三十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一編 總則

第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
 帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ
 第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

刑法 第一編 總則 第一章 法例

五 第五百二十四條、第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪
 六 第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ罪
 七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪
 八 第六百六十七條乃至第六百六十九條ノ罪
 九 第六百七十條乃至第六百七十一條ノ罪
 十 第六百七十二條乃至第六百七十九條、第六百八十一條及ヒ第六百八十四條ノ罪
 十一 第六百九十九條、第七百九十九條、第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十二 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十三 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十四 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十五 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十六 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十七 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十八 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 十九 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十一 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十二 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十三 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十四 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十五 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十六 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十七 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十八 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 二十九 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十一 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十二 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十三 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十四 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十五 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十六 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十七 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十八 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 三十九 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十一 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十二 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十三 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十四 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十五 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十六 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十七 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十八 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 四十九 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪
 五十 第七百九十九條及ヒ第七百九十九條ノ罪

三十二 第二百三十三條ノ罪
 三十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
 三十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
 三十五 第二百五十三條ノ罪
 三十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 三十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 三十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 三十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十一 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十二 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十三 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十四 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十五 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 四十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十一 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十二 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十三 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十四 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十五 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 五十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十一 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十二 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十三 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十四 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十五 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 六十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十一 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十二 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十三 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十四 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十五 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 七十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十一 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十二 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十三 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十四 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十五 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 八十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十一 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十二 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十三 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十四 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十五 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十六 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十七 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十八 第二百五十六條第二項ノ罪
 九十九 第二百五十六條第二項ノ罪
 一百 第二百五十六條第二項ノ罪

員其他ノ職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ
第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留ノヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス
第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ト長期有期懲役ト長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同キモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同キ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム
第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス
第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス
第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス
禁錮ハ監獄ニ拘留ス
第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得
第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス
第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス
第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞務場ニ留置ス
科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞務場ニ留置ス
科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス
第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得
一 犯罪行為ヲ組成シタル物
二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物
三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ル
第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス
第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第三章 期間計算

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス
拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス
第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得
一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タルヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ
一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改役ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得
第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得
一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ爲スコトナキ
四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス
第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得
第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス
一 死刑ハ三十年
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上八十五年
四 罰金ハ三年
五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年
第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ニ進行セス
第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス
罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第六章 時効

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス
第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サレ

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

刑法 第一編總則 第四章刑ノ執行猶豫 第五章假出獄 第六章時効 第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免 三

員其他ノ職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ
謂フ
第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定
メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別
ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、トヒ
科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス
第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル
但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シ
トシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍
ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キ
モノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキ
モノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモ
ノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短
期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依
リ其輕重ヲ定ム
第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ
執行ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマ
テ之ヲ監獄ニ拘留ス
第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役
ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス
第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮
ハ一月以上十五年以下トス
禁錮ハ監獄ニ拘留ス
第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場
合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕
スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得
第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕
スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ
得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘
留場ニ拘留ス
第十七條 科料ハ十圓以上二十圓未滿トス
第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ
一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置
ス
科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上
三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ
六十日ヲ超ユルコトヲ得ス
罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト
共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル
場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス
可シ
罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付
テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ
非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ
納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日
數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ
控除シテ之ヲ留置ス
留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前
項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ム
ルコトヲ得ス
第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スル
コトヲ得
一 犯罪行為ヲ組成シタル物
二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル
物
三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得ル
物
沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ
限ル
第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該罪ニ付テ
ハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スル
コトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタ
ル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス
第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一
部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章 期間計算
第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テ
シタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス
拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑
期ニ算入セス
第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一
日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫
第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲
役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ
因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ
期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得
一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコ
トナキ者
二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコ
トアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免
除ヲ得タルヨリ七年以内ニ禁錮以上
ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑
ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ
一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上
ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付
キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除外
猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ
刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル
ルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルト
キハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄
第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者
改役ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期
三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル
後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコ
トヲ得
第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假
出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得
一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑
ニ處セラレタルトキ
二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰
金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑
ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行
ヲ爲スコトナキ
四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ
日數ハ刑期ニ算入セス
第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因
リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出
場ヲ許スコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因
リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時効
第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ
因リ其執行ノ免除ヲ得
第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左
ノ期間内執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス
一 死刑ハ三十年
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上八十
五年、三年以上八十年、三年未滿ハ五
年
四 罰金ハ三年
五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年
第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ
又ハ之ヲ停止シタル期間内ニ進行セス
第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮
捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス
罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行為ヲ爲
シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及
ヒ刑ノ減免
第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シ
タル行為ハ之ヲ罰セス
第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ
他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サ

ルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス
防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其
刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自
由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避ケル
爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ其
行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ
程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但
程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減
輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ
之ヲ適用セス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行為ハ之ヲ罰セ
ス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在
ラス

罪本重カシテ可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ
其重キニ從テ處斷スルコトヲ得

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲
スコトヲ得但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スル
コトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セス
心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 癡癡者ノ行為ハ之ヲ罰セス又ハ其
刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行為ハ之
ヲ罰セス

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前

自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得
告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有ス
ル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサ
ル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意
思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又
ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ
於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪
トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキ
ハ止テ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪ト
ヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其罪ニ付キ死刑ニ處
ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限
ニ在ラス

其罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可
キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ
沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役
又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重
キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加
ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定

メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユル
コトヲ得

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但
第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス
二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金
ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖
モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコ
トヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未
タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ
經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判ア
リタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死
刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除外他ノ刑
ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可
キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除外他ノ
刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ
其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ付
半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者
或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ
大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ
併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス
二個以上ノ拘留又ハ科料トハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ
觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行為ニ
シテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑
ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ適用ス

第五十五條 連續シタル數個ノ行為ニシテ同
一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處
斷ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ
終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内
ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ
之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セ
ラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又
ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終
リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ
期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ
トキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中
懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其最モ重
キ罪ニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ
懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル
懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發
見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可
キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除
アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項
ノ規定ヲ適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ
例ニ同シ

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタ
ル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメ
タル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減
輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪
ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サ
レハ之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯
罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト
雖モ尙ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分
ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌
量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕ス
ル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個
又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十
年ノ懲役トス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キト
キハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ト
ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キト
キハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二
分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二
分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二
分ノ一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合
ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ
先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ

因リ一日ニ滿タサル時間ヲ利ストキハ之ヲ除棄ス

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝廷ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
- 三 其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資助シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗議シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第八十六條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ加重シ又ハ其刑ヲ減輕シタル者ハ其刑ヲ減輕ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ

一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル

命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十六條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第八章 騒擾ノ罪

第六百六條 多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騒擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處断ス
一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
三 附加隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第六百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆集合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セザルトキハ首魁ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第八百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、船舶若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第八百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セシ又ハ人ノ現在セサル建造物、船舶若クハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セズ
第九百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九百十一條 第九百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シテ第九百八條又ハ第九百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前條第二項ノ罪ヲ犯シテ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
第九百十二條 第八百八條及ヒ第九百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第九百十三條 第八百八條又ハ第九百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得
第九百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
第九百十五條 第九百九條第一項及ヒ第九百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハモ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第九百十九條 溢水、シメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ船舶ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第九百二十條 溢水、シメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル
第九百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ防水ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
第九百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第九百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第九百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第九百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ障礙シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス
第九百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
第九百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
人ノ現在スル船舶ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
第九百二十七條 第九百二十五條ノ罪ヲ犯シテ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ船舶ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ從テ處断ス

第十二章 住居ヲ侵スル罪

第九百二十八條 第九百二十四條第一項、第九百二十五條及ヒ第九百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第九百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ船舶ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ船舶ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第九百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ船舶ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以上ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九百三十一條 故ナク皇居、禁苑、雜官又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ
第九百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第九百三十三條 秘密ヲ侵スル罪
故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
宗教若クハ祈禱ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏洩シタルトキ亦同シ
第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
第三百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第三百四十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス
第三百四十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第三百四十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百四十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其ノ水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第三百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
第三百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
第三百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其ノ水源ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有

期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
第三百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第三百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ
第三百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ
第三百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
第三百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交

付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス
第三百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第三百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ
第三百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル

者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル
第三百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第三百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
第三百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下

ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第三百六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ
第三百六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虚

偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第百六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造タル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百六十八條 第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪

第百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルヲ得

第二十一章 誣告ノ罪

第百七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以上ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上六年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其姦通シタル者亦同シ

第百八十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其姦通シタル者亦同シ

第百八十五條 偶然ノ輪廓ニ關シ財事ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條 官職ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十八條 官職ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三章 賭博及ヒ富籤

第百八十五條 偶然ノ輪廓ニ關シ財事ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條 官職ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十八條 官職ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 濫職ノ罪

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六章 竊盜及ヒ強盜

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス
第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス
第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
第二百四十二條 自己ノ財物ト雖他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス
第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百五十條 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ
第二百五十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二百五十二條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス
第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ竊取シタル者亦同シ

第三十八章 横領ノ罪

ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス
第三十九章 贓物ニ關スル罪
第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章 毀棄及隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス
第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル
第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ
第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百五十條 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ
第二百五十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二百五十二條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス
第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ竊取シタル者亦同シ

刑法施行法

(明治四十一年三月二十八日法律第二十九號)

改正

明治四十二年三月二十八日法律第二十九號
明治四十四年法律四、法律三九
大正一〇年法律一五、法律一七
大正一〇年法律一五、法律一七
昭和二年法律四七、法律七五

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法施行法ヲ議可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

死刑 無期徒刑 無期懲役 無期禁錮 無期流刑

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ法律ニ依リ刑罰ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑罰ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑罰ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ時ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪トニ付キ同罪ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ併合罪ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一罪ト重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付テハ其罪ト併合罪ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一罪ト重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑罰ノ規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞務場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲スコシ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處スコシキ者ト雖モ刑罰ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

第十五條 刑法施行前ニ假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑罰ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關帝判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ起算ス

第十八條 罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其數力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ノ付セズ

第十九條 罰金ノ納完セサル爲メ換ヘラレタル附加ノ罰金亦前項ニ同シ

第二十條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期懲役又ハ禁錮ニ變更ス

第二十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑罰ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑罰ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑罰ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑罰ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑罰ノ規定ヲ準用ス

他ノ法律ノ規定中罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタル
 視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタル
 モノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其
 期間又ハ金額ヲ變更セズ但ヒ他ノ法律中特
 期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊
 刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從
 フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又
 ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場
 合ヲ除外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ
 依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ
 又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサ
 ルコトヲ定メタル場合ニ付テハ其規定
 ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變
 更ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適
 用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重
 ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セズ刑ノ減
 輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規
 定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及
 ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止
 ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ

- 當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス
- 一 第二編第四章第九節
 - 二 第二編第五章第三節
- 刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關
 スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス
- 第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條
 ノ例ニ從フ
- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
 - 二 (削除)
 - 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケ
 タル罪
 - 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
 - 五 船舶法ニ掲ケタル罪
 - 六 船舶職員法ニ掲ケタル罪
 - 七 船舶検査法ニ掲ケタル罪
 - 八 戶籍法ニ掲ケタル罪
 - 九 戸籍法ニ掲ケタル罪
- 第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條
 ノ例ニ從フ
- 一 著作權法ニ掲ケタル罪
 - 二 (削除)
 - 三 移民保護法ニ掲ケタル罪
- 第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑
 法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規
 定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ
- 第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ
 懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用

ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該ル罪ニ該ル懲役若クハ禁錮
 又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テ
 ハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該ル罪ニ該ル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ
 他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該
 ル罪ト看做ス

前條ニ該ル罪ニ該ル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律
 ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト
 看做ス

前條ニ該ル罪ニ該ル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律
 ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト
 看做ス

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法
 律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違背罪ト看做ス

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死
 刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁
 錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役
 若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ
 適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ
 タルモノト看做ス

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法
 ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ
 適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト
 看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ
 罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ
 付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモ
 ノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法
 律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラ
 レタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法
 律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラ
 レタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セ
 ラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラ
 レタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執
 行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至
 ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又
 ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關
 シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊
 刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人
 ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有
 ス

第三十八條 乃至第五十二條 (削除)

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條
 ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其
 犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判
 所ノ檢察其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人
 又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ

此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢
 事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト
 同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因
 リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ
 又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコ
 トヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可
 キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所
 在地又ハ最後ノ住所地方官署ニ於テ地方裁判
 所ノ檢察其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人
 又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ

此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ
 抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依
 リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケケル者ハ猶豫ノ期
 間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶
 豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ
 之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事

訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之
 ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害
 者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲
 ス可シ

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲公布シタル法令
 ハ之ヲ廢止ス

**刑法施行後施行ノ命
 令ニ掲ケタル刑法ノ
 刑名ニ關スル件**

(明治四十二年五月一日)
 (勅令第四百二十號)

除刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑
 名ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其他
 ノ事項ニ關シ掲ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規
 定アル場合ヲ除ク外左ノ例ニ從ヒ對照シタ
 ル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑名ヲ
 包含ス

刑法ノ刑 舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍
 死刑 死刑

刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル舊刑法ノ規定

一一一

懲役 無期徒刑、有期徒刑、重懲役、
 輕懲役、重禁錮、
 無期徒刑、有期徒刑、重禁錮、
 輕禁錮、輕禁錮、
 罰金 無期徒刑、有期徒刑、重禁錮、
 輕禁錮、輕禁錮、
 拘留 無期徒刑、有期徒刑、重禁錮、
 輕禁錮、輕禁錮、
 科料 無期徒刑、有期徒刑、重禁錮、
 輕禁錮、輕禁錮、

刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

(明治四十一年九月二十四日勅令第二百十七號)

朕刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル舊刑法ノ規定

(左ノ規定ハ刑法施行法第二十五條ニ依リ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス)

第二編 公益ニ關スル重罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賭博ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賭博ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時

第五章 健康ヲ害スル罪

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

警察犯處罰令

(明治四十一年九月二十九日內務省令 第十六號)

改正 大正八一內務省令一七

警察犯處罰令左ノ通り之ヲ定ム

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一 故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者

二 密書淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒介若ハ容止ヲ爲シタル者

三 一定ノ居住又ハ生業ヲシテ諸方ニ徘徊スル者

四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二 乞巧ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三 濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品入場券等ヲ配付シタル者

四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強

(左ノ規定ハ刑法施行法第三十七條ニ依リ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス)

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

警察犯處罰令

一一一

- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者
- 十九 濫ニ催眠術ヲ施シタル者
- 二十 官職、位記、勳章學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ濫用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セザル者
- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ

- 妨ケキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示シ若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜示ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セザル者
- 二十八 濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者

- 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚穢シタル者
- 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者
- 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
- 三十七 濫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 三十八 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圖未滿ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ祖傳、標記シ又ハ髻部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四 濫ニ銃砲ノ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者
- 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易ク物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ燒ク者
- 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ埋

- 七 開業ノ產婆故ナク妊婦、產婦ノ招キニ應セザル者
- 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セザル者
- 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス
- 十 店頭ニ陳列シタル者
- 十一 濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者
- 十二 監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十三 濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ曠シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十四 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逃走セシメタル者
- 十五 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
- 十六 濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚穢シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貨家札其ノ他榜標ノ類ヲ汚穢シ若ハ撤去シタル者
- 十七 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 十九 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス

治安警察法

但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得
附則
本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

治安警察法

(明治三十三年三月十日)
法律第五九
改正(大正一五)法律五八
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安警察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 治安警察法
第一條 政事ニ關スル結社ノ主幹者(支社ニ在リテハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以内ニ姓名、社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ姓名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ
發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察署ニ届出ツヘシ
届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ハ其ノ效ヲ失フ

法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日

ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セ
 第三條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政
 事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル
 爲届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ
 以テ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムル
 コトヲ得
 第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運
 動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以
 前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過
 スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但
 シ祭典、講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ
 他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラ
 ス
 第五條 左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入
 スルコトヲ得ス
 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍
 人
 二 警察官
 三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
 四 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
 五 女子
 六 未成年者
 七 公權剝奪及停止中ノ者
 未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會同
 シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス
 公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政

談集會ノ發起人タルコトヲ得ス
 第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社
 ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發
 起人タルコトヲ得ス
 第七條 結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ
 議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於
 テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ
 得ス
 第八條 安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合
 ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運
 動若ハ群衆ヲ制限、禁止若ハ解散シ又ハ屋
 内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得
 結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣
 ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違
 法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタリトスル
 者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第九條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關ス
 ル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ
 又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講
 談論議スルコトヲ得ス
 集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯
 罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ
 刑事被告人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコ
 トヲ得ス
 第十條 集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ
 規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風
 俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ

警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコト
 ヲ得
 第十一條 結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警
 察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、
 發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主幹社員若ハ
 主幹者會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘ
 シ
 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ
 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシ
 ムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セ
 ルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト
 認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於
 テ又ハ警察官ノ主幹者會同者ト認ムル者ニ
 於テ警察官ノ主幹者會同者ト認ムル者ニ
 第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故
 ラニ喧擾シ又ハ狂暴シタル者アリトキハ警
 察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ
 現場ヨリ退去セシムルコトヲ得
 第十三條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ武器又
 ハ兇器ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ制規ニ依
 リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス
 第十四條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス
 第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員
 議事準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ
 第一條及第五條ヲ適用セス
 第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スル
 コトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ

揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其
 ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ
 若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ
 警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得
 第十七條 (削除)
 第十八條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲
 必要ト認ムルトキハ武器爆發物又ハ武器ヲ
 仕込ミタル物件ノ携帯ヲ禁スルコトヲ得
 第十九條 第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以
 下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ
 以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十條 第二條第一項又ハ第二項ニ違背シ
 タル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ
 届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以
 下ノ罰金ニ處ス
 第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ二十圓
 以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實
 ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背シタル
 者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第五條又ハ第
 六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ
 第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ
 命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍舊
 散セサル者ハ二月以下ノ「輕禁錮」又ハ三
 十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ
 六月以下ノ「輕禁錮」又ハ百圓以下ノ罰金

ニ處ス
 第二十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中
 止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ「輕禁
 錮」又ハ四十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス
 若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場
 合ニ於テ警察官ノ監視ヲ拒ミ若ハ其ノ求ム
 ル贈ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處
 ス
 第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレ
 タル後仍舊退去セサル者ハ一月以下ノ「輕禁
 錮」又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十七條 第十三條ニ違背シタル者ハ三月
 以下ノ「輕禁錮」又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 秘密ノ結社ヲ組織シ又ハ秘密ノ
 結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ
 「輕禁錮」ニ處ス
 第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタ
 ル者ハ一月以下ノ「輕禁錮」又ハ三十圓以
 下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 (削除)
 第三十一條 第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六
 月以下ノ「重禁錮」ニ處ス
 第三十二條 本法ニ關スル公訴ノ時効ハ六箇
 月トス
 第三十三條 集會及政社法ハ之ヲ廢止ス
 附 則 (大正十五年法律第五十八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
 十五年勅令第九十八號ヲ以テ同年七月一日
 ヲ施行ス)

八ノ去
 暴行爲等
 治安警察法ニ關
 於テハ
 關東廳又南

治安維持法

(大正十四年四月二十二日)
(法律第四十六號)

改正、昭和三年勅令一二九

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安維持法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安維持法

第一條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行為ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條第一項又ハ第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協謀ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條第一項又ハ第二項ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

關東州及南洋群島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ルノ件

(大正十四年五月八日)
(勅令第七十六號)

朕關東州及南洋群島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 第一條第一項又ハ第二項ノ目的ヲ以テ暴行其ノ他生命、身體又ハ財產ニ害ヲ加フヘキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 第一條第二項又ハ前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財產上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第三條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第七條 本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ犯罪シタル者ニ亦之ヲ適用ス

治安維持ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件

(大正十四年五月八日)
(勅令第七十五號)

朕治安維持法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安維持法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則
本令ハ大正十四年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

關東州及南洋群島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ルノ件

(大正十四年五月八日)
(勅令第七十六號)

朕關東州及南洋群島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關東州及南洋群島ニ於テハ治安維持ニ關シ治安維持法ニ依ル

附則
本令ハ大正十四年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

暴力行為等處分ニ關スル法律

(大正十五年四月十日)
(法律第六十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル暴力行為等處分ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項若ハ第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 兇器ヲ攜帶シテ犯罪シタルトキ

一 兇器ヲ攜帶シテ犯罪シタルトキ

二 二人以上現場ニ於テ共同シテ犯罪シタルトキ

三 門戶牆壁等ヲ破損損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シテ犯罪シタルトキ

四 夜間人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シテ犯罪シタルトキ

第三條 常習トシテ前條ニ掲ケタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ其ノ行為前十年内ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪ト併合罪ニ付三回以上六月ノ懲役以上ノ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科スヘキトキハ前條ノ例ニ依ル

第四條 常習トシテ刑法第二百四十條前段ノ罪若ハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ其ノ未

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律

(昭和五年五月二十二日)
(法律第九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ノ各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對シタル現在ノ危險ヲ排除スル爲メ犯人ヲ殺傷シタルトキハ刑法第三十六條第一項ノ防衛行為アリタルモノトス

一 盜犯ヲ防止シ又ハ盜贓ヲ取還セントスルトキ

二 兇器ヲ攜帶シテ又ハ門戶牆壁等ヲ破損損壞シ若ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入スル者ヲ防止セントスルトキ

三 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シタル者又ハ要求ヲ受ケテ此等ノ場所ヨリ退去セサル者ヲ排斥セントスルトキ

前項各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非スト雖モ行為者恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽

下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ掲ケタル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條 財產上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ行為ヲ爲シタル者ハ強請シ又ハ強談或ハ強迫ノ行為ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談或ハ強迫ノ行為ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三條 第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十九條、第二百二十四條、第二百二十八條、第九十九條、第二百二十四條、第二百二十八條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ行為ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレ

遂罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

行政執行法

(明治三十三年六月二日) (法律第八十四號)

改正 明治四三法律五二
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル行政執行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政執行法

第一條 當該行政官廳ハ泥酔者、癡癡者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戒器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領ヲ爲スコトヲ得暴行、鬭爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス又假領ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ

其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治療ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ廳府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス行政官廳ハ第一號ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政官廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權庫ニ歸屬ス假領證ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

行政執行法施行令

(明治三十三年六月二日) (勅令第二百五十三號)

行政執行法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

行政執行法施行令

行政執行法施行令

第一條 廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ前項設備ニ要スル費用ハ廳府縣警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條 生命、身體若ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ボスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ掲ケタル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一 崩壞又ハ人ヲ墮落セシムルノ虞アル場所

二 家屋其ノ他ノ工作物

三 船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四 汽關、汽機及其ノ附屬裝置

五 前各號ニ掲ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲

ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 各省大臣

二十五圓

二 廳府縣長官

二十圓

三 其ノ他ノ行政官廳

十圓

第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ

前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ強制スル爲豫メ戒告ヲ爲ストキ、自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條、第六條及

第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

決闘罪ニ關スル件

(明治二十二年十二月三十日)
法律第三十四號

朕決闘罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應ジタル者ハ六月以上二年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「十圓以上百圓以下」ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「二十圓以上二百圓以下」ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處断ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「五圓以上五十圓以下」ノ罰金ヲ附加ス

第五條 情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第六條 決闘ノ挑ニ應ゼサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ「誹毀」ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ

其重キモノハ重キニ從テ處断ス

爆發物取締罰則

(明治十七年十二月二十七日)
大正官布告第三十二號

朕爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

改正 (大正七) 法律三十四

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供スル器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供スル器具ヲ製造輸入販賣譲與密藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九條 第一條乃至第五條ノ犯罪者ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ其罪證ヲ隠滅シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十條 (廢止)

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ其刑ヲ免除ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キモノハ重キニ從テ處断ス

銃砲火藥類取締法

(明治十四年三月十三日)
法律第五十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銃砲火藥類取締法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法

第一條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形、修繕、修理、其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲ス

第二條 火藥、爆發物ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新發明ニ係ル火藥、爆發物一定ノ期間ニ於テ試驗ノ爲メ製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設ケタルコトヲ得

第五條 製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケタル委託者以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第六條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セシタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第七條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ場所ノ物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ危害豫防ノ爲メ銃砲、火藥類ノ製造所、若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命ジ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲
必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授
受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコト
ヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃
砲、火藥類ノ假前置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命
令ヲ以テ之ヲ定ム

一 本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類
ノ範圍及新現發明ニ係ル火藥類ヲ一定
ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ
外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシ
テ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥
類ノ範圍

二 銃砲、火藥類ノ取引授受、使用、運
搬、貯藏其ノ他ノ取扱

三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作
業主任者ニ關スル事項

四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所
ニ關スル事項

五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關ス
ル事項

第十五條 本法又ハ六法ニ基キテ發スル命令
ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃
砲、火藥類ニ非サル他ノ武器又ハ爆發質物
品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル

銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ
規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 第一條、第八條若ハ第九條ノ規定
ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業
ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依
ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若
ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十
一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ
於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反
シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ
違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規
定ニ依リ該官廳ノ職務ヲ執行ヲ拒ミ若ハ
之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ該官
吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳
述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シ
タル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ
銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年
者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ
基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰
則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關
シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ

付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受
ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其
ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ
他ノ從業者ニシ、之ノ營業又ハ事業ニ關シ
本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ
タルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以
テ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科
料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ
本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯
罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治
四十四年勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨ
リ施行ス)

刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ
以下各號順次繰上ク

爆發物取締規則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラ
ルコトナシ

印紙犯罪處罰法

(明治四十二年四月二十八日) 法律第三十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙犯罪處罰法ヲ

裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙犯罪處罰法

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行ス
ル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽
造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處
ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタ
ル者亦同シ

第二條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰
スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ
使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付
シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ
懲役ニ處ス

印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シ
タル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙
金額ヲ表彰スヘキ證券ヲ再ヒ使用シタル者
ハ十年以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第
一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適
用ス

第五條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰
スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁
判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問
ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券偽造及模造ニ關スル法律

外國ニ於テ流通スル
貨幣紙幣銀行券證券
偽造變造及模造ニ關
スル法律

(明治三十八年三月二十日) 法律第六十六號

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十
六條第十一號ハ之ヲ削ル

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ流通ス
ル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關ス
ル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於
テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝
國政府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル
者ハ「重懲役」又ハ「輕懲役」ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル
者ハ「輕懲役」又ハ二年以上五年以下ノ「重
禁錮」ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ
變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ
外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條

未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖モ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年勅令第七十七號ハ之ヲ廢止ス
〔備考〕 明治九年布告第五十七號「贗造金銀銅貨紙幣等取扱規則」ハ大正九年勅令第五百八十四號ヲ以テ廢止サル

通貨及證券模造取締法

(明治二十八年四月五日)
(法律第二十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則
第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ給ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「五圓以上五十圓以下」ノ罰金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル紙幣類似證券取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(明治三十九年五月八日)
(法律第五十一號)

紙幣類似證券取締法

(明治三十九年五月八日)
(法律第五十一號)

紙幣類似證券取締法

第一條 一様ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ一様ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス

第二條 前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス

禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無効トス

第三條 禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ「重禁錮」又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス

禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條 禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方

(明治四十二年八月十日)
(內務省令第二十號)

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用キムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以内ノ罰金情ヲ知りテ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ表彰物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス

本令ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年內務省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

法人ノ役員處罰ニ關スル法律

(大正四年六月二十一日)
(法律第十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ノ役員處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監査役又ハ監事ニシテ刑事訴訟又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲メ合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

附則
本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

命令ノ條項違反ニ關スル罰則ノ件

(明治二十三年九月十八日)
(法律第八十四號)

朕命令ノ條項違反ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

命令ノ條項ニ違反スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月七日)
(法律第三十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者喫煙禁止法

第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知りテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナラコトヲ知りテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

懸賞又ハ富籤類似其他射倖方法提供ノ行爲取締方 法人ノ役員處罰ニ關スル法律 未成年者喫煙禁止法 三七

未成年者飲酒禁止法

(大正十一年三月三十日)
法律第二十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得

未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルトキハ之ヲ制止スヘシ

營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得

第二條 未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ變賣其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條 第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ罰金ニ處ス

第四條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リテ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族同居者、

書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ漏洩シ付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ「有期懲役」ニ處ス

第三條 偶然ノ理由ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ傳授又付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ「懲役」ニ處ス

第四條 許可ヲ得シテ軍港要港防禦港又ハ堡壘砲臺水雷砲臺所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量模寫攝影シ又ハ其ノ狀況ヲ録取シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 許可ヲ得シテ軍港要港防禦港又ハ堡壘砲臺水雷砲臺所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物内ニ入りタル者亦前條ノ例ニ同シ

第六條 本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ「未遂犯罪」ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯サントシテ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ同條ノ刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第八條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ其ノ財物ヲ沒收シ既ニ費消シタルトキハ

軍機保護法 防禦海面令

不禮文書臨時取締法

(昭和十一年六月十三日)
法律第四十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル不禮文書臨時取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 軍秩ヲ紊亂シ、財界ヲ擾亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スル目的ヲ以テ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依リ納本ヲ爲サザルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條ノ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依リ納本ヲ爲サザルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ二年以下ノ懲

役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ印刷者印本引渡前ニ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第四條 第一條又ハ第二條ニ該當スルモノト認ムル文書圖書ニ付テハ眞實ノ記載ヲ爲シ又ハ成規ノ納本ヲ爲ス迄地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ其ノ頒布ヲ差止メ必要アリト認ムルトキハ其ノ印本及刻版ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ頒布ヲ差止メラレタル文書圖書ヲ頒布シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍機保護法

(明治三十一年七月十五日)
法律第百四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍機保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第二條 職務ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第三條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第四條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第五條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第六條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第七條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

第八條 軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收束シタル者ハ「重懲役」ニ處シ其ノ輕キモノハ一等ヲ減ス

防禦海面令

(明治三十七年一月二十三日)
軍機保護令第十一號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ防禦海面令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 海軍大臣ハ戰時又ハ事變ニ際シ區域ヲ限リテ本令ニ依リ防禦海面ヲ指定スルコトヲ得其ノ指定及之ヲ解除ハ海軍大臣之ヲ告示ス

第二條 緊急ノ必要アルトキハ鎮守府司令長官、要港部司令官ニ於テ前條ノ指定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ指定及之ヲ解除ハ鎮守府司令長官、要港部司令官之ヲ告示ス

第三條 防禦海面ニ於テハ日没ヨリ日出迄陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第四條 防禦海面ニ屬スル軍港及要港ノ區域内ニ於テハ陸海軍ニ屬スルモノヲ除クノ外

船舶ノ出入及通航ヲ禁ス

第五條 防禦海面ヲ出入スル船舶ハ其ノ航行ニ關シテ本令ニ依リ防禦海面令ノ規定ニ遵守スルコトヲ得

第六條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ必要ト認ムルトキハ防禦海面ニ於ケル漁獵、採礦其ノ他軍事上障害トナルヘキ行為ヲ禁止シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條 鎮守府司令長官、要港部司令官ハ適當ト認メタル船舶ニ對シテ本令ノ禁止又ハ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除コトヲ得

第八條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル船舶ニ對シテハ航路ヲ指定シテ防禦海面外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第九條 第三條乃至第五條ノ規定ニ違背シタル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執レル者ヲ一年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第六條ノ禁止又ハ制限ニ違背シタル者ハ六月以下ノ「重禁錮」又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十七年三月帝國議會承諾)

要塞地帯法

(明治三十二年七月十五日)
法律第百五號

改正、大正四法律一七

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル要塞地帯法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 要塞地帯トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帯ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以內ニ於テ之ヲ定ム

第三條 要塞地帯ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ハ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル力或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地力海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第二章 禁止及制限

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以內及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以內

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以內

第四條 要塞司令官鎮守府司令官要港部司令官及築城部本部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下ノ官僚ヲシテ要塞地帯內及第七條第二項ノ區域內何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地內ニ出入セシメントスルトキハ互ニ官該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域內ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令官官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第七條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以內ノ區域ハ第一區ニ準ス

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯內水陸ノ形狀ヲ測量、掘

影、模寫、錄取シ又ハ要塞地帯內ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帯外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以內ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯內ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ觀察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區內ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノテ左ノ如シ

一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二 窰室及固定窰爐

三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十一條 第一區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノテ左ノ如シ

一 埋葬地

二 水車及風車

三 井

四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋

五 生垣及木造ノ圍牆

六 第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條 第二區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノテ左ノ如シ

一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二 埋葬地

三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條 第一區第二區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋內ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノノ如シ

一 第一區內ニ於テハ高さ五尺、第二區內ニ於テハ高さ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二 第一區內ニ於テハ高さ一丈三尺、第二區內ニ於テハ高さ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區內ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區內ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得

サルモノノ左ノ如シ

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開鑿等

二 溝渠、鹽田、排水及瀆水

三 公園、青樹場、竹木林、菓園及桑茶畑

四 耕作地

第十六條 各區內ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノノ左ノ如シ

一 堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、陸道、永久橋樑

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅二次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸

軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通告ヲ受タル日ヨリ三十日以內ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域內ニ限リ特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合並陸軍要港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地力海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ管該陸軍官廳若ハ海軍官廳力此ノ法律ニ揭クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ揭クル事項

ヲ爲サントスルトキハ要港司令官ノ承認第
十六條ニ掲クニ事項ヲ爲サントスルトキハ
陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章 罰則

第二十二條 第七條第九條ノ禁ヲ犯シタル者
ハ一年以下ノ懲役若ハ二十圓以上ノ拘留又
ハ五十圓以下ノ罰金若ハ二十圓以上ノ科料ニ
處ス第八條ニ依リ要港司令官ニ退去ヲ命セ
ラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ(大正四年
法律第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サント
シテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ
處斷ス(同上本條ヲ改正)
第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及
第十六條ニ違犯シタル者ハ四十圓以下ノ罰
金又ハ二十圓以上ノ科料ニ處ス(同上本條ヲ
改正)
第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ二十圓
以下ノ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
第二十六條 要地帶各區及第七條第二項ノ
區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標本、
標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ
二月以下ノ懲役若ハ二十圓以上ノ拘留ニ處
シ又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ五十圓以上ノ科
料ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二十圓以下
ノ科料ニ處ス(大正四年法律第十七號ヲ以

第四章 雜則

第二十七條 要地帶創設告示ノ當時家屋倉
庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築中
係ルモノハ此ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス
第二十八條 要地帶各區及第七條第二項ノ
區域ヲ標示スル標石、標本若ハ標札ノ類ヲ
建設スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關
シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測
量條例ノ規定ヲ準用ス
第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル
規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ
效力ヲ妨ケルコトナシ
第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號
ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示
ヲ爲シタル箇所ニ限り其ノ效力ヲ失フ

朝鮮刑事令

(明治四十五年三月十八日
敕令 第十一號)

改正 大正六―制令三 大正 九―制令二
大正八―制令一六 大正 一〇―制令三
大正一一―制令一八 昭和四―制令七
昭和一一―制令一四 昭和五―制令八
昭和一一―制令八
第一條 刑事ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法
令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ法
律ニ依ル
一 刑法
一ノ二 昭和五年法律第九號(盜犯等ノ
防止及處分ニ關スル件)
二 刑法施行法
三 爆發物取締罰則
四 明治二十二年法律第三十四號(決闘
罪ニ關スル件)
五 通貨及證券模造取締法
六 明治三十八年法律第六十六號(外國
ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券偽造變
造及模造ニ關スル件)

朝鮮刑事令

七 印紙犯罪處罰法
八 海底電信線保護萬國聯合條約罰則
九 刑事訴訟法
十 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
十一 刑事訴訟費用法
十二 刑事補償法

第二條 前條ノ法律中大審院ノ職務ハ高等法
院、大審院長ノ職務ハ高等法院長、檢事總
長ノ職務ハ高等法院檢事長、檢事長ノ職務
ハ覆審法院檢事長、控訴院檢事ノ職務ハ覆
審法院檢事、地方裁判所檢事及區裁判所檢
事ノ職務ハ地方法院檢事之ヲ行フ
第三條 刑法第七十五條、第七十六條及朝鮮
總督府裁判所令第三條第三項ノ規定ハ王族
ニ付之ヲ準用ス
第四條 朝鮮總督府道知事ハ各其ノ管轄地内
ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ
付地方法院檢事ト同一ノ職權ヲ有ス
第五條 左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐ト
シテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪
ヲ捜査スヘシ
一 警察部長タル朝鮮總督府道事務官
二 朝鮮總督府道警視、道警部、道警部
補
三 憲兵將校、准士官、下士
前項ノ司法警察官ハ檢事ノ職務上發シタル
命令ニ從フ

第六條 裁判所ハ被告人カ其ノ裁判所ノ管轄
區域内ニ在ラサルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ
被告人ノ所在地ヲ管轄スル同等ノ裁判所ニ
移送スルコトヲ得
第七條 官吏、公吏ノ作リタル書類ニシテ形
式ニ瑕疵アルモノハ當該官吏、公吏之ヲ補
正スルコトヲ得
前項ノ補正ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日、
場所及補正ノ事項ヲ附記シテ署名捺印スヘ
シ

第八條 (削除)
第九條 刑事訴訟法第八十二條中二十里トア
ルハ八里、五里トアルハ三里トス
第十條 刑事訴訟法ニ依リ市町村吏員ヲシテ
立會ハシムヘキ場合ニ於テハ府官吏、府邑
面吏員又ハ二人以上ノ相當ナル者ヲシテ立
會ハシムヘシ
第十一條 (削除)
第十二條 檢事ハ刑事訴訟法ニ規定スル場合
ノ外事件禁錮以上ノ刑ニ該リ急速ノ處分ヲ
要スルモノト思料スルトキハ公訴ノ提起前
ニ限リ押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾引、
被疑者若ハ證人ノ訊問、鑑定、通譯又ハ職
權ノ處分ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ檢事ニ許シタル處分ハ司
法警察官亦之ヲ爲スコトヲ得
刑事訴訟法第八十七條第一項、第八十八條

第四百三十一條ノ規定ハ前二項ノ被疑者ノ
 勾引ニ、刑事訴訟法第百三十三條乃至第
 百三十五條中檢事又ハ司法警察官ノ爲ス處分ニ
 關スル規定ハ前二項ノ證人ノ訊問、鑑定、
 通譯又ハ翻譯ノ處分ニ付之ヲ準用ス
 第十三條 司法警察官ハ前條第二項ノ規定ニ
 依リ被疑者ヲ訊問シタル後刑事訴訟法第八
 十七條第一項各號ニ規定スル事由アリト思
 料スルトキハ十日ヲ超エサル期間之ヲ留置
 スルコトヲ得
 司法警察官ハ前項ノ留置期間内ニ書類及證
 據物ト共ニ被疑者ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ
 相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ
 前二項ノ規定ハ司法警察官カ刑事訴訟法第
 百二十七條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シ禁
 錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料スル場合ニ之
 ヲ準用ス
 第十四條 檢事ハ第十二條ニ規定スル處分ヲ
 他ノ檢事又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託
 スルコトヲ得
 司法警察官ハ前項ノ處分ヲ他ノ司法警察官
 ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得
 司法警察官他ノ司法警察官ノ命令又ハ囑託
 ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合
 ニ於テハ刑事訴訟法第百二十八條ノ規定ニ
 準シ之ヲ命令シ又ハ囑託シタル司法警察官
 ニ被疑者ヲ送致スヘシ

第十五條 檢事ハ第十二條ノ規定ニ依リ被疑
 者ヲ訊問シタル後刑事訴訟法第九十條第一
 項ニ規定スル理由アリト思料スルトキハ之
 ヲ勾留スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ刑事
 訴訟法第九十一條及第三百三十一條ノ規定ヲ
 準用ス
 檢事前項ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル
 場合ニ於テ十日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ
 ハ勾留ヲ取消スヘシ
 檢事被疑者ヲ勾留シタルトキハ更ニ刑事訴
 訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ勾留ヲ請
 求スルコトヲ得ス
 第十六條 刑事訴訟法第百三十三條中二月トア
 ルハ三月、一月毎トアルハ二月毎トス
 第十七條 裁判所又ハ豫審判事ハ必要ト認ム
 ルトキハ司法警察官ヲシテ檢證ヲ爲サシメ
 又ハ鑑定ヲ命セシムルコトヲ得此ノ場合ニ
 於テ鑑定ニ付テハ刑事訴訟法第一編第十四
 章中司法警察官ノ爲ス處分ニ關スル規定ヲ
 準用ス
 第十八條乃至第二十二條 (削除)
 第二十三條 通譯官、通譯生又ハ書記ヲ通事
 又ハ翻譯人ト爲ス場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サ
 シムルコトヲ要セス
 第二十四條 職權ヲ以テ附スヘキ辯護人ハ辯
 護士又ハ司法官試補ニ非サル者ヲ以テ之ニ
 充ツルコトヲ得

第二十五條 刑事訴訟法第三百三十四條ノ規
 定ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事
 件ニ限り之ヲ適用ス
 第二十六條 判事單獨ニテ有罪ノ言渡ヲ爲シ
 タル判決ニ付テハ證據ニ關スル理由ヲ省略
 スルコトヲ得
 刑事訴訟法第三百六十一條ノ規定ハ之ヲ適
 用セス
 第二十七條 檢事又ハ辯護人ハ被告人、證人
 鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ詢問スルコトヲ
 必要トスルトキハ其ノ訊問ヲ裁判長ニ請求
 スヘシ
 第二十八條乃至第三十條 (削除)
 第三十一條 刑事訴訟法第四百二十二條中五
 十日トアルハ三十五日トス
 第三十二條乃至第三十六條 (削除)
 第三十七條 略式命令ヲ受ケタル者ハ正式裁
 判ヲ請求ヲ拋棄スルコトヲ得
 第三十八條 刑事訴訟法第五百四十五條中市
 町村長トアルハ府尹又ハ邑面長トス
 第三十八條ノ二 第十二條乃至第十五條ノ規
 定ニ依リ拘禁ハ之ヲ刑事補償法第一條第一
 項ニ規定スル未決勾留ト看做ス
 前項ノ規定ニ依リ第十三條ノ規定ニ依リ留
 置ヲ未決勾留ト看做ス場合ニ於テハ補償ハ
 現ニ爲シタル留置ノ日數ニ對シテ之ヲ爲ス
 第三十九條 朝鮮民事令第二條乃至第四條、

第六條、第九條、第十六條、第十七條及第
 三十二條ノ規定ハ刑事ニ付之ヲ準用ス但シ
 朝鮮民事令第二條中前條並同令事三條、第
 四條、第六條及第十六條中第一條トアルハ
 本令第一條ニ該當ス
 附則
 第四十條 本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ
 之ヲ施行ス
 第四十一條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス
 一 刑法大全
 二 鐵道事項犯罪人處斷例
 三 刑事裁判費用規則
 第四十二條 本令施行後仍効力ヲ有スル舊韓
 國法規ノ刑ハ左ノ例ニ從ヒ本令ノ刑名ニ變
 更ス但シ刑ノ期間又ハ金額ハ此ノ限ニ在ラ
 ス
 舊韓國法規ノ刑
 死刑 本令ノ刑 死刑
 終身刑 無期懲役
 終身流刑 無期禁錮
 十五年以下ノ役刑 有期懲役
 十五年以下ノ流刑又ハ禁刑 有期禁錮
 罰金 有期禁錮
 拘留 有期禁錮
 科料 拘留
 沒收 沒收
 刑入 沒收
 二十日以下

第四十三條 本令施行前舊韓國法規ノ刑ニ處
 セラレタル者ハ前條ノ例ニ照シ之ヲ本令ノ
 刑ニ處セラレタル者ト看做ス
 前項ノ場合ニ於テハ管刑ニ處セラレタル者
 ニ付テハ管五ヲ以テ拘留一日ニ換フ
 第四十四條 舊韓國法規ニ依リ許シタル假放
 ハ之ヲ假出獄ト看做ス
 第四十五條 本令施行前ニ罪ヲ犯シ未タ確定
 判決ヲ經サル者ニ付テハ本令ニ依リ之ヲ處
 斷ス
 第四十六條 本令施行前既ニ爲シタル上告ハ
 從前ノ手續ニ依リ之ヲ完結ス
 第四十七條 朝鮮民事令第七十九條ノ規定ハ
 刑事ニ之ヲ準用ス
 附則 (大正六年十二月制令第三號)
 本令ハ大正六年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前ニ朝鮮刑事令第四十一條第二項ノ
 罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ付テハ朝
 鮮刑事令ニ依リ之ヲ處斷ス

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ行政官廳
 ノ許可ヲ受ケヘシ
 第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ
 罌粟ノ栽培ヲ爲スコトヲ得ス
 行政官廳ノ許可ヲ受ケ學術研究又ハ觀賞ノ
 爲罌粟ノ栽培ヲ爲ス者ニ付テハ前項ノ規定
 ヲ適用セス
 第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ罌粟栽
 培ノ區域ハ朝鮮總督之ヲ告示ス
 第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ノ製造シ
 タル阿片ハ行政官廳ノ指定スル期日迄ニ毎
 年政府ニ之ヲ納付スヘシ
 前項ノ規定ニ依リ納付シタル阿片ニ對シテ
 ハ賠償金ヲ交付ス但シ「モルヒネ」含量所
 定ノ度ニ達セサルモノハ無償ニテ之ヲ燒却
 スルコトアルヘシ
 第五條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封
 緘ヲ施シ之ヲ賣下ケ又ハ交付ス
 阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタ
 ルモノニ非サレハ之ヲ賣買、授受、所有又
 ハ所持スルコトヲ得ス
 第六條 (削除)
 第七條 (削除)
 第八條 醫藥用阿片ハ醫藥用阿片販賣人ニ之
 ヲ賣下ケ
 醫藥用阿片販賣人ハ藥劑師及藥種商中相當
 ノ人員ヲ限リ行政官廳之ヲ指定ス

朝鮮阿片取締令

(大正八年六月制令一十五號)
 改正大正一四一 大正一五 昭和五
 制令一三 制令五

第九條 醫師、醫生、齒科醫師、獸醫、藥劑師又ハ製藥者醫藥用阿片ヲ要スルトキハ行政官廳ノ證明ヲ受ケ醫藥用阿片販賣人ニ賣渡ヲ請求スヘシ

官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ニ於テ醫藥用阿片ヲ要スルトキハ第十四條ノ規定ニ依ル場合ノ外醫藥用阿片販賣人ニ賣渡ヲ請求スヘシ

醫藥用阿片販賣人販賣用ノ阿片ヲ販賣ノ目的以外ニ供セムトスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十條 醫藥用阿片ハ前條第一項、第二項若ハ第十六條但書ノ規定ニ依ル場合又ハ朝鮮總督別段ノ規定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外醫師、醫生、齒科醫師又ハ獸醫ノ處方箋ヲ以テスルニ非サルハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十一條 醫藥用阿片販賣人ハ第九條第一項及第二項ノ規定ニ依リ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ醫藥用阿片ノ賣渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ超エテ醫藥用阿片ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十三條 醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ノ容器ヲ開封シ若ハ改裝シ又ハ封緘ヲ破毀スルコトヲ得ス

醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル醫藥用阿片ニシテ封緘ノ無効ト爲リタルモノ又ハ容器ヲ改裝シタルモノヲ販賣スルコトヲ得ス

第十四條 官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ交付ヲ受ケヘシ

第十五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ醫藥用阿片販賣人ノ指定ヲ受ケタル者阿片煙又ハ阿片ニ關シ犯罪其ノ他ノ不正ノ行爲アリタルトキハ行政官廳ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

第十六條 醫藥用阿片販賣人死亡シ、廢業シ營業ヲ禁止若ハ停止ノ處分ヲ受ケ又ハ前條ノ規定ニ依リ指定ヲ取消サレタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ阿片ノ買戻ヲ請求スヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケ阿片ヲ他ノ醫藥用阿片販賣人ニ讓渡スルコトヲ得

第十七條 第四條第二項ノ規定ニ依リ交付スヘキ阿片ノ賠償金ノ額、同條同項但書ノ規定ニ依ル「モルヒネ」含量ノ度及第八條第一項ノ規定ニ依リ醫藥用阿片ヲ醫藥用阿片販賣人ニ賣下クル價格ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シ又ハ

第二條第一項ノ規定ニ違反シ罌粟ノ栽培ヲ爲シタル者

二 第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三 政府ニ納付スヘキ阿片ヲ納付セサル者前項ノ場合ニ於テ犯人以外ノ者ニ罰セサル阿片ハ之ヲ沒收ス犯人ノ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス犯人以外ノ者ニ罰スル阿片ハ行政官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ第一條ノ醫藥栽培ノ區域ノ外ニ於テ罌粟ヲ栽培シタルモノ

二 第二條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ罌粟ヲ栽培シタル者

三 第四條第一項ノ期日迄ニ阿片ヲ納付セザル者

四 第九條第三項、第十條乃至第十二條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者

第二十條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ大正元年制令第四號第二條及第三條ノ規定ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テハ懲役ニ處スルコトヲ得ス

附則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(大正八年府令第一〇號ヲ以テ同年六月十五日ヨリ

施行

本令施行ノ際現ニ阿片製造ノ目的ヲ以テ罌粟ノ栽培ヲ爲ス者ハ其ノ栽培ノ罌粟ニ付第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ醫師、醫生、齒科醫師、獸醫又ハ藥劑師ノ所持スル醫藥用阿片ハ本令ニ依リ政府ニ於テ賣下ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ前項ノ醫藥用阿片以外ノ阿片ヲ所持スル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ政府ニ之ヲ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第四條第二項及第十七條乃至第二十條ノ規定ヲ準用ス

朝鮮阿片取締令施行規則
(大正八年六月 府令第百一十一號)

改正大正一四一 大正一五一 昭和五六一
府令七七 府令七九 府令五六

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ道知事ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ罌粟栽培地ヲ變更シ又ハ其ノ面積ヲ增加セムトスルトキ亦同シ

一 本籍、住所、氏名、職業、生年月日

二 罌粟栽培地ノ府面町洞里名、地番、地目及面積

第二條 朝鮮阿片取締令第二條第二項ノ許可

ヲ受ケムトスル者ハ罌粟栽培地ノ府面町洞里名、地番、地目、面積及栽培ノ目的ヲ具シ道知事ニ願出ツヘシ

第三條 阿片製造人罌粟ヲ播種シタルトキハ栽培地ノ府面町洞里名、地番、地目及面積ヲ十日内ニ警察署長ニ届出ツヘシ

第四條 阿片製造人ハ罌粟栽培地一箇所毎ニ町洞里名、地番、面積及阿片製造人ノ住所氏名ヲ記載シタル標木ヲ建ツヘシ

第五條 阿片製造人罌粟ノ乳液ヲ採取セムトスルトキハ三日前途ニ採取着手ノ時期、阿片ノ製造ヲ終リタルトキハ十日内ニ其ノ數量ヲ警察署ニ届出ツヘシ

第六條 阿片製造人ハ製造シタル阿片ヲ鎖鑰ノ設備アル場所又ハ容器ニ貯藏スヘシ

第七條 阿片製造人納付スヘキ阿片ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ警察署ニ届出ツヘシ

第八條 朝鮮阿片取締令第四條ノ納付期日ハ道知事之ヲ告示ス

第九條 阿片製造人ハ阿片ヲ朝鮮總督府專賣局ニ納付スヘシ

阿片製造人阿片ヲ納付セムトスルトキハ現品ニ納付書ヲ添ヘ警察署ニ差出スヘシ

納付ノ阿片ニハ其ノ量目及本人ノ住所、氏名ヲ明記セル木札ヲ附スヘシ

第十條 阿片製造人廢業若ハ死亡シ又ハ阿片

製造ノ許可ヲ取消サレタルトキハ既製ノ阿片ハ十日内ニ納付スヘシ死亡ノ場合ニ於テハ死者ノ相続人、相続人未定又ハ不在ナルトキハ財產ヲ管理スル者又ハ納付スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ阿片ノ納付ニ付之ヲ準用ス

第十一條 阿片製造人又ハ朝鮮阿片取締令第二條第二項ノ許可ヲ受ケタル者本籍、住所氏名ヲ變更シ若ハ死亡シタルトキ又ハ阿片製造人廢業シタルトキハ十日内ニ道知事ニ届出ツヘシ

前項ニ依リ死亡ノ届出ハ戶籍法又ハ朝鮮戶籍令ニ依ル届出義務者之ヲ爲スヘシ

第十二條 乃至第十五條 (削除)

第十六條 醫藥用阿片販賣人ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ道知事ニ申請スヘシ

第十七條 政府ニ於テ賣下ケタル醫藥用阿片ノ容器ハ第一號(五グラム)第二號(二十グラム)第三號(五十グラム)第四號(一百二十グラム)及第三號(四百五十グラム)ノ三種トシ每器別ニ定ムル定價ヲ附記シ政府ノ封緘紙ヲ貼附ス

第十八條 醫藥用阿片販賣人ハ政府ノ會計年度ノ始ヨリ三箇月毎ニ賣下ヲ受ケヘキ阿片ノ數量ヲ豫定シ容器ノ種類、員數ヲ記シ朝鮮總督府專賣局長ニ請求スヘシ但シ缺乏ノ場合ハ臨時請求スルコトヲ得

第十九條 朝鮮阿片取締令第九條第一項ノ證

明ヲ受ケムトスル者ハ容器ノ種類、員數及用途ヲ具シ且ツ警察署ニ申請スヘシ
 前項ノ規定ハ醫藥用阿片販賣人朝鮮阿片取締令第九條第三項ノ許可ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス
 第二十條 醫藥用阿片販賣人醫藥用阿片ヲ賣渡サムトスルトキハ買受人ヨリ前條第一項ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル證明書ヲ徵スヘシ
 前項ノ證明書ハ十年間之ヲ保存スヘシ
 第二十一條 醫藥用阿片販賣人ハ店頭ニ醫藥用阿片販賣所ト書シタル看板ヲ掲クヘシ
 第二十二條 醫藥用阿片販賣人ハ帳簿ヲ備ヘ醫藥用阿片ノ受拂高買受人ノ住所、氏名及職業ヲ記載スヘシ
 前項ノ帳簿ハ五年間之ヲ保存スヘシ
 第二十三條 醫藥用阿片販賣人ハ毎年度ノ醫藥用阿片受拂表ヲ作成シ年度經過後一月内ニ朝鮮總督府專賣局長ニ差出スヘシ
 第二十四條 醫藥用阿片販賣人ヲ指定シ又ハ其ノ指定ヲ取消シタルトキハ通知事ハ其ノ住所、氏名ヲ告示スヘシ醫藥用阿片販賣人住所、氏名ヲ變更シ又ハ廢業若ハ死亡シタルトキ亦同シ
 醫藥用阿片販賣人朝鮮阿片取締令第十六條ノ規定ニ依リ阿片ノ買戻ヲ請求セントスルトキハ其ノ事由發生ノ日ヨリ十日内ニ朝鮮

總督府專賣局長ニ之ヲ請求ヲ爲スヘシ
 朝鮮阿片取締令第十六條第二項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ容器ノ種類、員數及買受人ノ住所氏名ヲ具シ警察署長ニ申請スヘシ
 醫藥用阿片販賣人死亡ノ場合ニ於ケル買戻ノ請求及前項ノ規定ニ依ル申請ハ其ノ相続人、相続人未定又ハ不在ナルトキハ被相続人ノ財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ
 第二十五條 官廳又ハ官立ノ病院若ハ學校ニ於テ朝鮮阿片取締令第十四條ノ規定ニ依リ阿片ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ品目、數量及用途ヲ具シ朝鮮總督府專賣局長ニ請求スヘシ
 前項ニ依リ交付スヘキ阿片ノ價格ハ定價ヲ附スルモノヲ除クノ外朝鮮總督府專賣局長之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ無償ニテ交付スルコトアルヘシ
 第二十六條 第一條、第二條、第十一條、第十六條、第十八條、第二十三條又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮總督府專賣局長又ハ通知事ニ差出スヘキ書類ハ警察署ヲ經由スヘシ但シ第一條、第二條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ警察署栽培地カニ以上ノ警察署ノ區域ニ五ルトキハ主タル栽培地ヲ管轄スル警察署ヲ經由スヘシ
 第二十七條 第二十條又ハ第二十二條ニ違反

シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第二十八條 第三條、第五條乃至第七條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第二十九條 第四條、第十一條、第二十一條又ハ第二十三條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
 附則
 本令ハ朝鮮阿片取締令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 朝鮮阿片取締令附則第二項ニ該當スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以内ニ警察署栽培地ノ府面町洞里名、地番、地目及面積ヲ具シ警察部長ニ届出ツヘシ
 朝鮮阿片取締令附則第四項ノ阿片ハ同令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ納付スヘシ
 第九條ノ規定ハ前項ノ阿片ノ納付ニ付之ヲ準用ス
 第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第一條 本令ニ於テ麻藥ト稱スルハ左ノ各號ニ掲ケル物ヲ謂フ
 (昭和十年四月制令第六)

朝鮮麻藥取締令

一 モルヒネ及ヂアセチルモルヒネ其ノ他ノモルヒネエステル其ノ鹽類
 二 粗製モルヒネ、コカ葉及製製コカイ
 三 エクゴニン(比旋光度ノ如何ヲ問ハズ)及コカイン其ノ他ノエクゴニンエステル其ノ鹽類
 四 デヒドロオキシコデイノン、デヒドロコデイノン、デヒドロモルヒノン、アセチルデヒドロコデイノン、デヒドロモルヒネ及其ノエステル其ノ鹽類
 五 コデイン、エチルモルヒネ、ベンジルモルヒネ其ノ他ノモルヒネエステル及其ノ鹽類
 六 モルヒネエヌオキシ其ノ他ノ五價窒素モルヒネ及其ノ誘導體
 七 デヒドロコデイン、テバイン及其ノ鹽類
 八 モルヒネ、モルヒネエステル(ヂアセチルモルヒネヲ除ク)若ハモルヒネエーテル(コデインヲ除ク)ヲ千分中二分以上檢出シ又ハヂアセチルモルヒネヲ檢出スル物
 九 エクゴニン又ハコカイン其ノ他ノエクスゴニンエステルヲ千分中一分以上檢出スル物

十 デヒドロオキシコデイノン、デヒドロコデイノン、デヒドロモルヒノン、アセチルデヒドロコデイノン、デヒドロモルヒネ若ハ其ノエステル又ハ五價窒素モルヒネ若ハ其ノ誘導體ヲ千分中二分以上檢出スル物
 十一 印度大麻草、其ノ樹脂及之ヲ含有スル物
 十二 朝鮮總督ノ指定スル物
 前項第一號乃至第十一號ニ該當スル物ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノニ付テハ本令ヲ適用セズ
 第二條 本令ニ於テ醫藥者ト稱スルハ醫師、醫生、齒科醫師及獸醫師ヲ謂ヒ藥業者ト稱スルハ藥劑師、藥種商及製業者ヲ謂フ
 第三條 朝鮮總督ノ指定スル麻藥ハ政府ノ外之ヲ製造、輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ但シ學術研究ノ用ニ供スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第四條 前條ニ規定スル麻藥ハ朝鮮總督ノ指定スル麻藥元賣捌人ニ之ヲ賣下ク
 官廳、官公立ノ病院若ハ學校又ハ道ハ前條ニ規定スル麻藥ノ賣下又ハ交付ヲ受ケルコトヲ得
 第五條 麻藥ヲ輸出若ハ移出セントスル者、第三條ニ規定スル麻藥以外ノ麻藥ヲ製造輸入若ハ移入セントスル者又ハ學術研究ノ用

ニ供スル爲同條ニ規定スル麻藥ヲ製造輸入若ハ移入セントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケヘシ
 第六條 外國貨物タル麻藥ヲ陸揚、積換、積戻又ハ運送セントスル者ハ税関手續ヲ爲ス際送荷ニ添送セル輸出許可證又ハ轉向證明書ノ原本ヲ税関長ニ提示スベシ外國貨物タル麻藥ヲ通過セシメントスル者亦同シ
 前項ノ規定ハ郵便ニ依リ輸送ニハ之ヲ適用セズ
 第一項ノ麻藥ハ其ノ輸出許可證又ハ轉向證明書ノ原本ニ記載シタル仕向地ト異ナル場所ニ輸送シ又ハ税関長ノ許可ヲ受ケズシテ荷造ノ變更其ノ他ノ操作ヲ爲スコトヲ得ズ
 第七條 麻藥ハ本令ニ別段ノ規定アル場合及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス
 一 醫藥者カ診療ノ爲又ハ藥劑師ガ醫藥者ノ處方箋ニ依リ患者又ハ家畜ノ所有者若ハ保管者ニ讓渡ス場合
 二 麻藥元賣捌人又ハ藥業者ヨリ醫藥者、藥業者又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ學術研究上若ハ業務上麻藥ヲ必要トスル者ニ讓渡ス場合
 三 麻藥元賣捌人又ハ藥業者ヨリ官廳、官公立ノ病院若ハ學校又ハ道ニ讓渡ス場合

第八條 麻藥元賣捌人、醫業者、業業者又ハ前條第二號ノ業務上麻藥ヲ必要トスル者死亡シ、廢業シ其ノ他業務ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキノ麻藥ノ處分ニ付必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第九條 當該官吏取締上必要アリト認ムルトキハ工場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シテ麻藥、帳簿、書類其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スベシ

第十條 朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ麻藥ノ製造、輸入、移入輸出若ハ移出ヲ禁止若ハ制限シ又ハ其ノ許可若ハ第四條第一項ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第十一條 朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ通知事ニ委任スルコトヲ得

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲 又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第五條ノ許可ヲ受ケスシテ麻藥ヲ輸出又ハ移出シタル者

三 第五條ノ許可ヲ受ケスシテ第三條ニ規定スル麻藥以外ノ麻藥ヲ製造、輸入又ハ移入シタル者(第十四條第一號ニ該當スル者ヲ除ク)

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五條ノ許可ヲ受ケスシテ學術研究ノ用ニ供スル爲メ麻藥ヲ製造、輸入又ハ移入シタル者

二 第六條第一項ノ規定ニ違反シ輸出許可證若ハ轉向證明書ノ謄本ヲ稅關長ニ提示セスシテ外國貨物タル麻藥ノ陸揚積換積戻運送ヲ爲シ若ハ之ヲ通過セシメタル者

又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ處偽ノ陳述ヲ爲シ其ノ他當該官吏ノ爲シタル處分ニ違反シタル者

第十五條 第十二條、第十三條又ハ前條第一號ノ場合ニ於テ犯人以外ノ者ニ關セサル麻藥ハ之ヲ沒收ス犯人ノ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第十六條 醫業者、業業者又ハ第七條第二號ノ業務上麻藥ヲ必要トスル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十七條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ罰則ヲ適用スヘキ者法人ナルトキハ理事、取締役、其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和十年府令第九十八號)以テ同年九月一日ヨリ施行

本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮麻藥取締令施行規則

昭和十年八月 府令第九九號

第一條 朝鮮麻藥取締令(以下單ニ取締令ト稱ス)第四條ノ規定ニ依リ賣下又ハ交付スル麻藥ハ一定ノ容器ニ納メ定價ヲ附シ政府ニ於テ之ニ封緘ヲ施ス

前項ノ麻藥ハ政府ノ封緘ヲ施シタルモノニ非サレハ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ取締令第七條第一號ノ規定ニ依リ讓渡ス場合又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依リ讓渡ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ容器ノ種類及定價ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締令第四條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ賣下又ハ交付シタル麻藥ヲ所有スル者ハ專賣局長ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得

一 封緘紙ノ毀損若ハ亡失シタルトキ又ハ容器ノ破損シタルトキ

二 前號ノ外政府ニ於テ販賣ニ適セズト認ムルトキ

前項又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依リ買戻ス場合ノ價格ハ專賣局長之ヲ定ム

第三條 取締令第四條第一項ノ麻藥元賣捌人ハ藥劑師及藥種商中ヨリ之ヲ指定ス

前項ノ指定ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一 本籍、住所、職業氏名(法人ニ在リテハ主たる事務所ノ所在地及名稱並ニ

代表者ノ住所及氏名以下之ニ同シ)並ニ商號

二 業務所ノ所在地

麻藥元賣捌人前項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ朝鮮總督ニ届出テ同項第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 麻藥元賣捌人、官廳、官公立ノ病院若ハ學校又ハ道ニ於テ取締令第四條ノ規定ニ依リ麻藥ヲ賣下又ハ交付ヲ受ケントスルトキハ麻藥ノ名稱、數量及容器ノ種類ヲ具シ專賣局長ニ請求スヘシ

第五條 取締令第五條ノ規定ニ依リ學術研究ノ用ニ供スル爲メ麻藥ヲ製造ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ製造ノ場所ヲ管轄スル道知事ニ申請スヘシ

一 本籍、住所、職業及氏名

二 製造ノ場所

三 麻藥ノ名稱

四 原料ノ種類

五 研究ノ目的

六 製造期間

七 製造擔任者ノ氏名及資格

八 製造確定及數量

前項ノ許可ヲ受ケタル後同項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ道知事ニ届出テ同項第二號乃至第八號ノ事項ヲ變更セ

第六條 取締令第五條ノ規定ニ依リ販賣ノ用ニ供スル爲メ麻藥ヲ製造ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スベシ

一 本籍、住所、職業及氏名並ニ商號

二 製造所及業務所ノ所在地

三 麻藥ノ名稱

四 原料ノ種類及其ノ取得方法

五 製造及貯蔵ニ使用スル建造物ノ位置構造及之ヲ示スヘキ圖面並ニ設備

六 製造擔任者ノ氏名及資格

七 一年間ノ製造及原料受人ノ豫定數量

前項ノ許可ヲ受ケタル後同項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ朝鮮總督ニ届出テ同項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ヲ輸出又ハ移出ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ仕向地當該官吏ノ發行ニ係ル輸入、移入又ハ保税倉庫搬入ノ許可證明書ヲ添ヘ總督ニ申請スヘシ

一 本籍、住所、職業及氏名又ハ商號

二 業務所ノ所在地

三 麻藥ノ名稱及數量

四 荷受人ノ氏名(法人ニ在リテハ名稱以下之ニ同シ)又ハ商號及業務所ノ所

在地
 五 輸出又ハ移出ノ期間
 六 輸出ノ方法
 七 輸出又ハ移出ノ港名又ハ地名(郵便ニ依ル場合ニ在リテハ郵便局所名)
 八 前項ノ許可ヲ受ケタル後同項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ朝鮮總督ニ届出テ同項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ許可ヲ受ケヘシ
 九 第一項ノ許可ヲ爲シタルトキハ輸出許可證及其ノ謄本又ハ移出許可證ヲ下付ス
 十 前項ノ輸出許可證ノ謄本ハ其ノ送荷ニ添送シ送荷ニハ該謄本ノ番號ヲ附記スヘシ
 第十一條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ノ輸入又ハ移入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スベシ
 一 本籍、住所、職業及氏名又ハ商號
 二 業務所ノ所在地
 三 麻藥ノ名稱及數量
 四 輸入又ハ移入ノ目的
 五 出荷人ノ氏名又ハ商號及業務所ノ所在地
 六 輸入又ハ移入ノ期間
 七 輸送ノ方法
 八 輸入又ハ移入ノ港名又ハ地名(郵便ニ依ル場合ニ在リテハ郵便局所名)
 九 前項ノ許可ヲ受ケタル後同項第一號ノ事項

ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ朝鮮總督ニ届出テ同項第二號乃至第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ許可ヲ受ケヘシ
 第一項ノ許可ヲ爲シタルトキハ輸入又ハ移出ノ許可證及許可證明書ヲ下付ス
 第九條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ヲ輸出又ハ移入セントスル者ハ輸出又ハ輸入ノ申告ノ際輸出又ハ輸入ノ許可證ヲ稅關長ニ提示スヘシ
 第十條 取締令第六條第三項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ稅關長ニ申請スヘシ
 一 麻藥ノ名稱及數量
 二 出荷人及荷受人ノ業務所ノ所在地及氏名又ハ商號
 三 仕出地及仕向地
 四 荷造ノ變更其ノ他ノ操作ヲ爲サントスル事由及其ノ方法
 第十一條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ヲ輸出、移出、輸入又ハ移入シタル者ハ輸出又ハ移出ノ場合ニ在リテハ輸出又ハ移出ノ許可證ヲ、輸入ノ場合ニ在リテハ輸入許可證及送荷ニ添送シタル輸出許可證又ハ轉向證明書ノ謄本ヲ、移入ノ場合ニ在リテハ輸入許可證ヲ添ヘ十日以内ニ輸出、移出、輸入又ハ移入ノ年月日及輸出、移出、輸入ノ具シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十二條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ノ輸出、移出、輸入又ハ移入ノ許可ヲ受ケタル者輸出、移出、輸入又ハ移入ヲ爲ササルトキハ許可ヲ受ケタル期間満了後十日以内ニ輸出ノ場合ニ在リテハ輸出許可證及其ノ謄本、移出ノ場合ニ在リテハ移出許可證、輸入又ハ移入ノ場合ニ在リテハ輸入又ハ移入ノ許可證及許可證明書ヲ朝鮮總督ニ返納スヘシ
 第十三條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ヲ製造、輸入若ハ移入シテ販賣スル者又ハ之ヲ小分シテ販賣スル者ハ麻藥ノ容器又ハ被包ニ業務所ノ所在地及氏名又ハ商號ヲ記載スルノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 取締令第一條第一項各號ニ該當スル麻藥ニ在リテハ麻藥ノ字
 二 取締令第一條第一項第一號、第三號又ハ第四號ニ該當スル麻藥ニシテ五瓦以上ヲ内容トスルモノニ在リテハ製造、輸入、移入又ハ小分ノ年月日及年別追番號
 三 取締令第一條第一項第八號乃至第十號又ハ第十二號ニ該當スル麻藥(日本藥局方ニ記載アル藥品ヲ除ク)ニ在リテハ之ニ含有スル麻藥タルアルカロイドノ量
 移入シタル麻藥ニシテ前項第一號又ハ第三

號ニ該當スル事項ノ記載アルモノニ付テハ同號ノ事項ノ記載ヲ、製造、輸入又ハ小分ノ年月日及年別追番號ノ記載アルモノニ付テハ移入ノ年月日及年別追番號ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
 第十四條 取締令第七條第二號ノ規定ニ依リ麻藥ヲ販賣元賣捌人又ハ業者ヨリ醫業者又ハ業者ニ讓渡スル場合ニ於テハ讓受人ノ住所、職業及氏名、麻藥ノ名稱及數量並ニ讓受人ノ目的及年月日ヲ記載シ之ニ捺印シタル證書ヲ徵スヘシ
 第十五條 前項ノ證書ハ別ニ指定スル麻藥ヲ讓渡スル場合ヲ除ク外讓受人ノ住所又ハ業務所ノ所在地ヲ管轄スル警察署長ヨリ醫業者又ハ業者タルコトノ證明ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス
 第十六條 證書ハ五年間之ヲ保存スヘシ
 第十七條 取締令第七條第二號ノ規定ニ依リ麻藥ヲ販賣元賣捌人又ハ業者ヨリ學術研究上又ハ業務上麻藥ヲ必要トスル者ニ讓渡ス場合ニ於ケル藥品及藥品營業取締令第七條第二項ノ證書ハ前條第二項ノ規定ニ準シ警察署長ノ證明ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス
 第十八條 麻藥元賣捌人、醫業者、業者又ハ取締令第七條第二號ノ業務上麻藥ヲ必要トスル者死亡(法人ニ在リテハ解散以下之

ニ同シ)シ、廢業シ其ノ他業務ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ三十日以内ニ其ノ所有スル麻藥ノ名稱及數量ヲ具シ其ノ住所又ハ業務所ノ所在地ヲ管轄スル警察署長ニ願出テ其ノ許可ヲ受ケ其ノ指示スル期間内ニ醫業者又ハ業者ニ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ其ノ所有スル麻藥取締令第四條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ賣下又ハ交付シタルモノナルトキハ警察署長ノ指示スル期間内ニ專賣局長ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ讓渡シ又ハ買戻ヲ受ケタル麻藥以外ノ麻藥ハ使用スルコト能ハサル状態ト爲シ之ヲ廢業スヘシ
 第十九條 第一項ニ掲ケル者死亡シタル場合ニ於ケル前項ノ處分ハ其ノ相続人、家族又ハ財産ヲ管理スル者(法人ニ在リテハ清算人)以下之ニ同シ)ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 第二十條 當該官吏取締令第九條ノ規定ニ依リ職務ヲ執行スル場合ハ別記様式ノ證書ヲ携帶スヘシ
 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締令第十條ノ規定ニ依リ麻藥ノ製造、輸入、移出、輸出若ハ移出ヲ禁止若ハ制限シ又ハ其ノ許可若ハ取締令第四條第一項ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ
 一 麻藥又ハ阿片ニ關シ犯罪其ノ他不正

ノ行爲アリタルトキ
 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 三 故ナク一年以上ノ許可若ハ指定ヲ受ケタル業務ヲ開始セス又ハ業務開始後一年以上ノ休息シタルトキ
 四 麻藥取締令必要アリト認ムルトキ
 第二十二條 取締令第四條第一項ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケタル者又ハ同令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ノ製造、輸出、移出、輸入又ハ移入ノ許可ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相続人、家族又ハ財産ヲ管理スル者ニ於テ十日以内ニ指定又ハ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ
 第二十三條 取締令第五條ノ規定ニ依リ麻藥ヲ製造ノ場合ニ於テハ製造ノ許可ヲ受ケタル者廢業シタルトキハ十日以内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ
 第二十四條 取締令第五條ノ規定ニ依リ販賣ノ用ニ供スル麻藥ノ製造ノ許可ヲ受ケタル者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ各號ノ事項ヲ記入スヘシ
 一 受人レタル麻藥ノ名稱及數量、受人ノ年月日及受人先ノ業務所ノ所在地、職業及氏名又ハ商號
 二 使用シタル麻藥ノ名稱及數量並ニ使用年月日
 三 製造シタル麻藥ノ名稱及數量並ニ製造年月日

四 拂出シタル麻藥ノ名稱及數量、拂出年月日並ニ拂出先ノ業務所ノ所在地、職業及氏名又ハ商號

五 麻藥ノ容器又ハ被包ニ記載セル年別追番號

第二十一條 販賣ノ用ニ供スル麻藥原料トシテ麻藥ニ非ザル物(取締令第一條第二項ノ規定ニ依リ指定スル物ヲ含ム)ヲ製造スル者ハ帳簿ヲ備ヘ前條第一號、第二號及第五條ノ事項並ニ製品ノ名稱、數量及製造年月日ヲ記入スヘシ

第二十二條 鑑定師及藥種商ハ帳簿ヲ備ヘ第二十一條第一號、第四號及第五號ノ事項ヲ記入スヘシ但シ醫業者ノ處方箋ニ依リ讓渡ス麻藥及第十四條第二項ニ規定スル麻藥ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 醫業者ハ帳簿ヲ備ヘ第二十條第一號及第五號ノ事項ヲ記入スヘシ但シ第十四條第二項ニ規定スル麻藥ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ入齒營業者ニ之ヲ適用ス

第二十四條 第二十條乃至前條ノ帳簿ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第二十五條 取締令第五條ノ規定ニ依リ販賣ノ用ニ供スル麻藥ノ製造ノ許可ヲ受ケタル者ハ毎年一月乃至三月、四月乃至六月、七月乃至九月、十月乃至十二月ノ各期間末

現在ニ依リ左ノ各號ノ事項ヲ具シ其ノ期間満了後二十日以内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

一 製造シタル麻藥ノ名稱及數量

二 拂出シタル麻藥ノ名稱及數量

三 現在スル麻藥ノ名稱及數量

四 受人及使用シタル原料ノ種類及數量、受人先並ニ原料ガ阿片又ハ取締令第一條第一項第二號ノ麻藥ナル場合ニ於テハ其ノ百分中ニ檢出スルモルヒネ又ハコカイン若ハエケゴニンノ量

五 現在スル原料ノ種類及數量

第二十六條 販賣ノ用ニ供スル麻藥原料トシテ麻藥ニ非ザル物(取締令第一條第二項ノ規定ニ依リ指定スル物ヲ含ム)ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日現在ニ依リ左ノ各號ノ事項ヲ具シ翌年一月三十一日迄ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

一 受人及使用シタル麻藥ノ名稱及數量

二 現在スル麻藥ノ名稱及數量

三 製品ノ名稱及數量

第二十七條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第六條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ同條第一項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更シタル者

三 第七條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ同條第一項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變更シタル者

四 第八條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ同條第一項第二號乃至第八號ノ事項ヲ變更シタル者

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三條第三項ノ許可ヲ受ケスシテ同條第二項第二號ノ事項ヲ變更シタル者

二 第五條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ同條第一項第二號乃至第八號ノ事項ヲ變更シタル者

三 第七條第四項ノ規定ニ違反シテ輸出許可證ノ謄本ヲ其ノ送荷ニ添送セス又ハ送荷ニ該謄本ノ番號ヲ附記セサル者

四 第十三條第一項ノ規定ニ違反シテ麻藥ノ容器又ハ被包ニ同項ニ規定スル事項ヲ記載セサル者

五 第十四條第一項ノ規定ニ違反シテ同條第一項及第二項ノ規定ニ依リ證書ヲ徵セシテ麻藥ヲ讓渡シタル者又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタル者

六 第十五條ノ規定ニ依リ證明ヲ受ケサ

七 證書ニ依リ麻藥ヲ讓渡シタル者反シタル者

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 第三條第三項、第五條第二項、第六條第二項、第七條第二項、第八條第二項、第十一條、第十九條、第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル者

二 第十二條又ハ第十六條第二項若ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

附則

第三十一條 本令ハ昭和十月九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 大正九年朝鮮總督府令第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 本令施行前政府ニ於テ賣下又ハ交付シタル麻藥ハ之ヲ取締令第四條ノ規定ニ依リ賣下又ハ交付シタルモノト看做ス

第三十四條 藥劑師及藥種商ニシテ本令施行ノ際現ニ前條ノ麻藥ニシテ政府ノ封緘ナキモノヲ所有スルモノハ本令施行後二十日以内ニ其ノ麻藥ノ名稱、數量並ニ容器ノ種類及箇數ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第三十五條 前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル麻藥ニ付テハ第一條第二項ノ規定ヲ適用

セス

第三十六條 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ麻藥ヲ製造スル者ハ本令施行ノ日ヨリ十五日以内ニ第五條第一項又ハ第六條第一項ノ規定ニ準シ許可ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ取締令第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十八條 第三十六條ニ規定スル者ハ同條ノ期間内仍其ノ製造ヲ爲スコトヲ得同條ノ規定ニ依リ許可ノ申請ヲ爲シタル者ニ付同條ノ期間經過後其ノ申請ノ許可アル迄ノ間亦同シ

第三十九條 第三十六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケサル爲其ノ所有スル麻藥ヲ讓渡スコト能ハサルニ至リタル者ハ第十六條ノ規定ニ準シ之ヲ處分スヘシ

第四十條 本令施行前從前ノ規定ニ依リ麻藥ノ輸入、移入、輸出又ハ移出ニ付受ケタル許可ハ之ヲ取締令第五條ノ規定ニ依リ受ケタルモノト看做ス

第四十一條 本令施行ノ際現ニ輸送中ノ外國貨物タル麻藥ニ付テハ取締令第六條第一項ノ規定ヲ適用セス

第四十二條 第三十四條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サス又ハ第三十九條ノ規定ニ違反シ處分ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス

別記様式(略)

刑事訴訟法

刑
訴

刑事訴訟法目次

刑事訴訟法(大一一法七五)

第一編 總則

第一章 裁判所ノ管轄……………一

第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避……………二

第三章 訴訟能力……………三

第四章 辯護及輔佐……………四

第五章 裁判……………五

第六章 書類……………五

第七章 送達……………七

第八章 期間……………七

第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留……………八

第十章 被告人訊問……………八

第十一章 押収及搜索……………三

第十二章 檢證……………六

第十三章 證人訊問……………七

第十四章 鑑定……………七

第十五章 通譯……………七

第十六章 訴訟費用……………七

第二編 第一審

第一章 捜査……………三

第二章 公訴……………三

第三章 豫審……………三

刑事訴訟法目次

第四章 公判

第一節 公判準備……………七

第二節 公判手續……………六

第三節 公判ノ裁判……………六

第三編 上訴

第一章 通則……………三

第二章 控訴……………三

第三章 上告……………三

第四章 抗告……………三

第四章 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……………三

第五編 再審……………三

第六編 非常上告……………三

第七編 略式手續……………三

第八編 裁判ノ執行……………三

第九編 私訴……………三

第一章 通則……………三

第二章 第一審……………三

第三章 上訴……………三

刑事訴訟費用法(大一一法六八)……………三

證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ旅費日當止宿料給與ノ件(大一一司一一)……………三

刑事交渉法(大一一法九二)

刑事補償法(昭六一法六〇)

司法警察職務規範(大一一司刑調)

第一章 總則……………五九

第二章 捜査機關……………五九

第三章 捜査ノ端緒……………六〇

第四章 捜査ノ實行……………六〇

第一節 通則……………六二

第二節 通常捜査……………六三

第三節 強制捜査……………六四

第五章 令狀ノ執行……………六四

第六章 捜査事件ノ處理……………六六

第七章 少年ニ關スル特別……………六七

第八章 外國人ニ關スル特別……………六八

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件(大一一勅五二八)……………六九

違警罪即決例(明一八一布告三一)……………七一

陪審法(大一一法五〇)……………七一

第一章 總則……………七一

刑事訴訟法目次

第二章 陪審員及陪審ノ構成……………五
 第三章 陪審手續……………五
 第一節 公判準備……………五
 第二節 公判手續及公判ノ裁判……………六
 第三節 上訴……………七
 第四章 陪審費用……………八
 第五章 罰則……………八
 第六章 補則……………八
 少年法(大一一一法四二)
 第一章 通則……………八
 第二章 保護處分……………八
 第三章 刑事處分……………八
 第四章 少年審判所ノ組織……………八
 第五章 少年審判所ノ手續……………八
 第六章 裁判所ノ刑事手續……………八
 第七章 罰則……………八
 矯正院法(大一一一法四三)
 矯正院處遇規程(大一一一司三四)
 第一章 收容……………八
 第二章 教導……………八
 第三章 賞罰……………八
 第四章 給養……………八
 第五章 衛生及診療……………八

第六章 面會及通信……………八
 第七章 領置……………八
 第八章 退院及假退院……………八
 第九章 逃走及死亡……………八
 感化法(明三三三法三七)
 監獄法(明四一一法二八)
 第一章 總則……………九
 第二章 收監……………九
 第三章 拘禁……………九
 第四章 戒護……………九
 第五章 作業……………九
 第六章 教誨及ヒ教育……………九
 第七章 給養……………九
 第八章 衛生及ヒ醫療……………九
 第九章 接見及ヒ信書……………九
 第十章 領置……………九
 第十一章 賞罰……………九
 第十二章 釋放……………九
 第十三章 死亡……………九
 監獄法施行規則(明四一一司一八)
 第一章 總則……………九
 第二章 收監……………九
 第三章 拘禁……………九
 第四章 戒護……………九

第五章 作業……………九
 第六章 教誨及ヒ教育……………九
 第七章 給養……………九
 第八章 衛生及ヒ醫療……………九
 第九章 接見及ヒ信書……………九
 第十章 領置……………九
 第十一章 賞罰……………九
 第十二章 釋放……………九
 第十三章 死亡……………九
 朝鮮監獄令(明四五―制令一四)
 第一章 總則……………九
 第二章 收監……………九
 第三章 拘禁……………九
 第四章 戒護……………九
 第五章 作業……………九
 第六章 教誨及教育……………九
 第七章 給養……………九
 第八章 衛生及醫療……………九
 第九章 接見及信書……………九
 第十章 領置……………九
 第十一章 賞罰……………九
 第十二章 釋放……………九
 第十三章 死亡……………九
 朝鮮監獄令施行規則(明四五―府令三四)
 第一章 總則……………九
 第二章 收監……………九
 第三章 拘禁……………九
 第四章 戒護……………九
 第五章 作業……………九
 第六章 教誨及教育……………九
 第七章 給養……………九
 第八章 衛生及醫療……………九
 第九章 接見及信書……………九
 第十章 領置……………九
 第十一章 賞罰……………九
 第十二章 釋放……………九
 第十三章 死亡……………九

朝鮮警察犯處罰規則

(明四五―府令四〇)……………一九
 朝鮮犯罪即決令(明四三―制令一〇)……………二三
 朝鮮犯罪即決令施行手續(明四三―訓令七一)……………二三
 朝鮮司法警察官執務規程(大一一―訓令五二)……………二三

第一章 總則……………二三
 第二章 搜查……………二三
 第三章 令狀及留置狀……………二三
 第四章 少年取扱……………二三
 第五章 事件送致……………二三
 第六章 帳簿及書類……………二三
 朝鮮司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍(大一一―府令三三)……………二三
 朝鮮假出獄取締規則(明四五―府令三三)……………二三
 朝鮮行政執行令(大三一―制令三三)……………二三

刑事訴訟法目次

朝鮮行政執行令施行規則

(大三一―府令一三〇)……………二四
 朝鮮行刑累進處遇規則……………二四
 第一章 總則……………二四
 第二章 受刑者ノ分類……………二四
 第三章 累進處遇……………二四
 第四章 拘禁及戒護……………二四
 第五章 作業……………二四
 第六章 教化……………二四
 第七章 接見及信書……………二四
 第八章 給養……………二四
 第九章 累進・密査……………二四
 第十章 進級ノ停止及階級ノ停止……………二四
 第一節 進級ノ停止……………二四
 第二節 階級ノ停止……………二四
 第十一章 假釋法……………二四
 朝鮮思想犯保護觀察令(昭一一―制令一六)……………二五

第二章 總則……………二五
 第三章 受刑者ノ分類……………二五
 第四章 累進處遇……………二五
 第五章 拘禁及戒護……………二五
 第六章 作業……………二五
 第七章 教化……………二五
 第八章 接見及信書……………二五
 第九章 給養……………二五
 第十章 累進・密査……………二五
 第十一章 進級ノ停止及階級ノ停止……………二五
 第一節 進級ノ停止……………二五
 第二節 階級ノ停止……………二五
 第十二章 假釋法……………二五

大正十一年五月五日
 法律第七十五號
 刑事訴訟法
 第一章 總則
 第一節 裁判所ノ管轄
 第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル
 帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル
 第二條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得
 第三條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定シ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得
 第四條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定シ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得
 第五條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得
 第六條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定シ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得
 第七條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得
 事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ
 第八條 各裁判所ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ後ニ公訴ヲ受ケル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムル

大正十一年五月五日
 法律第七十五號
 刑事訴訟法
 第一章 總則
 第一節 裁判所ノ管轄
 第九條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
 第十條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
 各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ後ニ公訴ヲ受ケル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムル

刑事訴訟法

大正十一年五月五日
法律第七十五號

第一章 總則

第一節 裁判所ノ管轄

第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル
 帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル
 第二條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得
 第三條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定シ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得
 第四條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定シ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得
 第五條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得
 第六條 土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定シ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得
 第七條 事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得
 事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ
 第八條 各裁判所ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ後ニ公訴ヲ受ケル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムル

刑事訴訟法 第一章 總則

第一章 裁判所ノ管轄

第九條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
 第十條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
 各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ後ニ公訴ヲ受ケル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムル

第一章 裁判所ノ管轄

第九條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
 第十條 同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス
 各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定シ以テ後ニ公訴ヲ受ケル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムル

トヲ得
 第十一條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス
 第十二條 訴訟手續ハ管轄通ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス
 第十三條 裁判所ハ管轄權ヲ有セザルトキト雖急遽ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス
 第十四條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ
 一 裁判所ノ管轄區域明確ナラザル爲管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ
 二 管轄通ノ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハザルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ
 第十五條 檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ
 一 管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ

因リ裁判權ヲ行フコト能ハザルトキ
 二 被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル處アルトキ
 前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第十七條 犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心、其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ
 第十八條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ
 檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ理由スヘシ
 第十九條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ
 第二十條 檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ヲ被告人ニ交付スヘシ
 被告人ハ原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得
 第二十一條 被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取りタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ
 檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ
 第二十二條 豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急遽ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第二十三條 管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ
 第二章 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避
 第二十四條 判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ
 一 判事被害者ナルトキ
 二 判事私訴當事者ナルトキ
 三 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ
 四 判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
 五 判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リ

タルトキ
 六 判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
 七 判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ
 八 判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關シタルトキ但シ委託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第二十五條 判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得
 辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス
 第二十六條 事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ理由アリシコトヲ知ラザリシトキ又ハ忌避ノ理由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第二十七條 合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受審判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避ニヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ示スヘシ
 忌避ノ理由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ説明スヘシ
 忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ
 第二十八條 合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ
 忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス
 第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ
 豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス
 第二十九條 訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シ

テ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ
 前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得
 第三十條 忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急遽ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第三十一條 忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三十二條 忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ
 第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十三條 判事忌避セラレヘキ理由アリト認ムルコトハ回避スヘシ
 回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス
 第三十四條 前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス
 第三十五條 本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル裁判所之ヲ爲スコトヲ得

第三章 訴訟能力

第三十六條 被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之を罰せず

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑を減輕ス

第四十條 癡癡者ノ行爲ハ之を罰せず又ハ之を減輕ス

第十四條ニ滿タス者ノ行爲ハ之を罰せず

第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトハ檢察ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ルニ其ノ任務ヲ行フ

第四一節 辯護及輔佐

第三十九條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊族、直系卑屬及配偶者並被告人ノ屬スル家主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四十條 辯護人ハ護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第四十一條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條 辯護人ノ選任ハ辯護人ノ連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條 第三百三十四條又ハ第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十四條 死刑又は無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮に該ル事件に付ては辯護人なくして開廷することを得ず

但し判決の宣告を爲す場合は此の限に在らず

辯護人出頭せざるとき又は辯護人の選任なきときは裁判長は職權を以て辯護人を附すヘシ

第三百三十五條 左の場合に於て辯護人出頭せざるとき又は辯護人の選任なきときは檢察の意見を聽き辯護人を附することを

一 被告人二十歳未滿又は七十歳以上なるとき

二 被告人婦女なるとき

三 被告人聾者又は啞者なるとき

四 被告人心神喪失者又は心神耗弱者たる疑あるとき

五 其の他必要と認むるとき

第四十四條 辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條 被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁ズルコトヲ得

第四十六條 辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ

限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫並被告人ノ屬スル家ノ主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五節 裁判

第四十八條 判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報

告ヲ爲スヘシ

第四十九條 裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ原本ヲ送達シテ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條 檢察ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ原本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ原本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六節 書類

第五十四條 訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

第五十五條 訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得

第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

三 裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

四 供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

第五十七條 檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作りテ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條 前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時
 第五十九條 裁判所書記ノ立會ナクシテ取調
 又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ
 行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者
 自ラ之ヲ行フヘシ
 第六十條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テ
 ハ公判調書ヲ作ルヘシ
 公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手
 續ヲ記載スヘシ
 一 公判ヲ爲シタル裁判所及年月日
 二 判事、檢察及裁判所書記ノ官氏名姓
 被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通
 事ノ氏名
 三 被告人出頭セザリシトキハ其ノ旨
 四 公判ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由
 五 被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ
 起訴アリタルトキハ其ノ要旨
 六 辯論ノ要旨
 七 第五十六條第二項ニ掲ケル事項
 八 辯護シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類
 九 被告人ニ示シタル書類及證據物
 十 公判廷ニ於テ爲シタル檢査及押收
 十一 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴
 訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル
 事項
 十二 被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタ
 ルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ
 陳述スル機會ヲ與ヘタルコト
 十三 判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタ
 ルコト

第六十一條 公判調書ニ付テハ第五十六條第
 三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコ
 トヲ要セス
 供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ
 其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ増減
 變更ノ申立アリタルトキハ之ヲ供述ヲ記載
 セシムヘシ
 第六十二條 公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五
 日內ニ之ヲ整理スヘシ
 第六十三條 公判調書ニハ裁判長裁判書記ト
 共ニ署名捺印スヘシ
 裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由
 ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
 區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其
 ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
 裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由
 ヲ附記シテ署名捺印スヘシ
 第六十四條 公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公
 判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得
 第六十五條 辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速
 記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ
 供述ヲ筆記セシムルコトヲ得
 第六十六條 裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ル

ヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於
 テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セ
 シムルコトヲ得
 第六十七條 裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ
 第六十八條 裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事
 署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能
 ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シ
 テ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能
 ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署
 名捺印スヘシ
 第六十九條 裁判書ニハ別段ノ規定アル場合
 外除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齢、
 職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法
 人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘ
 シ
 判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ
 關與シタル檢査ノ官氏名ヲ記載スヘシ
 第七十條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書
 ノ原本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ
 作ルヘシ
 第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニ
 ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ
 記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公
 署ヲ表示スヘシ
 第七十二條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文
 字ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外記入

ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記
 載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘ
 キ爲書類ヲ存スヘシ
 第七十三條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ル
 ヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印ス
 ヘシ
 第七十四條 官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名
 捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサ
 ルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコ
 ト能ハサルトキハ花押又ハ摺印スヘシ
 他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代
 書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印ス
 ヘシ

看做ス
 第七十六條 住居、事務所又ハ送達受取人ヲ
 届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁
 判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ
 爲スコトヲ得
 前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以
 テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第七十七條 檢査ニ對スル送達ハ書類ヲ檢査
 局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ
 第七十八條 被告人ノ住居、事務所及現在地
 知レサルトキハ公送送達ヲ爲スコトヲ得
 被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ
 於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサ
 ルトキ亦前項ニ同シ
 第七十九條 公送送達ハ裁判所ノ命シタルト
 キニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
 公送送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ
 其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ
 爲スヘシ
 公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ
 裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示
 シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ
 之ヲ爲スヘシ
 前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ
 掲載シタル日ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達
 ハ揭示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期
 間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條 書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル
 場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ
 司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁
 判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行
 ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行
 フ

第七章 送達

第七十五條 被告人、私訴當事者、代理人、
 辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲
 書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ
 届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所
 ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事
 務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ
 者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ
 前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各
 審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
 前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス
 送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做
 シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト

第七十六條 住居、事務所又ハ送達受取人ヲ
 届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁
 判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ
 爲スコトヲ得
 前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以
 テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第七十七條 檢査ニ對スル送達ハ書類ヲ檢査
 局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ
 第七十八條 被告人ノ住居、事務所及現在地
 知レサルトキハ公送送達ヲ爲スコトヲ得
 被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ
 於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサ
 ルトキ亦前項ニ同シ
 第七十九條 公送送達ハ裁判所ノ命シタルト
 キニ限リ之ヲ爲スコトヲ得
 公送送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ
 其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ
 爲スヘシ
 公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ
 裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示
 シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ
 之ヲ爲スヘシ
 前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ
 掲載シタル日ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達
 ハ揭示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期
 間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條 書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル
 場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ
 司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁
 判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行
 ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行
 フ

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第九章 被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條

裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シテ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命ジタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス

頭ヲ以テ出頭ヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人ハ獄吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條 召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條 被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條 左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一 被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二 被告人罪證ヲ覆滅スル虞アルトキ

三 被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得

第八十八條 被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條 勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條 第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ理由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第九十二條 被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條 裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ノ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條 裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審裁判官若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢察官又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第九十五條 被告人ノ現在地ヲ得知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢察長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ調書ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ捜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢察長ハ其ノ管内ノ檢察官シテ勾引狀ヲ發シ捜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九十六條 前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ

テ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セテハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ起算ス

第九十七條 召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條 前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ準用スルコトヲ得

リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第九十九條 召喚狀ハ之ヲ送達スルコトヲ得

第一百條 勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏ノ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏ノ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第一百一條 勾引狀ハ敷通ヲ作り之ヲ司法警察官吏ニ交付スルコトヲ得

第一百二條 司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第一百三條 勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ

第一百四條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ原本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第一百五條 軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舎又ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ又ハ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舎又ハ艦船ノ外ニ在リテハ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第一百六條 裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ起算ス

第一百七條 勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第一百八條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第一百九條 勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之

ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ
 勾引状又ハ勾留状ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢察官其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ
 勾引状ノ執行ニ關スル書類ヲ受取りタル檢察官其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引状ニ記載スヘシ
 第二百十條 檢察官ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得
 第二百十一條 勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍内ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引状ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ
 第二百十二條 裁判所ハ罪證ヲ減シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス裁判所檢閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢察官之ヲ爲スコトヲ得
 第二百十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得
 第二百十四條 勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第二百十五條 勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戸主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第二百十六條 保釋ノ請求アリタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ
 保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ
 保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得
 第二百十七條 保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ
 檢察官ハ保釋請求者ニ非ザル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得
 檢察官ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得
 保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ
 第二百十八條 裁判所ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ノ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
 責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應ジ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第二百十九條 被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ減シタル處アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得
 保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ
 第二百二十條 勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留ノ效力消滅シタルトキハ檢察官ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ
 第二百二十一條 上訴提起期間内又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テ訴訟記録原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ
 第二百二十二條 豫審判事ハ被告人ノ召喚勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス
 第二百二十三條 左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判

事ノ勾引状ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢察官ハ勾引状ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得
 一 被疑者定リタル住居ヲ有セザルトキ
 二 現行犯人其ノ場所ニ在ラザルトキ
 三 現行犯人ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ
 四 既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ
 五 死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ
 六 被疑者常習トシテ強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ
 第二百二十四條 檢察官又ハ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯人アルコトヲ知りタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラザルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ
 一 檢察官司法警察官ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ら之ヲ逮捕スルコトヲ得
 二 司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察官ニ命スヘシ
 三 司法警察官ハ命令ヲ待タズシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ
 第八十七條 左ノ場合に於テは直ニ

被告人を勾引することを得
 一 被告人定りたる住居を有せざる
 二 被告人罪證を減減する虞あるとき
 三 被告人逃亡したるとき又は逃亡する虞あるとき
 第二百二十五條 現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得
 犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢察官又ハ司法警察官ニ引致スヘシ
 第二百二十六條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取りタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ
 司法警察官現行犯人ヲ受取りタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得
 第二百二十七條 司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り又ハ勾引状ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第二百二十八條 司法警察官檢察官若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官ノ囑託ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官ニ囑託シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢察官又ハ司法警察官ニ引致スヘシ
 第二百二十九條 檢察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取り又ハ勾引状ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取りタルトキハ速ニ之ヲ二十四時間内ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ急遽ヲ要シ判事ノ拘留状ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留状ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ
 檢察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取りタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ
 檢察官他ノ檢察官ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引状ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル官署ニ送致スヘシ
 第二百三十條 現ニ罪ヲ行ヒ又ハ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トスル兒器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレ

テ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人ノ場所ニ在リテルモノト看做ス

第三百三十一條 第九十七條、第九十八條及第九十九條ノ規定ハ勾留ニ付テハ準用ス

第九十七條 召喚狀、勾引狀又は勾留狀には被告事件、被告人の氏名及住居を記載し裁判長又は受命判事之に記名捺印すヘシ

第九十八條 召喚狀、勾引狀又は勾留狀を發する場合は於て被告人の住居分明ならざる時は之を記載することを要せず其の氏名分明ならざる時は容貌、體格其の他の徵表を以て被告人を指示すヘシ

第九十九條 召喚狀、勾引狀又は勾留狀を發する場合は於て被告人の出頭すヘキ年月日時、場所及召喚に應ぜざる時は勾引狀を發することあるヘキ旨を記載すヘシ

勾留狀には被告人を勾留すヘキ監獄を指定すヘシ

裁判長第九十三條の規定に依り召喚狀、勾引狀又は勾留狀を發する場合は於ては其の旨を記載すヘシ

第九十八條 前條第一項及第二項の規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項

の勾引狀に付之を準用す此の場合に於ては勾引狀に囑託を爲したる裁判長の氏名及囑託に因り之を發する旨を記載すヘシ

第三百條 勾引狀又は勾留狀は檢事の指揮に依り司法警察官吏之を執行す但し急速を要する場合に於ては裁判長、受命判事、檢察判事又は區裁判所判事其の執行を指揮することを得監獄に在る被告人に對して發したる勾留狀は檢事の指揮に依り監獄官吏之を執行す

第三百一條 勾引狀又は勾留狀を執行する場合は於ては之を發したる官署は其の原本を檢事に送付すヘシ

第三百二條 勾引狀は敷通を作り之を司法警察官吏數人に交付することを得

第三百三條 司法警察官吏は必要あるときは管轄區域外に於て勾引狀の執行を爲し又は其の地の司法警察官に其の執行を求むることを得

第三百四條 勾引狀を執行するには之を被告人に示し指定せられたる監獄に引致すヘシ

第三百五條 勾引狀又は勾留狀の執行を受

けたる被告人は其の腰木の交付を請求することを得

第二百五條 軍事用の應舎又は艦船の内に在る者に對し勾引狀又は勾留狀を執行すヘキ場合に於ては應舎若し艦船の長又は之に代るヘキ者に勾引狀又は勾留狀を示して引渡を求むヘシ

第二百六條 應舎又は艦船の外に在りて現に軍事用の應舎又は艦船の外に在りて現に勤務に従事する軍人、軍屬又は陸軍海軍所屬の學生生徒に對して勾引狀又は勾留狀を執行すヘキ場合に於ては其の所屬の長又は之に代るヘキ者に勾引狀又は勾留狀を示して引渡を求むヘシ

第二百七條 裁判長は必要あるときは指定の場所に被告人の出頭又は同行を命ずることを得被告人正當の事由なくして之を肯せざる時は其の場所に勾引することを得此の場合に於ては第八十九條の期間は其の場所に引致したる時より之を起算す

第二百八條 勾引狀又は勾留狀の執行を受けたる被告人を護送する場合は於て必要あるときは假に最寄の監獄に之を留置することを得

第二百九條 勾引狀の執行を受けたる被告人を引致したる場合に於て必要あるときは之を監獄に留置することを得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限り之ヲ差押ヘ又ハ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限リ在ラス

第四百二條 被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

第四百三條 裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限り搜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ搜索ニ付テハ成年ノ婦女ノ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要ス合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百四條 搜索ニ付テハ秘密ヲ保チ且シ搜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第九十九條 勾引狀又は勾留狀を執行したるときは之に執行の場所及年月日時を記載し之を執行すること能はざるときは其の事由を記載して記名捺印すヘシ

勾引狀又は勾留狀の執行に關する書類は執行を指揮したる檢事其の他の官署に之を差出すヘシ

勾引狀の執行に關する書類を受取りたる檢事其の他の官署は被告人の引致せられたる年月日時を勾引狀に記載すヘシ

第一百條 檢事は裁判所の同意を得て勾留せられたる被告人を他の監獄に移すことを得

第三百二十二條 五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限り第二百二十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章 被告人訊問

第三百二十三條 被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人選ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第三百二十四條 被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第三百二十五條 被告人ニ對シテハ丁實親切ヲ

目トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百二十六條 被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第三百二十七條 事實發見ノ爲必要アルトキ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第三百二十八條 被告人雙ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ應ナルトキハ書記ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第三百二十九條 本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察官吏ニ於テ立會ハシムヘシ

第十一章 押收及搜索

第四百十條 裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ押收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四百十一條 裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

第四百四十五條 搜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ没收スヘキ物ナキトキハ搜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第四百四十六條 押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開拔其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第四百四十七條 軍事上秘密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第四百四十八條 公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第四百四十九條 國務大臣、官内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十條 醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ職記ノ職ニ在ル者又ハ此等

ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十一條 裁判所ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百五十二條 命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

第四百五十三條 命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第四百五十四條 司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第四百五十五條 司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第四百五十六條 裁判所押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

第四百五十七條 檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四百五十四條 押收又ハ搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ他ノ豫審判事、區裁判所判事又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第四百五十五條 受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

第四百五十六條 受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

第四百五十七條 受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付テハ裁判所ノ爲ス押收又ハ搜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第四百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

第四百五十八條 日出前、日没後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ入ルコトヲ得ス

第四百五十九條 猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ圖書ニ記載スヘシ

第四百六十條 日没前押收又ハ搜索ニ著シタルトキハ日没後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第四百六十一條 左ノ場所ニ於テ爲ス押收又ハ搜索ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一 賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ

常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二 旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間内ニ限ル

第四百六十二條 公務所又ハ軍所用ノ廳舎若ハ艦船ノ内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲スルトキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

第四百六十三條 前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ内ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲スルトキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第四百六十四條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

第四百六十五條 押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百六十六條 押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百六十一條 押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

第四百六十二條 前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第四百六十三條 押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第四百六十四條 押收又ハ搜索ノ場合ニ於テ所有物、所持者若ハ保管者若ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル圖書又ハ目錄ノ原本又ハ原本ヲ交付スヘシ

第四百六十五條 押收物ニ付テハ毀損又ハ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第四百六十六條 運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有物若ハ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第四百六十七條 危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四百六十八條 沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失又ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第四百六十九條 モノハ被告事件ノ終結ヲ待タズ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

第四百七十條 押收物ハ所有者、所持者、保管者、又ハ差

出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第四百七十一條 必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タズ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

第四百七十二條 前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第四百七十三條 押收又ハ搜索ヲ爲スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第四百七十四條 豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所同一ノ權ヲ有ス

第四百七十五條 檢事ハ第二百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第四百七十六條 司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第四百七十七條 司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ急速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第四百六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ急速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

ハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第九十二條 第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第九十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發して之を爲すヘシ

被告人より期日に出席すヘキ旨を記載したる書面を差出し又は出席したる被告に對し口頭を以て次同の出席を命じたるときは召喚狀を送達したると同一の效力を有す口頭を以て出席を命じたる場合に於ては其の旨を調書に記載すヘシ

受訴裁判所に近接する監獄に在る被告人に對しては監獄官吏に通知して之を召喚することを得此の場合に於ては被告人監獄官吏より通知を受けたる時を以て召喚狀の送達ありたるものと看做す

第九十九條 召喚狀ハ之を送達ス

第九十三條 第八十八條第百條乃至第百五條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第八十八條 被告人ノ勾引ハ勾引狀を發して之を爲すヘシ

第九十條 勾引狀又は勾留狀ハ檢事の指揮に依り司法警察官吏之を執行す但し急速を要する場合に於ては裁判長、受命判事、豫審判事又は區裁判所判事其の執行

を指揮することを得

監獄に在る被告人に對して發したる勾留狀ハ檢事の指揮に依り監獄官吏之を執行す

檢事の指揮に依り勾引狀又は勾留狀を執行する場合に於ては之を發したる官署は其の原本を檢事に送付すヘシ

第一百條 勾引狀ハ數通を作り之を司法警察官吏數人に交付することを得

第一百二條 司法警察官吏は必要あるときは管轄區域外に於て勾引狀ハ執行を爲し又は其の地の司法警察官に其の執行を求むることを得

第一百三條 勾引狀を執行するには之を被告人に示して指定せられたる裁判所に引致すヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項の勾引狀に付ては之を發したる官署に引致すヘシ

勾留狀を執行するには之を被告人に示して指定せられたる監獄に引致すヘシ

第九十四條 勾引狀又は勾留狀の執行を受けたる被告人は其の原本の交付を請求することを得

第九十五條 軍事用の艦舎又は艦船の内に在る者に對し勾引狀又は勾留狀を執行すヘキ場合に於ては艦舎若ハ艦船の長又は之に代るヘキ者に勾引狀又は勾留狀を示して引渡を求むヘシ

軍事用の艦舎又は艦船の外に在りて現に勤務に従事する軍人、軍屬又は陸軍海軍所屬の學生生徒に對して勾引狀又は勾留狀を執行すヘキ場合に於ては其の所屬の長又は之に代るヘキ者に勾引狀又は勾留狀を示して引渡を求むヘシ

第九十九條 勾引狀又は勾留狀を執行し九るときは之に執行の場所及年月日時を記載し之を執行すること能はざるときは其の事由を記載して記名捺印すヘシ

勾引狀又は勾留狀の執行に關する書類は執行を指揮したる檢事其の他の官署に之を差出すヘシ

勾引狀の執行に關する書類を受取りたる檢事其の他の官署は被告人の引致せられたる年月日時を勾引狀に記載すヘシ

第九十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚ニハ出席スヘキ年月日時及場所並出席セサルトキハ過對ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出席トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違

ル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルコトナシ

第二百七條 第八十五條、第三百三十六條及第三百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第八十五條 召喚に因り出席したる被告人は速に之を訊問すヘシ

被告人裁判所構内に在るときは召喚を爲さざる場合に於ても之を訊問することを

得

第三百三十六條 被告人を訊問するときは裁判所書記をして立會はしむヘシ

第三百三十八條 被告人難なるときは書面を以て問ひ咄なるときは書面を以て答へしむることを得

第二百八條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受タル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ

ナキカ否及第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第八十六條 第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十八條 宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

目ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又ハ何事ヲモ附加セザリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第九十九條 宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前偽證ノ罰ヲ告クヘシ

第二百條 證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一 十六歳未満ノ者

を指揮することを得

監獄に在る被告人に對して發したる勾留狀ハ檢事の指揮に依り監獄官吏之を執行す

檢事の指揮に依り勾引狀又は勾留狀を執行する場合に於ては之を發したる官署は其の原本を檢事に送付すヘシ

第一百條 勾引狀ハ數通を作り之を司法警察官吏數人に交付することを得

第一百二條 司法警察官吏は必要あるときは管轄區域外に於て勾引狀ハ執行を爲し又は其の地の司法警察官に其の執行を求むることを得

第一百三條 勾引狀を執行するには之を被告人に示して指定せられたる裁判所に引致すヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項の勾引狀に付ては之を發したる官署に引致すヘシ

勾留狀を執行するには之を被告人に示して指定せられたる監獄に引致すヘシ

第九十四條 勾引狀又は勾留狀の執行を受けたる被告人は其の原本の交付を請求することを得

第九十五條 軍事用の艦舎又は艦船の内に在る者に對し勾引狀又は勾留狀を執行すヘキ場合に於ては艦舎若ハ艦船の長又は之に代るヘキ者に勾引狀又は勾留狀を示して引渡を求むヘシ

軍事用の艦舎又は艦船の外に在りて現に勤務に従事する軍人、軍屬又は陸軍海軍所屬の學生生徒に對して勾引狀又は勾留狀を執行すヘキ場合に於ては其の所屬の長又は之に代るヘキ者に勾引狀又は勾留狀を示して引渡を求むヘシ

第九十九條 勾引狀又は勾留狀を執行し九るときは之に執行の場所及年月日時を記載し之を執行すること能はざるときは其の事由を記載して記名捺印すヘシ

勾引狀又は勾留狀の執行に關する書類は執行を指揮したる檢事其の他の官署に之を差出すヘシ

勾引狀の執行に關する書類を受取りたる檢事其の他の官署は被告人の引致せられたる年月日時を勾引狀に記載すヘシ

第九十四條 證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名並被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚ニハ出席スヘキ年月日時及場所並出席セサルトキハ過對ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出席トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違

ル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條 證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルコトナシ

第二百七條 第八十五條、第三百三十六條及第三百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第八十五條 召喚に因り出席したる被告人は速に之を訊問すヘシ

被告人裁判所構内に在るときは召喚を爲さざる場合に於ても之を訊問することを

得

第三百三十六條 被告人を訊問するときは裁判所書記をして立會はしむヘシ

第三百三十八條 被告人難なるときは書面を以て問ひ咄なるときは書面を以て答へしむることを得

第二百八條 證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條 親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受タル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ

之ヲ訊問スヘシ
帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滞在
スルトキハ其ノ滞在地ヲ管轄スル裁判所ニ
於テ之ヲ訊問スヘシ
第二百十條 證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又
ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ
決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第百八十
九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣誓ヲ
爲シタルトキ亦同シ
前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
ヲ得

第二百十一條 裁判所ハ必要アルトキハ決定
ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコ
トヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セ
サルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得
第二百十二條 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問ス
ヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證
人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ
法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之
ヲ囑託スルコトヲ得
受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スル
コトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキ
ハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコ
トヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ヲ訊問ニ關シ
裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコト
ヲ得

ヲ得但シ第百九十條第二百十條ノ決定ハ裁
判所亦之ヲ爲スコトヲ得
第二百十三條 豫審判事ハ證人ヲ訊問ニ關シ
裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス
第二百十四條 檢事ハ第百二十三條各款ノ場
合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取りタ
ル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起
前ニ限リ第百八十四條乃至第百二十一條ノ
規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他
ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託ス
ルコトヲ得
司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起
前ニ限リ第百八十四條乃至第百二十一條ノ
規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他
ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ
得

第二百二十三條 左の場合に於て急速を要
し判事之勾引狀を求むること能はざると
きは檢事は勾引狀を發し又は之を他の檢
事は司法警察官に命令し若は囑託する
ことを得
一 被僞者定りたる住居を有せざるとき
二 現行犯人其の場所に在らざるとき
三 現行犯の取調に因り其の事件の共犯
を發見したるとき
四 既決の囚人又は本法に因り拘禁せら
れたる者逃亡したるとき

五 死體の檢證に因り犯人を發見したる
とき
六 被僞者常習として強盜又は竊盜の罪
を犯したる者なるとき
第二百十五條 檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊
問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコト
ヲ得
第二百十六條 司法警察官證人ヲ訊問スル場
合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘ
シ
第二百十七條 第二百十四條ノ規定ニ依リ證
人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキト
キハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其
ノ處分ヲ請求スヘシ
第二百十八條 證人ハ旅費、日常及止宿料ヲ
請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ
宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラ
ズ

第十四章 鑑定

第二百十九條 裁判所ハ經驗アル者ニ鑑
定ヲ命スルコトヲ得
第二百二十條 鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓
ヲ爲サシムヘシ
宣誓ハ宣誓書ニ之ヲ爲スヘシ
宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘ
キコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百二十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人
ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報
告セシムヘシ
鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サ
シムルコトヲ得
鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルト
キハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコト
ヲ得

第二百二十二條 裁判所ハ必要アル場合ニ於
テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲
サシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定
人ニ交付スルコトヲ得
被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サ
シムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ
定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留
置スルコトヲ得

第二百二十三條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル
場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ檢
査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコト
ヲ得
第二百二十六條 鑑定人ハ鑑定ヲ十分ナラス
トスルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定
人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
第二百二十七條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會
フコトヲ得
第二百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第二百三十二條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳
述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通
譯ヲ爲サシムヘシ
第二百三十三條 聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ
爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ

婦女の身體を檢査する場合に於ては醫師
又は成年の婦女をして之に立會はしむヘ
シ
死體を解剖し又は墳墓を發掘する場合に
於ては禮意を失はざること注意し遺族
あるときは之に通知すヘシ
第二百二十四條 鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル
場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證
據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證
人ヲ訊問ニ立會フコトヲ得
鑑定人ハ被告人若ハ證人ヲ訊問ヲ求メ又ハ
裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ
問ヲ發スルコトヲ得

第二百二十五條 裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ
付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ
第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此
ノ限ニ在ラス
第二百二十六條 裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラス
トスルトキハ鑑定人ヲ増加シ又ハ他ノ鑑定
人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得
第二百二十七條 檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會
フコトヲ得
第二百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第二百五十九條 押收又は搜索を爲すへき
日時及場所は豫め前條の規定に依り其の
處分に立會ふことを得へき者に通知すへ
シ

し但し急速を要するときは此の限に在ら
ず
第二百二十八條 第十三章ノ規定ハ勾引ニ關
スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但
シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三
項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得
第二百二十九條 鑑定人ハ旅費、日常及止宿
料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコ
トヲ得
第二百三十條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定
ヲ囑託スルコトヲ得
第二百三十一條乃至第二百三十三條及第二
百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル
鑑定書ノ説明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル
者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
第二百三十一條 特別ノ智識ニ因リ知得タル
過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知りタル者ヲ訊
問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三
章ノ規定ヲ適用ス

第十五章 通譯

第二百三十二條 國語ニ通セサル者ヲシテ陳
述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通
譯ヲ爲サシムヘシ
第二百三十三條 聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ
爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ

爲サシムルコトヲ得
 第二百三十四條 國語ニ非サル文字又ハ符號
 ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得
 第二百三十五條 裁判所ハ官署又ハ公署ニ屬
 譯ヲ屬トスルコトヲ得
 第二百三十六條 第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯
 ニ付之ヲ準用ス

第十六章 訴訟費用

第二百三十七條 刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ
 被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負
 擔セシムヘシ
 被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル
 費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人
 ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第二百三十八條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲ
 シテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第二百三十九條 告訴又ハ告訴ニ因リ公訴ノ
 提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴
 ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告
 發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其
 ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ
 得
 第二百四十條 親告罪ニ付告訴ノ取消アリタ
 ル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負
 擔セシムルコトヲ得
 第二百四十一條 檢察ニ非サル者上訴ノ取下

ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴
 ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得
 檢察ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場
 合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用
 ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第二百四十二條 裁判ニ因リ訴訟手續終了ス
 ル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔
 セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲ス
 ヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本室ノ裁判ニ付上
 訴アリタルトキニ限り不服ヲ申立ツルコト
 ヲ得
 第二百四十三條 裁判ニ因リ訴訟手續終了ス
 ル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟
 費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ
 其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即
 時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二百四十四條 裁判ニ因ラスシテ訴訟手續
 終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシム
 ルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職
 權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對
 シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二百四十五條 訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁
 判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指
 揮ヲ爲スヘキ檢察之ヲ定ム

第二編 第一審

第一章 搜查

第二百四十六條 檢察犯罪アリト原料スルト
 キハ犯人及證據ヲ搜查スヘシ
 第二百四十七條 警視總監、地方長官及憲兵
 司令官ハ各其ノ管轄區域内ニ於テ司法警察
 官トシテ犯罪ヲ搜查スルニ付地方裁判所檢
 事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ
 限ニ在ラス
 第二百四十八條 左ニ掲ケル者ハ檢察ノ補助
 トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯
 罪ヲ搜查スヘシ
 一 廳府縣ノ警察官
 二 憲兵ノ將校、准士官及下士
 第二百四十九條 左ニ掲ケル者ハ檢察又ハ司
 法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ搜
 査ノ補助ヲ爲スヘシ
 一 巡查
 二 憲兵卒
 第二百五十條 前三條ニ規定スル者ノ外勅令
 ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得
 第二百五十一條 森林、鐵道其ノ他特別ノ事
 項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ハ
 其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二百五十二條 第十一條第一項ノ規定ハ檢

事及司法警察官吏ノ爲ス搜查ニ付之ヲ準用
 ス

第十一條 裁判所ハ事實發見ノ爲必要
 るときは管轄區域外ニ於テ職務を行ふこ
 とを得
 第二百五十三條 搜查ニ付テハ秘密ヲ保持被
 疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ
 注意スヘシ
 第二百五十四條 搜查ニ付テハ其ノ目的ヲ達
 スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強
 制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ
 之ヲ爲スコトヲ得ス
 搜查ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事
 項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
 第二百五十五條 檢察搜查ヲ爲スニ付強制ノ
 處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖
 押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者
 若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬
 地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區域裁判所ノ
 判事ニ請求スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其
 ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス
 第二百五十六條 判事前條ノ處分ヲ爲シタル
 トキハ速ニ之ニ關スル書類及證據ヲ檢察
 ニ送付スヘシ
 第二百五十七條 第二百五十五條ノ規定ニ依
 リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日内ニ公

訴ヲ提起セザルトキハ檢察ハ速ニ被疑者ヲ
 釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタ
 ル事件ニ付公訴ヲ提起セザル處分ヲ爲シタ
 ルトキハ檢察ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但
 シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時効完成ス
 ルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得
 第二百五十八條 犯罪ニ因テ害ヲ被リタル者
 ハ告訴ヲ爲スコトヲ得
 第二百五十九條 祖父又ハ父母ニ對シテハ
 告訴ヲ爲スコトヲ得ス
 第二百六十條 被害者ノ決定代理人又ハ夫ハ
 獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得
 被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督
 相続人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ
 爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思
 ニ反スルコトヲ得ス
 前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付
 テハ之ヲ適用セス
 第二百六十三條 有夫の婦姦通したるとき
 は二年以下ノ懲役に處す其相姦したる者
 亦同シ
 前項ノ罪ハ本夫の告訴を待て之を論ず但
 本夫姦通を縱容したるときは告訴の効な
 し
 第二百六十一條 被害者ノ法定代理人被疑者
 ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被

疑者ノ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族
 ナルトキハ被疑者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ
 爲スコトヲ得

第二百六十二條 死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪
 ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ從者ハ告訴
 ヲ爲スコトヲ得
 名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲
 スシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被
 害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得
 第二百六十三條 親告罪ニ付告訴ヲ爲スコト
 ヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ
 檢察ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲ス
 コトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得
 第二百六十四條 刑法第百八十三條ノ罪ニ付
 テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル
 後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚
 姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ
 告訴ヲ取消シタルモノト爲ス
 第二百六十五條 親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知り
 タル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲
 スコトヲ得ス
 刑法第百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告
 訴ハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定シタル
 日ヨリ六月内ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ効
 カナシ
 第二百六十六條 告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者
 數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他

ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ボサス
第二百六十七條 告訴ハ第二審ノ判決アル迄
之ヲ取消スコトヲ得

告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ル
ヘシ
第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項
ノ調書ニ付テ之ヲ準用ス

第二百七十九條 犯人ノ性格、年齢及境遇並
犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必
要トセザルトキハ公訴ヲ提起セザルコトヲ
得

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事
件ニ付テ之ヲ準用ス
第二百六十八條 親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ
數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ
他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記をして之を供述者に讀聞かせ
しめ又は供述者をして之を閱覽せしめ其
の記載の相違なきかを問ふへし
供述者増減變更を申立てたるときは其の
供述を調書に記載すへし
調書には供述者をして署名捺印せしむへ
し

第二百八十條 公訴ハ檢事ノ指定シタル被告
人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ボサス
第二百八十一條 時効ハ左ノ期間ヲ經過スル
ニ因リテ完成ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件
ニ付テ之ヲ準用ス
刑罰第八十三條ノ罪ニ付相殺者ノ一人ニ
對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他
ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百七十四條 司法警察官告訴又ハ告發ヲ
受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據
物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ
第二百七十五條 第二百七十二條、第二百七
十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消
ニ付テ之ヲ準用ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テ
ハ十年
三 長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル
罪ニ付テハ七年
四 長期十年未満ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル
罪ニ付テハ五年
五 長期五年未満ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰
金ニ該ル罪ニ付テハ三年

ルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得
官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪ア
リト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ
第二百七十條 第二百五十九條ノ規定ハ告發
ニ付テ之ヲ準用ス

第二百七十七條 犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ
風説アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意
シ虛實ヲ探査スヘシ

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月
七 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月
二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テ
ハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス
第二百八十三條 刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減
輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セザル
刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル
時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時効ノ期間ヲ起
算ス
第二百八十五條 時効ハ公訴ノ提起、公判若
ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ
依リ爲シタル裁判ノ處分ニ因リ中斷ス但シ
其ノ手續規定ニ違反シタル爲無効ナルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十五條 豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付
スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調
フルヲ以テ其ノ目的トス
豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料ス
ル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ
第二百九十六條 豫審ニ於テハ取調ノ秘密ヲ
保チ被告入其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セザル
コトニ注意スヘシ

第二百九十七條 豫審判事豫審中共犯アルコ
ト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合
ニ於テ急遽ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待
タズ豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得
豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ
其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因リ時
効ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
第二百八十六條 時効ハ中斷ノ事由ノ終了シ
タル時ヨリ更ニ進行ス
第二百八十七條 時効ハ第三百五條第一項第
二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第
三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止
シタル期間内ハ進行セズ

第二百九十八條 檢事前條第二項ノ規定ニ依
ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求ス
ヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ
爲スヘシ
豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セザル旨ノ通
知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ
依リ通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ
豫審ヲ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續ス
ルコトヲ得ス被疑者ヲ拘留シタルトキハ釋
放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還
付ノ決定ヲ爲スヘシ

第二百九十九條 豫審判事ハ豫審處分ニ付其
ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ
得

第二百七十三條 檢事又ハ司法警察官口頭ノ
告訴

第二百七十八條 公訴ハ檢事之ヲ行フ

第二百八十四條 時効ハ犯罪行爲ノ終リタル
時ヨリ進行ス

豫審ノ請求ハ急遽ヲ要スル場合ニ限リ口頭
又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ
電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之
爲スヘシ

豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セザル旨ノ通
知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ
依リ通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ
豫審ヲ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續ス
ルコトヲ得ス被疑者ヲ拘留シタルトキハ釋
放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還
付ノ決定ヲ爲スヘシ

豫審判事ハ豫審處分ニ付其
ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ
得

第三百零九條 豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ
豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問ス
ルコトヲ得

第三百一〇條 豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ
對シ嫌疑ヲ受ケタル理由ヲ告知シ辯解ヲ爲
サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ
出頭セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百一〇條 豫審判事ハ於テ召喚シ難シ
ト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢
事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得
第三百一〇條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第三百一〇條 押收又は搜索を爲すヘキ
日時及場所は豫め前條ノ規定に依り其處
分に立會ふことを得ヘキ者に通知スヘシ
但し急速を要するときは此ノ限に在らず

第三百一〇條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審
中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ
請求スルコトヲ得
檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケザル限リ書類及證
據物ヲ閲覧スルコトヲ得
辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據
物ヲ閲覧スルコトヲ得

第三百一〇條 豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必
要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
第三百一〇條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢
事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止
スルコトヲ得

第三百一〇條 被告人ノ所在分明ナラザルトキ
一 被告人ノ心神喪失ノ狀況ニ在ルトキ
二 被告人ノ心神喪失ノ狀況ニ在ルトキ
前項ノ決定ハ之ヲ送達セス
第三百一〇條 豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終
ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シ
テ其ノ意見ヲ求ムヘシ

第三百一〇條 豫審判事ノ取調十分ナラス
ト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請
求スルコトヲ得
豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ
其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送
付スヘシ請求ニ應セザルトキハ速ニ其ノ旨
ヲ通知スヘシ

第三百一〇條 檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及
證據物ヲ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ
付シテ之ヲ豫審判事ニ送付スヘシ
第三百一〇條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セザ
ルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄適ノ言
渡ヲ爲スヘシ

第三百一〇條 豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管
内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ關スル事件ニ付
管轄適ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス
第三百一〇條 豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因
ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄適ノ言渡ヲ
爲スコトヲ得ス

第三百一〇條 決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコ
トヲ得
第三百一〇條 免訴ノ決定確定シタルトキハ
左ノ場合ニ限り同一事件ニ付公訴ヲ提起ス
ルコトヲ得
一 新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルト
キ
二 決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ
關シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ
基礎ト爲リタル搜查ニ關シタル檢事
又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴
提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル
判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯
シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレ
タルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢
事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ
於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事
實ヲ知ラザリシトキニ限ル

第三百一〇條 免訴、公訴棄却又ハ管轄適ノ
言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告
人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス
公訴棄却又ハ管轄適ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於
テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ
發スルコトヲ得
勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ
付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所
ノ檢事ニ事件ヲ送致セザルトキハ檢事ハ直

第三百一〇條 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪
ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被
告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ
前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ
適用ヲ示スヘシ

第三百一〇條 被告事件ト爲ラス又ハ公判ニ
付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫
審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ
第三百一〇條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ
決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ
一 確定判決ヲ經タルトキ
二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタ
ルトキ
三 大赦アリタルトキ
四 時効完成シタルトキ

第三百一〇條 左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ
決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ
一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セザルト
キ
二 第三百一〇條ノ規定ニ違反シテ公訴
ヲ提起シタルトキ
三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定ア
リタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタル
トキ

第三百一〇條 免訴、公訴棄却又ハ管轄適ノ
言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ
押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要
アル場合ニ於テハ押收ヲ存置スルコトヲ得
押收ヲ存置シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ
提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送
致セザルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ
被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公
訴ヲ提起セザルトキ亦同シ

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

第三百一〇條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ
公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召
喚スヘシ
第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及
輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス
公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ
第八十四條 被告人ノ召喚ハ召喚狀を發
して之を爲すヘシ
被告人より期日に出頭スヘキ旨を記載し
たる書面を差出し又は出頭したる被告人
に對シ口頭を以テ次同の出頭を命じたる

ときは召喚状を發達したると同一の效力を有す口頭を以て出頭を命じたる場合に於ては其の旨を調書に記載すべし

受訴裁判所に近接する監獄に在る被告人に對しては監獄官吏に通知して之を召喚することを得此の場合に於ては被告人監獄官吏より通知を受けたる時を以て召喚状の送達ありたるものと看做す

第九十九條 召喚状は之を送達す

第三百二十一條 第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚状ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百二十二條 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百二十三條 裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲メ公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急遽ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十四條 裁判所ハ公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命ジ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚状ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚状ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルハ決定ヲ爲スヘシ

第三百二十五條 檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得

第三百二十六條 裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十七條 第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十八條 裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條 裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二節 公判手續

第三百二十九條 公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

第三百三十條 被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得

第三百三十一條 罰金以上ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條 被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條 被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲メ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百三十五條 左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢

事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一 被告人二十歳未満又ハ七十歳以上ナルトキ

二 被告人婦女ナルトキ

三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

四 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者ナルトキ

五 其ノ他必要ト認ムルトキ

第三百三十六條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條 被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百三十九條 裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サレシト思料スルトキハ其ノ供述中ニ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サレシト思料スルトキ亦

同シ

前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十條 證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風説又ハ乘行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限り其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條 證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り

之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 供述者死亡シタルトキ

二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ問スルコト能ハサルトキ

三 訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十五條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百三十三條 被告人に對しては先づ其の人適なきことを確するに足るべき事項を訊問すべし

第三百四十六條 區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限り他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十七條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條 被告、被告人又は辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百四十九條 證據調終リタル後檢察官ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百五十條 裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條 裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢察官及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條 被告人心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ状態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タズ直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルト

キハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三百五十四條 開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 公判ノ裁判

第三百五十五條 被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ判決ヲ以テ管轄適ノ管轄ヲ爲スヘシ

第三百五十六條 地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄適ノ管轄ヲ爲スコトヲ得但シ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三百五十七條 裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄適ノ管轄ヲ爲スコトヲ得

管轄適ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

管轄適ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十八條 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條 被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由又ハ刑ノ加重減免ノ事由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

第三百六十一條 區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日内ニ判決書ノ原本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文並罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル刑罰ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一 確定判決ヲ經タルトキ

二 犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三 大赦アリタルトキ

四 時効完成シタルトキ

第三百六十四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セザルトキ

二 第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無効ナルトキ

第三百十七條 免訴ノ決定確定シタルときは左の場合に限り同一事件に付公訴を提起することを得

一新なる事實又は證據を發見したるとき

二決定若は其の基礎と爲りたる取調

に關與したる判事、公訴の提起若は其の基礎と爲りたる捜査に關與したる檢察官又は第二百五十五條の規定に依り公訴提起の基礎と爲りたる處分を爲したる判事被告事件に付職務に關する罪を犯したるときに確定判決に因り證明せられたるとき但し決定を爲す前判事又は檢察官に對する公訴の提起ありたる場合に於ては決定を爲したる豫審判事其の事實を知らざるときに限り

第三百六十五條 左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一 公訴ノ取消アリタルトキ

二 被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セザルニ至リタルトキ

三 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九條 同一事件事物管轄を異にする數個の裁判所の豫審又は公判に關聯するときは上級裁判所に於て之を審判す

上級裁判所は豫審の請求に因り決定を以て管轄權を有する下級裁判所をして其の事件を審判せしむることを得

第十條 同一事件事物管轄を同じくする數個の裁判所豫審又は公判に關聯するときは最初に公訴を受けたる裁判所に於て之を審判す

各裁判所に共通する直近上級裁判所は豫審の請求に因り決定を以て後に公訴を受けたる裁判所をして其の事件を審判せしむることを得

第三百六十六條 被告人陳述ヲ肯セス許可ヲ受ケシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セザルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條 辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第三百六十九條 有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シテ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

第三百七十條 裁判長ハ判決ヲ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シテ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條 無罪、免訴、刑ノ免除、刑

ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ拘留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ拘留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

拘留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セシ又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十二條 押收シタル物ニ付没收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解除言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セシ又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解除ケルヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十三條 押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ

交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依リ假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百七十四條 刑ノ執行猶豫ノ言ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ居住地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 併合罪ニ付處斷せられたる者或罪ニ付大赦を受けたる場合に於ては特に大赦を受けざる罪ニ付刑を定む

第三百八十八條 上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ事由タル事實ハ之ヲ證明スヘシ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

第三百八十九條 原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條 上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百九十一條 監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ上訴ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ニ差出シタルトキハ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ら申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理人ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理人ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取りタル年月日時ヲ通知スヘシ

を發見したるときは前條の規定に従ひ加重す可き刑を定む

懲役の執行を執りたる後又は其執行の免除ありたる後發見せられたる者に付ては前項の規定を適用せず

第三編 上訴 第一章 通則

第三百七十六條 上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條 檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條 原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第三百八十條 上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條 上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

第三百八十二條 檢事、被告人又ハ第三百七

を發見したるときは前條の規定に従ひ加重す可き刑を定む

懲役の執行を執りたる後又は其執行の免除ありたる後發見せられたる者に付ては前項の規定を適用せず

第三百九十二條 前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十三條 上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第二章 控訴

第三百九十四條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 控訴ノ提起期間ハ七日トス

第三百九十六條 控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

第三百九十七條 控訴ノ申立書法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記録及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移

十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十三條 第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條 上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

訴訟記録ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送致スル前上訴取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

第三百八十五條 上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第三百八十六條 上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十七條 第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間内ニ上訴ヲ爲スコト能ハサルトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百九十九條 控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第四百條 控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

第四百一條 控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除ク外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テハ控訴裁判所其事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

第四百二條 第一審裁判所不法ニ管轄ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得

第四百四條 被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百五條 控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得

第四百六條 第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セザリ

付決定ヲ爲サザリシトキ

十六 法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セザリシトキ

十七 被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘザリシトキ

十八 審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十 判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ

二十一 判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百十一條 前條ノ場合ヲ除ク外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ボササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十二條 刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條 再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ

シトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六十五條 左の場合に於ては決定を以て公訴を棄却すへし

一 公訴の取消ありたるとき

二 被告人死亡し又は被告人たる法人存續せざるに至りたるるとき

三 第九條又は第十條の規定に依り審判を爲すへからざるるとき

第四百七條 第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第四百八條 上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九條 上告ハ第四百二條乃至第四百五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一 法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

二 職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ

三 判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立理由アリト認メラレタ

之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條 左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一 判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二 判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條 第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條 上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條 上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條 前條ノ場合ヲ除ク外原裁判所ハ訴訟記録ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付

ルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ

四 審理ニ關與セザリシ判事判決ニ關與シタルトキ

五 不法ニ管轄又ハ管轄邊ヲ認メタルトキ

六 不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

七 審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

八 別段ノ規定アル場合ヲ除ク外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

九 公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

十 法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十一 不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十二 檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十三 法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲サザリシトキ

十四 公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲サザリシトキ

十五 公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ

シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記録ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

第四百二十二條 上告裁判所ハ遅クモ最初ニ定メタル公判期日ノ五日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十三條 上告申立人ハ遅クモ最初ニ定メタル公判期日ノ五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十四條 上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百二十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記録及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ

其ノ證據ヲ差出スヘシ
 第四百二十六條 上告裁判所上告趣意書ヲ受
 取リタルトキハ速ニ其ノ證據ヲ對手人ニ送
 還スヘシ
 第四百二十七條 上告申立人期間内ニ上告趣
 意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事
 ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ
 第四百二十八條 上告ノ對手人ハ上告趣意書
 ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答
 辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得
 辯書對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ
 理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ
 上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ
 其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申
 立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ
 辯護人ニ之ヲ爲スヘシ
 第四百二十九條 裁判長ハ部員ヲシテ上告申
 立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閲シテ報告
 書ヲ作ラシムルコトヲ得
 第四百三十條 上告審ニ於テハ辯護士ニ非サ
 ル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス
 第四百三十一條 上告審ニ於テハ被告人ノ爲
 ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコ
 トヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定
 ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ
 此ノ限ニ在ラス
 第四百三十二條 公判期日ニハ受命判事ハ辯

論前報告書ヲ朗讀スヘシ
 檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲
 スヘシ
 第四百三十三條 辯護人出頭セサルトキ又ハ
 辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人
 ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シ
 タル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決
 ヲ爲スヘシ
 第四百三十四條 上告裁判所ハ上告趣意書ニ
 包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ
 裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定
 リタル事項ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付
 テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決ア
 リタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大
 赦ニ付亦同シ
 第四百三十五條 對スル上告事件ニ於テハ第
 四十二條乃至第四百四十四條ニ規定スル事
 由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得
 第四百三十六條 上告裁判所ハ裁判所ノ管
 轄、公訴ノ受理及訴訟手續第四百三十三條
 ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲
 スコトヲ得
 第四百三十七條 前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ
 豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スル
 コトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託
 判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス
 受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ

檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシ
 ムルコトヲ得
 受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報
 告ヲ爲スヘシ
 第四百三十八條 第一審判決ニ對スル上告事
 件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項
 ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘ
 シ
 第四百三十九條 第二審判決ニ對スル上告事
 件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令
 ノ違反及第四百三十五條ニ規定スル事由ニ付
 調査ヲ爲スヘシ
 第四百四十條 不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認
 め又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ
 理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テ
 ハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲ス
 ヘシ
 第四百四十一條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ボサ
 サル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢
 止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判
 決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ
 場合ニ於テ第四百三十三條又ハ第四百四十四
 條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキ
 ハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲ス
 ヘシ
 第四百四十二條 事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスヘ
 キ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀ス

ヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ
 審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ
 第四百四十一條 第三條ノ場合ヲ除クノ外上
 告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタ
 ル後第四百四十二條乃至第四百四十四條ニ規定
 スル事由ヲ調査スヘシ
 第四百四十二條 上告裁判所第四百四十二條乃
 至第四百四十四條ニ規定スル事由アリト認ム
 ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實
 ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ
 第四百四十三條 上告裁判所事實ノ審理ヲ爲
 スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付
 更ニ審理ヲ爲スヘシ
 公判期日ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事
 項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫
 審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコ
 トヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判
 事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス
 受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ
 檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシ
 ムルコトヲ得
 受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報
 告ヲ爲スヘシ

第四百四十五條 上告ノ申立法律上ノ方式ニ
 違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナ
 ルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ
 第四百四十六條 上告理由ナキトキハ判決ヲ
 以テ之ヲ棄却スヘシ
 第四百四十七條 上告理由アルトキハ判決ヲ
 以テ原判決ヲ破毀スヘシ
 第四百四十八條 前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ
 破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五
 十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判
 決ヲ爲スヘシ
 第四百四十九條 不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ
 公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決
 ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判
 所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ
 第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得
 第四百五十條 不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ
 理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ
 以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審
 裁判所ニ移送スヘシ
 第四百五十一條 被告人ノ利益ノ爲ニ原判決
 ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲
 シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共
 同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ
 第四百五十二條 被告人上告ヲ爲シ又ハ被告
 人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判
 決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百五十三條 判決書ニハ上告ノ趣意及重
 要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ
 第四百五十四條 原裁判所不法ニ公訴棄却ノ
 決定ヲ爲ササリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ
 棄却スヘシ
 第四百五十五條 第二編中公判ニ關スル規定
 ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ公
 判ニ付テハ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ
 依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於
 テハ尚本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章 抗告

第四百五十六條 抗告ハ特ニ即時抗告ヲ爲シ
 得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲
 シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ
 別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第四百五十七條 裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續
 ニ關シテ原判決ニ爲シタル決定ニ對シテハ特
 ニ即時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場
 合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス
 前項ノ規定ハ拘留、保釋、押収又ハ押收物
 ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告
 人ノ留置ニ關スル決定ニ付テハ適用セス
 第四百五十八條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外
 何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ
 取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限
 ニ在ラス

第四百五十九條 即時抗告ノ提起期間ハ三日トス

第四百六十條 抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ノ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ノ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條 抗告ハ即時抗告ヲ除クノ外裁判所ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ抗告ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ抗告ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十二條 即時抗告ノ提起期間内及其ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ執行ヲ停止ス

第四百六十三條 原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記録及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記録及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條 抗告裁判所ハ抗告ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條 抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第四百六十六條 抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百六十七條 抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條 第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス

第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル抗告ニ付テハ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

- 一 公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告
- 二 控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告
- 三 再審ノ請求ニ付テハ決定ニ對スル抗告
- 四 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告
- 五 裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付

テノ決定ニ對スル抗告

六 證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷せられたる者或罪ニ付キ大赦を受けたる場合に於テは特に大赦を受けざる罪ニ付刑を定む

第五十八條 裁判確定後再犯者たることを發見したるときは前條ノ規定に従ヒ加重す可キ刑を定む

懲役ノ執行を終りたる後又は其執行の免除ありたる後發見せられたる者に付テは前項ノ規定を適用せず

第四百七十條 裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ掲クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

- 一 忌避ノ申立ヲ却下スル裁判
- 二 勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判
- 三 鑑定ノ爲被告ノ留置ヲ命スル裁判
- 四 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

更テ請求スルコトヲ得

第一項第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求期間内及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百七十一條 檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條 前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條 第四百六十三條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十一條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條 第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七十五條 裁判所構成法第五十條第二號ニ掲クル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長搜查ヲ爲スヘシ

第四百七十六條 控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜查ヲ爲スヘシ

第四百七十七條 第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜查ヲ爲スヘシ

第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察吏ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ搜查ノ補助ヲ爲スヘシ

第二百四十七條 警視總監、地方長官及憲兵司令官は又其ノ管轄區域内に於テ司法警察官として犯罪を捜査するに付地方裁判所檢事と同一の權を有す但し東京府知事は此の限に在らず

第二百四十八條 左に掲ぐる者は檢事の輔佐として其の指揮を受け司法警察官として犯罪を捜査すヘシ

一 廳府縣の警察官

二 憲兵の將校准士官及下士

第二百四十九條 左に掲ぐる者は檢事又は司法警察官の命令を受け司法警察吏として捜査の補助を爲すヘシ

一 巡查

二 憲兵卒

第二百五十條 前三條に規定する者の外勅令を以テ司法警察官吏を定むることを得

第四百七十八條 檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前搜查ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條 檢事總長搜查ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條 檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條 大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條 大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四百八十三條 大審院ハ檢察總長ノ意見ヲ

聞キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ
一 被告事件公判ニ付スヘキモノト認ム
二 被告事件公判ヲ開始スル決定
三 被告事件前二號ノ見定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百三十三號乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免訴又ハ公訴ヲ棄却スル決定
第三百十三條 被告事件罪ト爲ラズ又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑なきときは豫審判事は決定を以て免訴の言渡を爲すヘシ
第三百十四條 左の場合に於ては豫審判事は決定を以て免訴の言渡を爲すヘシ
一 確定判決を経たるとき
二 犯罪後の法令に因り刑の廢止ありたるとき
三 大赦ありたるとき
四 時効完成したるとき
五 法に於て刑を免するるとき
第三百十五條 左の場合に於ては豫審判事は決定を以て公訴を棄却すヘシ

第五編 再審

第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ

- 一 被告人に對して裁判權を有せざるるとき
二 第三百十七條の規定に違反して公訴を提起したるとき
三 公訴の取消に因り公訴棄却の決定ありたる事件に付更に公訴を提起したるとき
四 公訴の提起ありたる事件に付更に同一裁判所に公訴を提起したるとき
五 告訴又は請求を待ちて受理すべき事件に付告訴又は請求の取消ありたるとき
六 公訴の取消ありたるとき
七 被告人死亡し又は被告人たる法人存續せざるに至りたるとき
八 第九條又は第十條の規定に依り審判を爲すヘカラスるとき
九 公訴提起の手續其の規定に違反したる爲無効なるるとき

第四百八十四條

再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ

- 一 被告人に對して裁判權を有せざるるとき
二 第三百十七條の規定に違反して公訴を提起したるとき
三 公訴の取消に因り公訴棄却の決定ありたる事件に付更に公訴を提起したるとき
四 公訴の提起ありたる事件に付更に同一裁判所に公訴を提起したるとき
五 告訴又は請求を待ちて受理すべき事件に付告訴又は請求の取消ありたるとき
六 公訴の取消ありたるとき
七 被告人死亡し又は被告人たる法人存續せざるに至りたるとき
八 第九條又は第十條の規定に依り審判を爲すヘカラスるとき
九 公訴提起の手續其の規定に違反したる爲無効なるるとき

第四百八十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於

テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得
一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル理由アルトキ
二 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於

第四百八十七條

再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ

第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲ケタル者之ヲ爲スコトヲ得

一 管轄裁判所ノ檢事
 二 再審ノ言渡ヲ受ケタル者
 三 再審ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫
 四 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條 再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル

トキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條 第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時効期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十六條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢事ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百九十八條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下ケタル者同一ノ原由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十九條 第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第三百八十五條 上訴ノ拋棄又は取下ノ申立は書面を以て之を爲すヘシ但し公判廷に於ては口頭を以て之を爲すことを得此の場合に於ては其の申立を調書に記載すヘシ

第三百九十一條 監獄に在る被告人上訴を爲すには監獄の長又は其の代理者を經由して申立書を差出すヘシ此の場合に於て上訴の提起期間内に申立書を監獄の長又は其の代理者に差出したるときは上訴の提起期間内に上訴を爲したるものと看做す

第三百九十三條 上訴、上訴の拋棄若は取下又は上訴權回復の請求ありたるときは裁判所書記は速に之を對手人に通知すヘシ

第五百條 第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條 第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百二條 第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ

第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百三條 再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ原由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第五百四條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百五條 再審ノ請求理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ原由ニ因リ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六條 再審ノ請求理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條 第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百八條 第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百九條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ掲ケタル者請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ尙有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條 第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第五百十二條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十三條 第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及人タリシ者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタルトキハ決定ハ其ノ效力ヲ失フ第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第五百十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第五百十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編 非常上告

第五百十六條 判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由

ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ
 第五百十八條 公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ
 基キ陳述ヲ爲スヘシ
 第五百十九條 非常上告ヲ理由ナシトスルト
 キハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ
 第五百二十條 非常上告ヲ理由アリトスルト
 キハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ
 一 原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ
 違反シタル部分ヲ破毀シ但シ原判決被
 告人ノ爲ノ利益ナルトキハ之ヲ破毀シ
 被告事件ニ付判決ヲ爲ス
 二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其
 ノ違反シタル手續ヲ破毀ス
 第五百二十一條 非常上告ノ判決ハ前條第一
 號ノ但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除ク
 ノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ボサス
 第五百二十二條 第四百三十四條第一項及第
 四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準
 用ス
 第四百三十四條第一項 上告裁判所は上
 告趣意書に包含せられたる事項に限り調
 査を爲すヘシ
 第四百三十五條 上告裁判所は裁判所の
 管轄、公訴の受理及訴訟手續並第四百十
 三條に規定する事由に關しては事實の取
 調を爲すことを得
 前項の取調は部員をして之を爲さしめ又

は豫審判事若ハ區裁判所判事に之を囑託
 することを得此の場合に於ては受命判事
 及受託判事は豫審判事同一の權を有す
 受命判事又は受託判事は必要と認むるとき
 は檢事及辯護人をして前項の取調に立會
 はしむることを得
 受命判事又は受託判事は取調の結果に付
 報告を爲すヘシ

第七編 略式手続

第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因
 リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命
 令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨
 ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シ
 テ之ヲ爲ス
 裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ
 送達アリタルモノト看做ス
 第五百二十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ揭
 起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第五百二十五條 前條ノ請求アリタル場合ニ
 於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得又
 ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルト
 キハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ
 第五百二十六條 裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事
 實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ

處分並謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ
 正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示
 スヘシ
 第五百二十七條 略式命令ヲ爲シタルトキハ
 檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ
 第五百二十八條 略式命令ヲ受ケタル者ハ謄
 本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判
 ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判
 所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請
 求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢
 事ニ通知スヘシ
 第五百二十九條 第三百八十七條乃至第三百
 九十九條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準
 用ス
 第三百八十七條 第三百七十六條乃至第
 三百七十九條ノ規定に依り上訴を爲すこ
 とを得る者自己又は代人の責に歸すヘカ
 らざる事由に因り上訴の提起期間内に上
 訴を爲すこと能はざりしときは原裁判所
 に上訴權回復の請求を爲すことを得
 第三百八十八條 上訴權回復の請求は事
 由の止みたる日より上訴の提起期間に相
 當する期間内に書面を以て之を爲すヘシ
 上訴權回復の原由たる事實は之を疎明す
 ヘシ
 上訴權回復の請求を爲す者は其の請求と

同時に原裁判所に上訴の申立書を差出す
 へし
 第三百八十九條 原裁判所は檢事の意見
 を聽き上訴權回復の請求を許すヘキカ否
 の決定を爲すヘシ此の決定に對しては即
 時抗告を爲すことを得
 第三百九十條 上訴權回復の請求ありた
 るときは原裁判所は前條の決定を爲す迄
 裁判の執行を停止する決定を爲すことを得
 前項の決定を爲すときは被告人に對し勾
 留狀を發することを得
 第三百七十六條 上訴は檢事又は被告人
 之を爲すことを得
 第三百七十七條 檢事又は被告人に非ざ
 る者にして決定を受けたるものは抗告を
 爲すことを得
 第三百七十八條 被告人の法定代理人、
 保佐人又は夫は被告人の爲獨立して上訴
 を爲すことを得
 第三百七十九條 原審に於ける代理人又
 は辯護人は被告人の爲上訴を爲すことを
 得但し被告人の明示したる意思に反する
 ことを得ず
 第五百三十條 正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判
 決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得
 第五百三十一條 正式裁判ノ請求法律上ノ方
 式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモ

ノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ
 之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗
 告ヲ爲スコトヲ得
 正式裁判ノ請求ヲ通法トスルトキハ通常ノ
 規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ
 ハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ
 第五百三十二條 正式裁判ノ請求ニ因リ判決
 ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其效力ヲ失フ
 第五百三十三條 略式命令ハ正式裁判ノ請求
 期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定
 判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ
 棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編 裁判ノ執行

第五百三十四條 裁判ハ確定シタル後之ヲ執
 行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在
 ラス
 第五百三十五條 裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲
 シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性
 質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判
 事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ
 限ニ在ラス
 上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判
 所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁
 判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記録
 下級裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事
 之ヲ指揮ス

第五百三十六條 裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以
 テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ノ記載シタ
 ル謄本ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑
 ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ
 原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄
 本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得
 第五百三十七條 二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金
 及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但
 シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執
 行ヲ爲サシムルコトヲ得
 第五百三十八條 死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命
 令ニ依ル
 第五百三十九條 死刑ヲ言渡シタル判決確定
 シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記録ヲ司法大
 臣ニ差出スヘシ
 第五百四十條 司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタ
 ルトキハ五日内ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ
 第五百四十一條 死刑ノ執行ハ檢事及裁判所
 書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ
 檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サ
 レハ刑場ニ入ルコトヲ得ス
 第五百四十二條 死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁
 判所書記ハ執行始末書ヲ作り檢事及監獄ノ
 長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ
 第五百四十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心
 神喪失ノ状態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令
 ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ
司法大臣ノ命令ニ依リ執行ヲ停止ス
前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタ
ル場合ニ於テハ控訴又ハ分轄ノ後司法大臣
ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得
ス

第五百四十四條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡
ヲ受ケタル者心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ
刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察又ハ刑ノ
言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル地方
裁判所ノ檢察ノ指揮ニ因リ其ノ控訴ニ至ル
迄執行ヲ停止ス

第五百四十五條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行
ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢察ハ刑ノ言渡
ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ
引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムル
コトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分
アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ死刑ニ
算入ス

第五百四十六條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡
ヲ受ケタル者ニ付左ニ掲ケタル事由アルトキ
ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察又ハ刑
ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル地
方裁判所ノ檢察ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停
止スルコトヲ得

一 刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル

トキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル虞ア
ルトキ

七十歳以上ナルトキ

二 受胎後百五十日以上ナルトキ

三 分産後六十日ヲ經過セサルトキ

四 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不
利益ヲ生スル虞アルトキ

五 祖父母又ハ父母七十歳以上又ハ癩癩
疾ニシテ待養ノ子孫ナキトキ

六 其ノ他重大ナル事由アルトキ

七 刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不
利益ヲ生スル虞アルトキ

第五百四十七條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留
ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ
檢察ハ執行ノ爲メ之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セ
サルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百四十八條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留
ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃
亡スル虞アルトキハ檢察ハ直ニ逮捕狀ヲ發
シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコ
トヲ得

第五百四十九條 死刑、懲役、禁錮又ハ拘留
ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ覺知スルコ
ト能ハサルトキハ檢察ハ檢察長ニ人相書ヲ
送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢察長ハ其ノ管内ノ檢察ヲ
シテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘ
シ

第五百五十條 逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタ

ル者ノ氏名、住居、年齢、刑名、刑期其ノ
他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察又ハ司
法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添
附スヘシ

第五百五十一條 逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ効
力ヲ有ス

第五百五十二條 逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引
狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條 罰金、科料、沒收、追徴、
過料、沒取、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判
ハ檢察ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ
執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス
前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準
用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要
セス

第五百五十四條 沒收又ハ租税其ノ他ノ公課
若クハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡
シタル罰金若クハ追徴ハ刑ノ言渡ヲ受ケタ
ル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相
續財産ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由
ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又
ハ追徴ハ相續財産ニ就キ之ヲ執行スルコト
ヲ得

第五百五十五條 法人ニ對シ罰金、科料、沒
收又ハ追徴ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判

決定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ
合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リ設立シ
タル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五百五十六條 上訴申立後ノ未決勾留ノ日
數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一 檢察ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全
部

二 檢察ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理
由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依リ通算ニ付テハ未決勾留一
日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス
上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾
留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算
ス

第五百五十七條 沒收物ハ檢察之ヲ處分スヘ
シ

第五百五十八條 沒收ノ執行後三月内ニ權利
ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタル
トキハ檢察ハ破産又ハ廢棄スヘキ物ヲ除ク
ノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル
場合ニ於テハ檢察ハ公賣ニ因リテ得タル代
價ヲ交付スヘシ

第五百五十九條 偽造又ハ變造ニ係ル物ヲ返
還スル場合ニ於テハ偽造又ハ變造ノ部分ヲ
其ノ物ニ表示スヘシ

偽造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキ

ハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ
爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ
偽造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相
當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條 押收物ノ還付ヲ受ケヘキ者ノ
所在不明ナル爲メ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其
ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ
檢察ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月内ニ還付ノ請求
ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間内ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ
保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價
ヲ保管スルコトヲ得

第五百六十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判
所ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁
判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條 裁判ノ執行ヲ受ケタル者又ハ
其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ
檢察ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言
渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコ
トヲ得

第五百六十三條 疑義又ハ異議ノ申立ハ書面
ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下
クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス
ヘシ

第三百九十一條ノ規定ハ疑義又ハ異議ノ申
立及其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第三百九十一條 監獄ニ在リ被被告人上訴
を爲すには監獄の長又は其の代理者を經
由して申立書を差出すヘシ此の場合に於
て上訴の提起期間内に申立書を監獄の長
又は其の代理者に差出したるときは上訴
の提起期間内に上訴を爲したるものと看
做す

被告人自ら申立書を作ること能はざると
きは監獄の長又は其の代理者は之を代書
し又は所屬吏員をして之を代書せしむヘ
シ

監獄の長又は其の代理者は原裁判所に申
立書を送付し且之を受取りたる年月日時
を通知すヘシ

第五百六十四條 疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケ
タル裁判所ハ檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス
ヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコ
トヲ得

第五百六十五條 罰金又ハ科料ヲ完納スルコ
ト能ハサル爲メシタル勞務場留置ノ執行ニ
付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百六十六條 第五百五十三條第一項ノ裁
判ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受ケタル者ノ負擔ト
シ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立
ツヘシ

第九編 私訴

第一章 通則

第五百六十七條 犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財産ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

意見を聴き決定を以て下級裁判所の管轄に屬する事件を併せて審判することを得

第十條第二項 各裁判所に共通する直近上級裁判所は檢事の請求に因リ決定を以て後に公訴を受けたる裁判所をして其の事件を審判せしむることを得

第二章 第一審

第五百七十八條 私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シテ裁判所ニ差出スヘシ

ハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ 公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

キ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラレルコトナシ

第五百九十三條 當事者召喚ヲ受ケテ期日ニ出頭セズ又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ秩序維持ノ爲退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三章 上訴

第五百九十四條 私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテハ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百七十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第四百七十七條 第一審ノ判決ニ對する上告ハ控訴ノ申立ありたるときは其の效力を失ふ但し控訴の取下又は控訴棄却の裁判ありたるときは此の限に在らず

第四百二十條 上告の申立法律上の方式に違反し又は上告権消滅後に爲したるも

のなるときは原裁判所は檢事の意見を聽き決定を以て之を棄却すへし此の決定に對しては即時抗告を爲すことを得

第四百二十七條 上告申立人期間内に上告趣意書を差出さざるときは上告裁判所は檢事の意見を聽き決定を以て上告を棄却すへし

第四百四十五條 上告の申立法律上の方式に違反し又は上告権消滅後に爲したるものなるときは判決を以て上告を棄却すへし

第五百九十六條 公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ得

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ上訴ヲ爲スコトヲ得此ノ上訴ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第五百九十七條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

一 公訴ノ判決ニ對シ上訴アリタルトキ

二 法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

第五百九十八條 左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

トキ又ハ訴訟代理人出頭セザルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條 第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト爲ス

第四百四十條 事實の確定に影響を及ぼすべき法令の違反を理由として原判決を破毀すべきものと認むるときは決定を以て事實の審理を爲すべき旨を言渡すへし

第四百四十三條 上告裁判所第四百四十二條乃至第四百四十四條に規定する事由ありと認むるときは檢事の意見を聽き決定を以て事實の審理を爲すべき旨を言渡すへし

第四百十二條 刑の量定甚しく不當なりと思料すべき顯著なる事由あるときは之を上告の理由と爲すことを得

第四百十三條 再審の請求を爲し得べき場合に該る事由あるときは之を上告の理由と爲すことを得

第四百十四條 重大なる事實の誤認あることを疑ふに足るべき顯著なる事由ある

ときは之を上告の理由と爲すことを得

第六百五條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百四十六條 上告理由なきときは判決を以て之を棄却すへし

第六百六條 第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アリタルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條 前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條 公訴ニ付判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

一 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ボスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告

ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス

二 公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ボスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス

第六百九條 前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除クノ外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條 第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條 公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ

第六百十二條 上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十三條 本編第二章ノ規定ハ別段ノ規

刑訴訴訟法 第九編 私訴 第三章 上訴

定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付テ之ヲ適用ス

附則

第六百十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六百十五條 明治二十三年法律第九十六號

刑事訴訟法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條 本法ハ本法施行前ニ生シタル

事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル

訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニ

シテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之

ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條 本法施行前裁判所構成法第十

條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ

申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條 本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ

其ノ理由ノ疎明ヲ爲サザリシ者ハ本法施行

ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條 本法施行前法人ヲ處罰スヘキ

モノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル

事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告

ハトス

第六百二十條 本法施行前始リタル法定期間

ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務

所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ

加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六百二十一條 本法施行前開席判決ヲ受ケ

タル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀

ヲ發スルコトヲ得

第六百二十二條 本法施行前保釋ヲ許ササル

言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ

從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十三條 第二百六十五條ニ規定スル

期間ハ本法施行前犯人ヲ知り又ハ婚姻ノ無

效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ

本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百二十四條 本法施行前免訴ノ決定確定

シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六

號刑事訴訟法第七十五條第二項ノ規定ニ

依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノ

ハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十五條 本法施行前爲シタル本案前

ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ効

力ヲ失フ

第六百二十六條 本法施行前明治二十三年法

律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第

二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定

ニ依リ取調ヲ命セラタル受命判事ハ事件ニ

付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ

爲スヘシ

第六百二十七條 本法施行前言渡シタル開席

判決ニ對シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ

除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツル

コトヲ得

本法施行前開席判決ニ對シテ爲シタル故障

申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依

リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十八條 本法施行前爲シタル抗告ハ

之ヲ本法ニ依リ爲シタル即時抗告ト看做ス

第六百二十九條 本法施行前爲シタル再審ノ

訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ

本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シ

タルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ上告裁

判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付ス

ヘシ

第六百三十條 本法施行前進行ヲ始メタル私

訴ノ時効ハ從前ノ規定ニ從フ

第六百三十一條 本法施行前提起シタル要價

ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟

法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部

ニ移送スヘシ

第六百三十二條 本法中市町村吏員ニ關スル

規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適

用ス

本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條

ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ、町村

制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘ

キ者ニ之ヲ適用ス

附則 (大正十五年法律第七十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和

四年勅令第五號ヲ以テ十月一日ヨリ施行

ス)

訴訟費用

刑事訴訟費用法

(大正十年四月十二日
法律第六十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟費用法

第一條 左ニ掲クルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審又ハ公判ニ付呼出シタル證人、鑑定人及通事ニ給スヘキ日當、旅費及止宿料

二 第三條第二項ニ規定スル費用

第三條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第四條 證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ

汽車賃又ハ船賃ニシテ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ五錢其ノ他ニ在リテハ一海里毎ニ三十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨

第五條 證人、鑑定人及通事ノ止宿料ハ一日五圓以内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第六條 證人、鑑定人及通事ノ日當旅費及止宿料ハ豫審ニ付テハ其ノ終結前公判ニ付テハ判決前ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セズ

第七條 共犯人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ連帶負擔トス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第七十四號)以テ同年五月一日ヨリ施行ス

刑事訴訟法第六十二條乃至第六十七條ヲ削リ陸軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム

海軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム

本法施行前要件シタル費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟費用法

第一條 通常裁判所ノ裁判權ニ關スル事件ト軍法會議ノ裁判權ニ關スル事件ト牽連スルトキハ檢察官及司法警察官ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸海軍ノ檢察官陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一 一人數罪ヲ犯シタルトキ

二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人隠匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其

ノ金額ニ付之ヲ準用ス

前項ノ金額ハ第一條第一號ノ場合ニ在リテハ豫審判事又ハ區裁判所判事、第二號、第三號ノ場合ニ在リテハ檢察官之ヲ定ム

附則 大正十年司法省令第十二號ハ之ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟費用法

第一條 通常裁判所ノ裁判權ニ關スル事件ト軍法會議ノ裁判權ニ關スル事件ト牽連スルトキハ檢察官及司法警察官ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸海軍ノ檢察官陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ旅費日當止宿料給與ノ件

(大正十三年五月二十九日
司法省令第十一號)

第一條 左ニ掲クル者ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

一 刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ檢事ノ請求シタル強制ノ處分ニ付豫審判事又ハ區裁判所判事ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人

二 刑事訴訟法第二百四十四條第一項、第二百二十八條又ハ第二百三十六條ノ規定ニ依リ檢事又ハ檢察官ノ命令ヲ受ケ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人

三 犯罪捜査ニ付檢事ノ呼出ニ應ジテ出頭シタル者

第二條 鑑定、通譯又ハ翻譯ニ付數多ノ時間、特別ノ技能又ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第三條 刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條及第五條ハ前二條ニ掲クル給與

ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二條 陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ陸軍又ハ海軍ノ部隊内ノ犯罪事件ニシテ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノニ付捜査ヲ爲スコトヲ得

第三條 檢事及陸海軍ノ檢察官ハ前二條ノ規定ニ依リ捜査ヲ爲スコトヲ得ヘキ事件ニ付豫審ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ豫審ノ請求ヲ受ケタル豫審判事又ハ豫審官ハ必要ナル處分ヲ爲シタル後豫審判事ハ檢事ニ、豫審官ハ陸海軍ノ檢察官ニ事件ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ豫審判事又ハ豫審官ハ前二條ノ場合ニ於テ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

第四條 陸軍軍法會議法第一條第一項第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一項第一號ニ記載シタル者ニ對シ通常裁判所又ハ豫審判事ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ現行犯ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ハ軍事上已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ承諾ヲ拒ムコトヲ得

陸軍軍法會議法第一條第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一號ニ記載シタル者ニ對シ現行犯ニ關シ通常裁判所、豫審判事、檢事又ハ司法警察官ノ發シタル勾引

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

狀

引状又ハ勾留状ノ執行アリタルトキハ之ヲ發シタル者速ニ其ノ旨ヲ執行ヲ受ケタル者ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知スヘシ

第五條 通常裁判所ノ裁判權及軍法會議ノ裁判權ニ屬スル同一事件ニ付雙方ニ公訴ノ提起アリタルトキハ最初ニ公訴ノ提起アリタル官署之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ通常裁判所及軍法會議共ニ便宜ト認ムルトキハ後ニ公訴ノ提起アリタル官署ニ於テ事件ノ審判ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六條 通常裁判所、豫審判事又ハ檢事ト軍法會議、豫審官又ハ陸海軍ノ檢察官トハ相互ニ牽連事件ニ關スル調書其ノ他ノ書類又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

檢事ハ豫審官、陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ニ對シ第二條ニ掲ケル犯罪事件ノ豫審又ハ捜査ニ關スル書類又ハ證據物ノ送付又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七條 檢事軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ又ハ通常裁判所若ハ豫審判事ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ陸海軍ノ檢察官ニ送致スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付捜査ヲ爲シ又ハ軍法會議若ハ豫審官ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致スヘシ

件ニ付捜査ヲ爲シ又ハ軍法會議若ハ豫審官ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ送致スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ送致前ニ發シタル勾留状ハ送致後ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ勾留状ハ送致ヲ受ケタル官署五日以内豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起セサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第八條 豫審判事ノ爲シタル免訴ノ決定確定シタルトキハ陸海軍ノ檢察官ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

陸海軍ノ檢察官豫審ノ取調終了後不起訴處分ヲ爲シ又ハ豫審ノ請求ヲ取消シタルトキハ檢事ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

軍法會議公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定ヲ爲シタルトキハ檢事ハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第九條 前條ノ規定ニ違反シテ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起シタルトキハ豫審官又ハ軍法會議ハ豫審ノ請求ヲ却下シ又ハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十條 刑事訴訟法ニ依ル時効ノ中断ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸軍軍法

會議法又ハ海軍軍法會議法ニ依ル時効ノ中断ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付其ノ效力ヲ有ス

第十一條 本法ハ陸海軍官憲ト朝鮮、臺灣、關東州ノ司法官憲其ノ他ノ特別司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉法事項及陸軍司法官憲ト海軍司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項ニ付之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年勅令第七十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行ス）
明治十八年第十二號布告ハ之ヲ廢止ス

刑事補償法 (昭和六年四月二日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事補償法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事補償法

第一條 刑事訴訟法ニ依ル通常手續又ハ再審若ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ同法第三百三條ノ規定ニ依リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者未決勾留ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ勾留ニ因ル補償ヲ爲ス

再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者原判決ニ因リ既ニ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ刑法第十一條第二項ノ規定ニ依ル拘置ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ刑ノ執行又ハ拘置ニ因ル補償ヲ爲ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ補償ヲ受ケヘキ者死亡シタル場合ニ於テハ本人ノ遺族ニ對シ前條ノ補償ヲ爲ス死亡シタル者ニ付再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡アリタル場合亦同シ

補償ヲ受クヘキ遺族死亡シタルトキハ次順位ノ遺族ニ對シ其ノ補償ヲ爲ス

第三條 本法ニ於テ遺族ト稱スルハ本人ノ配偶者、子、孫、父、母、祖父及祖母ニシテ

本人死亡ノ當時之ト戸籍ヲ同シウシ引續キ其ノ戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

補償ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ記載スル順序ニ依リ父母及祖父父母ニ付テハ養方ヲ先ニシ實方ヲ後ニス

子及孫數人アルトキハ其ノ順位ハ本人ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム

第四條 無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ノ事由アルトキハ補償ヲ爲サス

一 刑法第三十九條乃至第四十一條ニ規定スル事由ニ由リ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルトキ

二 起訴セラレタル行為カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反シ著シク非難スヘキモノナルトキ

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ行為カ起訴勾留、公判ニ付スル處分又ハ再審請求ノ原因ト爲リタルトキハ第一條第一項ノ補償ヲ爲サス

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ行為カ原有罪判決ノ證據ト爲リタルトキハ第一條第二項ノ補償ヲ爲サス

一個ノ裁判ニ依リ併合罪ノ一部ニ付無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタルモ他ノ部分ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ補償ヲ爲ササルコトヲ得

第五條 勾留ニ因ル補償ニ於テハ勾引状又ハ勾留状執行後ノ拘禁日數ニ對シテ一日五圓以內ノ補償金ヲ交付ス

懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ其ノ日數ニ對シテ一日五圓以內ノ補償金ヲ交付ス拘置ニ因ル補償ニ付亦同シ

死刑ノ執行ヲ受ケタル者ノ遺族ニ對スル補償ニ於テハ拘留ニ因ル補償ノ外裁判所ノ相當ト認ムル補償金ヲ交付ス

罰金又ハ科料ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ該罰金又ハ科料ノ執行ニ等シキ金額ヲ還付ス勞務場留置ノ執行ヲ爲シタルトキハ第二項ノ規定ニ準ジ補償金ヲ交付ス

沒收ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ被沒收物ハ該物ニ係ラサル沒收物又ハ沒收物ノ處分ニ因リテ得タル代價若ハ徵收シタル追徵金ニ等シキ金額ヲ還付ス

第六條 補償ヲ受ケントスル者ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判所又ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル豫審判事ノ屬スル裁判所ニ對シ補償ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ請求書ニハ戸籍謄本ヲ添付スヘシ

補償ヲ受クヘキ者請求ヲ爲シタル後死亡シタルトキハ其ノ請求ハ順次順位ニ於テ補償ヲ受クヘキ者ヨリ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 補償ヲ受クヘキ者ハ先順位者ノ明示シタル意思ニ反シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
補償ヲ受クヘキ者請求ヲ取消シタルトキハ其ノ取消ヲ爲シタル者及後順位者ニ於テ更ニ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第八條 補償ノ請求ハ代理人ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得
第九條 補償ノ請求ハ無罪又ハ免訴ノ裁判確定ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第十條 補償ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ旅事ノ意見ヲ聽キ請求ニ付決定ヲ爲スヘシ
決定ノ際本ハ檢事及請求人ニ送達スヘシ
請求理由アルトキハ補償ノ決定ヲ爲スヘシ
請求理由ナキトキ又ハ期間經過後ニ係ルトキハ之ヲ棄却スヘシ
刑ノ執行又ハ拘留ニ因ル補償ノ請求ト同時ニ勾留ニ因ル補償ノ請求アリタルトキハ主文ヲ區別シテ決定ヲ爲スヘシ
第十一條 補償ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
補償ノ請求ヲ棄却スル決定ニ對シテハ既時抗告ヲ爲スコトヲ得
第十二條 補償ノ決定アリタル後之ニ依リテ補償ヲ受クヘキ者其ノ拂渡ヲ受ケスシテ死亡シタルトキハ其ノ決定ハ順次順位ニ於テ補償ヲ受クヘキ者ニ對シ之ヲ爲シタルモ

ノト看做ス補償ヲ受クヘキ遺族其ノ拂渡ヲ受ケスシテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ
第十三條 補償ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ其ノ決定ヲ爲シタル裁判所ニ請求書ヲ差出スヘシ
請求書ニハ戸籍謄本ヲ添付スヘシ
補償ノ決定ノ送達アリタル後一年以内ニ補償拂渡ノ請求ヲ爲ササルトキハ權利ヲ失フ
第十四條 補償拂渡ノ請求權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス
第十五條 補償ノ請求ニ關スル事件繫屬中再審ノ請求又ハ刑事訴訟法第三百七條ノ規定ニ依ル公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ裁判確定ニ至ル迄決定ノ手續ヲ停止スヘシ
前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シテ有罪ノ判決アリタルトキハ補償ノ請求ハ其ノ效力ヲ失フ
第十六條 補償ノ決定アリタル後再審ノ請求又ハ刑事訴訟法第三百七條ノ規定ニ依ル公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ裁判確定ニ至ル迄補償拂渡ノ手續ヲ停止スヘシ
前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シテ有罪ノ判決アリタルトキハ補償ノ決定ハ其ノ效力ヲ失フ
第十七條 前條第二項ノ場合ニ於テ既ニ補償ノ拂渡アリタルトキハ有罪ノ判決ヲ爲シタル裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ補償ノ返還ヲ命スヘシ此ノ決定ノ執行ニ付テ

ハ刑事訴訟法第五百五十三條乃至第五百五十五條ノ規定ヲ準用ス
第十八條 本法ノ決定及之ニ對スル即時抗告ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外刑事訴訟法ヲ準用ス期間ニ付亦同シ
第十九條 裁判所補償ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定ヲ受ケタル者ノ申立ニ因リ速ニ無罪又ハ免訴ノ裁判ノ主文及要旨並ニ補償ヲ爲シタル旨ヲ官報ニ掲載スヘシ
第二十條 本法ハ軍法會議ニ於テ無罪ノ言渡アリタル場合ニ之ヲ準用ス但シ補償ノ請求ヲ棄却スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ス
軍法會議ニ於テ補償ノ返還ヲ命スル決定ノ執行ニ付テハ陸軍軍法會議法第五十八條乃至第五百二十條又ハ海軍軍法會議法第五百二十條乃至第五百二十二條ノ規定ヲ準用ス
軍法會議ニ於テ補償ニ關スル決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ付テハ陸軍軍法會議法第五十九條第一項又ハ海軍軍法會議法第五十九條第一項ノ規定ヲ準用ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和六年勅令第二百五十八號ヲ以テ同七年一月一日ヨリ施行ス)

司法警察職務規範

(大正十二年十二月 司法省刑事局訓令)

第一章 總則

第一條 司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フニハ法令ノ定ムル所ヲ恪守スルノ外木規範ニ遵由スヘシ
第二條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ法令ノ字句ニ拘泥スルコトナク其ノ精神ニ適合セムコトヲ期スヘシ
第三條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ外語ニ動カサレス私情ニ泥マス專ラ公明正大ヲ旨トシ非違ヲ匡正スルノ任務ヲ全ウセムコトヲ期スヘシ
第四條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ慎ミ廉潔公正世人ノ疑惑ヲ招カサルコトニ注意スヘシ
第五條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素社會ノ變遷人心ノ趨向ニ留意シ犯罪ニ關スル諸般ノ現象ヲ攷究シ其ノ職業ヲ盡スニ遺憾ナキコトヲ期スヘシ
第六條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ敏活ニシテ機宜ヲ失ハス周密ニシテ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第七條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ冷靜ニシテ感情ニ走ラス常ニ中正穩健ヲ旨トスヘシ
第八條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ道義ヲ尊ヒ人情ヲ重シ淳風良俗ヲ害セサルコトニ注意スヘシ
第九條 司法警察ノ職務ヲ行フニハ秘密ヲ嚴守シテ捜査ノ障礙ト犯行ノ傳播トヲ防止シ且被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ
第十條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ互ニ連絡協調ヲ保チ共同一致ノ精神ヲ以テ事ニ從フヘシ
第十一條 司法警察ノ職務ハ必要アル場合ニ於テハ執務時間ノ内外ヲ問ハス夜間又ハ休日ト雖之ヲ行フヘキモノトス
第十二條 司法警察ノ職ニ在ル者他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ヨリ其ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事項ニ付共助ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應ジ遲滞ナク處理スヘシ
第十三條 司法警察ノ職務ハ共助ニ依リ事實發見ノ目的ヲ達スルニ不便ナルトキニ限り管轄區域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得
第十四條 書類ヲ作成スルニハ文飾ヲ用キス簡明平易ヲ旨トシ眞實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ
第十五條 書類ヲ作成スルニハ法律ニ定メタルモノニ非スト雖年月日ヲ記載シテ署名捺

印シ毎葉ニ契印シ其ノ所屬ノ官署ヲ表示スヘシ
文字ハ之ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲其ノ字體ヲ存スヘシ
第十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ錄取シタルトキハ法律ニ定メタル書類ニ非スト雖之ヲ陳述者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ
陳述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ理由ヲ記載スヘシ
第十七條 陳述者ヲシテ任意ニ署名捺印セシムヘシ陳述者署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記シ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ捺印セシムヘシ
第十八條 司法警察ノ職ニ在ル者被疑者又ハ被害者ト親族其ノ他ノ關係ニ因リ他ノ疑惑ヲ招クヘキ虞アルトキハ回避スヘシ
第十九條 司法警察ノ職ニ在ル者其ノ職務ヲ行フニ當リ被疑者其ノ他ノ關係者ノ求アルトキハ官氏名ヲ表示シタル證據ヲ示スヘシ但シ警察官、憲兵ノ將校准士官下士、巡查及憲兵卒制服ヲ著用スル場合ニ於テハ官氏名ヲ告クルヲ以テ足ル

第二章 捜査機關

第十九條 司法警察ノ職ニ在ル者ハ檢事ノ指揮命令ニ從ヒ捜査ノ事ニ膺ルヘシ

第二十條 警視總監、地方長官（東京府知事ヲ除ク）及憲兵司令官ノ捜査ノ權ハ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フ例トス此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ處分ヲ檢事ニ讓ルヘシ

第二十一條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ニシテ犯罪ノ性質、場所ノ關係又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ不便ナル場合ニ於テ捜査ヲ爲スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ捜査ニ著手シタル司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テハ捜査ヲ遂行スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ司法警察官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 司法警察官ノ職務ヲ行フ者其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ司法警察官ニ先チ告知シタルトキハ前條ノ場合ニ非スト雖速ニ捜査ニ著手シタル上司法警察官ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官職務ヲ行フニ至リタルトキハ之ニ讓リ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十三條 司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ先チ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ告知シ第二十一條ノ場合ニ該當スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ

司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ其ノ旨ヲ通知シテ捜査ヲ委ネ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十四條 司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スルニ當リテハ其ノ事件職務ノ範圍ニ屬スルヤ否ニ付慎重ナル注意ヲ爲スヘシ

第二十五條 通告處分ヲ認メタル犯罪事件ニ付テハ當該官吏ノ告發アル迄ハ司法警察官吏ハ其ノ捜査ヲ當該官吏ニ一任スヘシ但シ當該官吏ノ求アルトキハ必要ナル援助ヲ爲スヘシ

司法警察ノ職ニ在ル者前項ノ犯罪事件アリト思料スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ當該官吏ニ通知スヘシ

第二十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ通常捜査ニ限リ豫メ範圍又ハ條件ヲ定メテ之ヲ爲スヘキコトヲ命令スルコトヲ得

第二十七條 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトキハ直ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ豫メ捜査ノ命令アリタル場合ハ必要ナル捜査ヲ爲シタル上遲滞ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第二十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査其ノ他ノ職務ニ付補助ヲ要スルトキハ警察官ハ巡査ヲ使用シ憲兵ノ將校准士官

下士ハ憲兵卒ヲ使用シ勅令ヲ以テ定メタル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ本來ノ職務ノ範圍ニ於テ下僚タルヘキ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルヲ例トス但シ他ノ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルノ必要アルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十九條 司法警察ノ職ニ在ル者管轄區域外ニ於テ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ成ルヘク其ノ地ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ通知シ扨拮阻ナキコトヲ期スヘシ

第三章 捜査ノ端緒

第三十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スルニハ現行犯、告發、告發、自首其ノ他犯罪アリト思料スルニ至リタル原因ノ如何ニ拘ラサルモノトス

新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風説ト雖犯罪ニ關係アルモノハ之ヲ看過スルコトナク相當ノ根據アルコトヲ認メタルトキハ捜査ニ著手スヘシ

第三十一條 司法警察官及其ノ職務ヲ行フ者左ニ掲クル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一 刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪

二 死刑又ハ無期徒刑ニ該ル罪

三 電機ニ關スル重大ナル罪

四 高等官、同待遇者、有爵者、從四位、勳三等及功三級以上ノ者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪

五 帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪

六 辯護士ノ犯シタル罪

七 帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ選舉ニ關スル罪

八 勞動爭議及小作爭議ニ關スル重大ナル罪

九 治安警察法ニ違反スル重大ナル罪

十 新聞紙其ノ他ノ出版物ノ朝憲紊亂、秩序紊亂及風俗墮亂ノ記事ニ關スル罪

十一 内外國ノ通貨偽造、變造及模造ニ關スル罪

十二 爆發物ニ關スル重大ナル罪

十三 公務員ノ職務ニ關スル重大ナル罪

十四 法人ノ役員ノ職務ニ關スル重大ナル罪

十五 無政府主義者、共產主義者其ノ他社會主義者ノ主義ニ關スル罪

十六 各地方ニ連絡アル重大ナル罪

十七 外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル重大ナル罪

十八 公衆ノ耳目ヲ惹ク罪

十九 檢事ヨリ特ニ報告ヲ命ジタル罪

前項ニ掲クル犯罪ニ付告發又ハ告發アリタルトキハ犯罪アリト思料スルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第三十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告發又ハ告發アリタルトキハ犯罪地、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ定ムヘキ原由所轄區域内ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上遲滞ナク之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ差出スヘシ

第三十三條 司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ告發其ノ他ノ犯罪ノ申告ニ關スル書面ヲ差出シタルトキハ之ヲ受ケ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ送付スヘシ

第三十四條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ犯罪ニ關スル申告アリタル場合ニ於テハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス之ヲ受理シ實ニ從テ處理スヘシ

第三十五條 委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシムヘシ告訴ノ取消ニ付亦同シ

本人又ハ委任ニ因ル代理人ニ非サル者ノ告訴ニ係ルトキハ其ノ資格ヲ認スル書面ヲ差出サシムヘシ

森通ノ罪ノ告訴ニ付テハ婚姻ノ解消又ハ離

婚ノ訴ノ提起ヲ認スル書面ヲ差出サシムヘシ

第三十六條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告發又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ要件ニ欠缺アルトキハ成ルヘク之ヲ補正セシムヘシ

第三十七條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告發又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テハ成ルヘク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被疑者又ハ關係者ノ住居、氏名其ノ他參照ト爲ルヘキ事實ヲ申立テシメ之ヲ明ニスヘシ

第三十八條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告發狀又ハ告發狀ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明ナルトキハ本人ノ意思ニ適合セサルヘシト思料スルトキハ之ヲ取調ラ爲シタル上本人ヲシテ補正ノ爲書面ヲ差出サシム若ハ其ノ圖書ヲ作ルヘシ

第三十九條 犯人ヲ指名シタル告發又ハ告發ニ付テハ誣罔ニ出ツルナキカ否及過實ノ申立ナキカ否ニ付特ニ注意スヘシ

第四十條 犯罪ニ關スル申告ヲ爲シタル者申告ヲ爲シタルカ爲後難ヲ畏ルルノ情況アルトキハ必要アル場合ノ外被疑者其ノ他ノ關係者ニ申告者ノ氏名ヲ告クルコトヲ避クヘシ

第四十一條 告發又ハ告發ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク必要ナル捜査ヲ爲シタル上直ニ之

ニ開スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付シ指揮ヲ請フヘシ但シ書類及證據物ヲ送付シタル後ニ於テ急速ヲ要スル事項ヲ生シタルトキハ檢事ノ指揮ナシト雖モ之カ處分ヲ爲スヘシ

第四十二條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ニ付檢減變更ノ申立ヲ受ケタルトキハ本人ヲシテ其ノ趣旨ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ又ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

前項ノ書面又ハ調書ハ之ヲ檢事ニ送付スヘシ

第四十三條 告訴狀又ハ告發狀ハ告訴又ハ告發ノ取消其ノ他何等ノ事由アルモ之ヲ返付スヘカラス

第四十四條 告訴又ハ告發ノ取消ハ當該告訴又ハ告發ヲ受ケタルニ非サル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ受理スヘシ

告訴又ハ告發ノ取消ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スヘシ

第四十五條 第三十一條第二項、第三十二條、第三十六條乃至第三十八條及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ハ自首ニ付テハ準用ス

第四十六條 自首ハ他人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ誣ヒ又ハ重キ罪ヲ避クルノ目的ヲ以テ故ラニ輕キ罪ヲ首出スル等ノ場合ナシトセサルヲ以テ其ノ虛實ニ注意スヘシ

第四十七條 司法警察ノ職ニ在ル者變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ檢事ノ指揮ナシト雖モ急速ヲ要スル捜査ヲ爲スヘシ但シ必要アル場合ノ外原狀ヲ變更セサルコトニ注意スヘシ

司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事ノ命令ニ因リ檢視又ハ檢證ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ結果ヲ報告スヘシ但シ檢事ヨリ豫メ檢視ト共ニ檢證ノ命令アリタルトキハ檢證ヲ爲シタル上報告ヲ爲スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ囑託ニ因リ檢視ヲ爲シタル場合ニ於テ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第四章 捜査ノ實行

第一節 通則

第五十條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトキハ檢事ヨリ別段ノ命令アリタル場合ノ外直ニ捜査ニ着手スヘキモノトス但シ告訴、告發又ハ自首ニ係ル事件ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十一條 捜査ヲ爲スニハ巨懸ヲ過セサルコトニ努メ苛察ニ涉ラサルコトヲ旨トスヘシ

第五十二條 捜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル限度ニ於テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ノ外強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 捜査ハ總體妥當ナル方法ニ依リ之ヲ行ヒ且被疑者其ノ他ノ關係者ノ類累ヲ少カラシムルコトニ注意スヘシ

被疑者其ノ他ノ關係者ノ取調ハ成ルヘク夜間ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避ケタヘシ

第五十四條 捜査ニ付テハ濫ニ被疑者其ノ他ノ關係者ノ體微ヲ許クコトヲナキヤ要ス

第五十五條 捜査ヲ爲スニ當リテハ濫ニ人心ヲ動搖セシメサルコトニ注意スヘシ

第五十六條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ濫ニ法律ノ成語其ノ他難解ノ語ヲ用キスニテ平易簡明ヲ旨トシ容易ニ問ノ趣旨ヲ理解セシムルコトニ注意スヘシ

第五十七條 被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ濫和ヲ旨トシ其ノ年齢、境遇、性格、男女ノ別等ヲ斟酌シテ適當ノ取扱ヲ爲シ其ノ言ハムト欲スル所ヲ盡サシムルコトニ注意スヘシ

第五十八條 捜査ヲ爲スニ當リテハ被疑者ニ付左ノ事項ヲ明ニスヘシ

一 姓名、年齢、職業、本籍、住居及出生地

二 性格、經歷、境遇及素行

三 犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ狀況及犯罪後ノ情況

四 前科ノ有無若前科アルトキハ其ノ罪名、刑名、刑期、金額、裁判ヲ爲シタル應名及其ノ年月日

五 爵位、勳、功、褒章、記章、恩給、年金ノ有無若之ヲ有スルトキハ其ノ種類、等級

六 兵役ノ關係

第五十九條 捜査ヲ爲スニ當リテハ豫斷ヲ避ケ被疑者ノ利益ト爲ルヘキ事情ヲモ明ニセムコトヲ努ムヘシ

第六十條 被疑者犯罪事實ヲ自白シタルトキト雖モ之ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意スヘシ

第六十一條 共犯者ハ成ルヘク各別ニ之ヲ取調ヘ其ノ通謀ヲ防キ且附和雷同シテ陳述ス

ルノ弊ナカラシムルコトニ注意スヘシ

第六十二條 證據書類又ハ證據物ハ成ルヘク被疑者ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ其ノ時誤ラシムルコトニ注意スヘシ

第六十三條 捜査中ノ事件ニ付新聞記事ノ掲載ヲ差止ムル必要アリト思料スルトキハ速ニ其ノ事情ヲ具シ檢事ニ申報スヘシ

第六十四條 捜査上必要アルトキハ被疑者其ノ他ノ關係者ニ任意ノ出頭ヲ求メ又ハ其ノ所在ニ就キ若ハ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行シ其ノ陳述ヲ聽クコトヲ得

第六十五條 被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ聽キタルトキハ自ラ之ヲ錄取スヘシ

事實簡單ナルカ又ハ特別ノ事情アルトキハ聽取書ヲ作ラスシテ任意書面ヲ差出サシムルコトヲ得

第六十六條 被疑者其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ物ハ所有者、所持者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得證據ト爲ルコトアルヘシト思料スル物ニ付亦同シ

質屋取締法第十六條又ハ古物商取締法第十七條ニ依リ徵收シタル物ニシテ證據トシテ

留置スルノ必要アリト思料スルモノハ同條ニ依リ還付處分前領置ヲ爲スヘシ

第六十七條 領置ヲ爲シタルトキハ件名、番號、品目、數量、被領置者ノ姓名、住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作り且領置物ニ件名、番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ

領置物ニ付所有者、所持者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條 領置物ニ付テハ保存ニ注意シ盜難、紛失、滅失、毀棄、損壞、變質等ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

領置物ノ狀態ニシテ證據ト爲ルヘキ場合ニ於テハ其ノ狀態ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第六十九條 領置物ハ證據物又ハ沒收スヘキ物ニ非サルコト其ノ他留置ノ必要ナキコト明ナルニ至リタルトキハ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ贓物ニ係ルトキハ差出人ノ承諾ヲ得テ被害者ニ還付スヘシ差出人承諾セサルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

領置物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求アルトキハ一時留置ヲ解除モ捜査ニ妨ナキ場合ニ限り假ニ之ヲ請求者ニ還付スルコトヲ得差出人ニ非サル者ノ請求ニ因

第七十條 犯所ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明ニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ

第七十二條 鑑定ニ因リ人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合ハ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス物ノ原形ヲ變シ又ハ敷置ヲ著シク滅損スルヲ得

ニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ理由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ成ルヘク鑑定ノ現場ニ立會ヒ捜査ノ參考ト爲ルヘキ事實ヲ發見スルコトニ努ムヘシ但シ鑑定ノ手續ニ付干渉スルコトヲ得ス

第七十四條 鑑定ヲ爲サシメタルトキハ鑑定ノ時、場所、手續及結果ヲ記載シタル鑑定書ヲ提出セシムヘシ

第三節 強制捜査

第七十五條 刑事訴訟法第二百三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合其ノ他法律ニ定メタル場合ノ外捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十六條 強制ノ處分ヲ爲サシムルニハ法律ニ定メタル場合ニ該當スルヤ否ニ付慎重ノ考慮ヲ爲シ其ノ場合ニ該當スルコトヲ明認シタル上之ヲ爲スヘシ

第七十七條 強行犯人ヲ逮捕スルニハ現行犯人ノ抵抗ヲ拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ使用スルモ決シテ自衛ノ範圍ヲ越スヘカラス

第七十八條 常人ニシテ現行犯人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サシムルモアルトキハ成ルヘク其ノ便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第七十九條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ確取リ逮捕書ヲ作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ備シテ之ニ代フルコトヲ得

第七十條 犯所ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明ニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ

第七十二條 鑑定ニ因リ人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合ハ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス物ノ原形ヲ變シ又ハ敷置ヲ著シク滅損スルヲ得

第七十三條 鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ成ルヘク鑑定ノ現場ニ立會ヒ捜査ノ參考ト爲ルヘキ事實ヲ發見スルコトニ努ムヘシ但シ鑑定ノ手續ニ付干渉スルコトヲ得ス

第七十四條 鑑定ヲ爲サシメタルトキハ鑑定ノ時、場所、手續及結果ヲ記載シタル鑑定書ヲ提出セシムヘシ

第七十五條 刑事訴訟法第二百三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合其ノ他法律ニ定メタル場合ノ外捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十六條 強制ノ處分ヲ爲サシムルニハ法律ニ定メタル場合ニ該當スルヤ否ニ付慎重ノ考慮ヲ爲シ其ノ場合ニ該當スルコトヲ明認シタル上之ヲ爲スヘシ

第七十七條 強行犯人ヲ逮捕スルニハ現行犯人ノ抵抗ヲ拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ使用スルモ決シテ自衛ノ範圍ヲ越スヘカラス

第七十八條 常人ニシテ現行犯人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サシムルモアルトキハ成ルヘク其ノ便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第七十九條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ確取リ逮捕書ヲ作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ備シテ之ニ代フルコトヲ得

第九十五條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事又ハ他ノ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ命令又ハ囑託ニ因リ押收ヲ爲シタルトキハ速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ押收物ヲ送付スヘシ

第九十八條 證人ニハ主トシテ見聞其ノ他實驗ノ事實ヲ供述セシメ成ルヘク推測ノ事項ヲ供述セシムルコトヲ避ケヘシ

第一百三條 第七十一條乃至第七十四條及第一百條ノ規定ハ本節ノ規定ニ付テ之ヲ準用ス

得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ命令若ハ囑託ヲ爲シタル官署又ハ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

第六十條 命狀ニ因リ押收又ハ捜索ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還スヘシ

第一百四條 告訴、告發若ハ自首ニ係ル事件又ハ檢事ノ送致ヲ命シタル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス

第九十九條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ捜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス其ノ

第六十一條 司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付捜査ヲ終ヘタルトキハ捜査ノ端緒如何ヲ問ハス速ニ檢事ニ送致スヘシ

第七十條 少年ニ關スル特則 第七十一條 少年ノ事件ニ付テハ保護教養ヲ主トスル精神ヲ以テ事ニ膺ルヘシ

第二百一十一條 少年ヲ逮捕シ又ハ引致スル場合ニ於テハ其ノ方法及強制ヲ加フル限度ニ付特ニ慎重ノ注意ヲ爲スヘシ

第二百一十二條 少年ニ對スル被疑事件ニ付テハ犯罪事實輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト思ハル場合ト雖微罪處分ヲ爲サスシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

第二百一十三條 少年ニ對スル刑事事件ハ捜査又ハ豫審ニ關スルモノノミナラス公判ニ付テラレタル事項ト雖特ニ秘密ヲ嚴守スヘシ少年審判所ノ審判ニ付テラレタル事項亦同シ

第八章 外國人ニ關スル 特別

第二百一十四條 外國人ニ關シ司法警察ノ職務ヲ行フニ當リテハ國際法及國際上ノ慣例ニ違背セサルコトニ注意スヘシ

第二百一十五條 外交官ノ特權ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ特權ヲ害スルノ虞アル行爲ヲ爲ササルコトニ注意スヘシ外交官ノ特權ヲ有スル者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第二百一十六條 大公使館、大公使ノ居宅、別荘又ハ其ノ宿泊スル場所ニ於テハ搜查其ノ他ノ處分ヲ爲スヘカラス

第二百一十七條 重大ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ前條ニ掲ケタル場所ニ入りタル場合ニ於テ猶豫スヘカラサルトキハ大公使又ハ之ニ代ルヘキ權限アル者ノ許諾ヲ受ケ搜索ヲ爲スコトヲ得

第二百一十八條 重大ナル罪ヲ犯シタル者帝國ノ領海ニ在ル外國軍艦ニ現在スル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ其ノ艦長ニ對シ任意ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二百一十九條 外國軍艦ニ屬スル軍人、海軍人其ノ軍艦ヲ離レ帝國領内ニ於テ現ニ罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ逮捕ノ處分ヲ爲シタル上速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第二百二十條 任命國ノ國民タル帝國駐在ノ外國領事、領事、副領事、領事事務官及代理領事ニ對スル被疑事件ニ付テハ檢事ノ指揮アルニ非サレハ急速ヲ要スル處分ト雖之ヲ爲スコトヲ得ス但シ重大ナル罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十一條 帝國駐在ノ外國領事官ノ所有又ハ所持スル書類ニシテ職務ニ關係アルモノハ之ヲ檢閲シ又ハ差押フルコトヲ得ス

前項ノ領事官ノ事務所又ハ居宅ニ於テ搜查其ノ他ノ處分ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十二條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶内ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フヘシ

一 帝國ノ陸上又ハ港内ノ安寧秩序ヲ害スルトキ

二 乗組員以外ノ者又ハ帝國臣民ニ關係アルトキ

前項ニ掲ケタル場合ノ外特ニ捜査ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第二百二十三條 帝國ノ領海ニ在ル外國船舶ノ航行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ直ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第二百二十四條 外國人口頭ヲ以テ告訴、告發、請求又ハ自首ヲ爲サムトスル場合ニ於テ國語ニ通セサルトキハ成ルヘク通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作成シタル調書ハ通事ニ依リ之ヲ本人ニ聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

第二百二十五條 外國人ヨリ外國語ヲ以テ記載シタル告訴狀、告發狀其ノ他ノ書類ヲ提出シタルトキハ之ヲ受理シタル上成ルヘク譯文ヲ提出セシムヘシ

譯文ニハ譯者ヲシテ其ノ住居及職業ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第二百二十六條 被疑者外國人ナル場合ニ於テ

ハ左ノ事項ヲモ明ニスヘシ

- 一 國籍
 - 二 帝國ニ來リタル時期及目的
 - 三 本國ヲ去リタル時期
 - 四 外國ニ於テテノ受刑ノ有無
 - 五 家族ノ有無及其ノ住居
- 第二百二十七條 被疑者其ノ他ノ關係者外國人ニシテ國語ニ通セサルトキハ通事ヲ用キテ取調ヲ爲シ其ノ調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ本人其ノ必要トスル事項ヲ記載セムコトヲ求メタルトキハ之ヲ調書ノ末尾ニ記載セシムヘシ
- 第二百二十八條 外國ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ知得タル事實ニシテ本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキ又ハ外國人其ノ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ秘密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ供述ヲ爲サシムルコトヲ得ス
- 前項ノ場合ニ於テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ
- 第二百二十九條 外國人ニ對シテ發スル召喚狀、勾引狀又ハ逮捕狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添附スヘシ
- 第二百四十條 外國人ニ對シ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク

ク其ノ國語ニ通スル者ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第二百四十一條 外國人ニ對シ押收調書若ハ押收目録ノ謄本若ハ抄本又ハ領證ニ關スル受領書ヲ交付スルトキハ成ルヘク之ニ譯文ヲ添附スヘシ

第二百四十二條 外國艦船乗組員ノ逮捕、留置又ハ逃亡犯罪人ニ關シ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第二百四十三條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帶品ヲ差押ヘタルトキハ其ノ目録ヲ作り本人ト共ニ檢事ニ引渡スヘシ

(備考)

本規範ニ於テ司法警察ノ職ニ在ル者ト稱スルハ司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

(大正十二年十二月二十九日) (勅令第五百二十八號)

改正、昭和三十勅令二三八、昭和九一、勅令一〇〇

朕司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス

第二條 地方裁判所檢事局又ハ其ノ管内區裁判所檢事局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第三條 監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

二規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ... 第三條ノ二 警務官タル内務事務官及警務官... 第四條 左ニ掲ケル者ニシテ其ノ所屬長官共ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察正ト協議シテ任命シタルモノハ第一號乃至第八號ニ掲ケル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十三號ニ掲ケル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ...

ノ地方農林主事、地方農林技師、農林主事補及農林技師... 九 帝室林野局技師補... 十 獵場監守... 十一 看守... 十二 國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記或ハ國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員... 十三 北海道廳河川監守... 第五條 前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ掲ケル罪ニ關スルモノニ限ル...

五 前條第五號及第十二號ニ掲ケル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯... 六 前條第六號ニ掲ケル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪... 七 前條第七號ニ掲ケル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪... 八 前條第八號ニ掲ケル者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪... 九 前條第十三號ニ掲ケル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪... 第六條 警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ司法警察吏ノ職務ハ町村吏員ニ準スヘキ者之ヲ行フ...

違警罪即決例

限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノノ船長ハ其ノ船内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ... 前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ... 附則 本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十四年九月第四十四號布告及同年十二月第八十號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス... 右奉 勅旨布告候事 (別紙) 第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル「違警罪」ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス... 第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ... 又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得...

被告人ノ爲獨立シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得... 第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ... 第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス... 第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ「違警罪裁判所」檢察官ニ送致スヘシ... 第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス...

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得... 第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ「違警罪裁判所」ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經シテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス... 被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ配偶者ハ

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得... 第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ「一圓」ヲ一日「ニ折算シテ之ヲ留置ス其「一圓」ニ滿サル者ト雖モ仍ホ「一日」ニ計算ス... 第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ「一日」ヲ「一圓」ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證

第七條 海船(沿海航路以上ノ航路ヲ航路定

トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ
 第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑罰
 五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス
 第十條ノ二 前二條ノ規定ニ依リ留置シタル
 場合ニ於テハ速ニ被告人ノ法定代理人、保
 佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者及ヒ被
 告人ノ屬スル家ノ戸主中被告人ノ指定スル
 者ニ其旨ヲ通知スヘシ
 第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡
 確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受ク
 ヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒收シテ
 本刑ニ換フ
 第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ
 因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置
 ヲ解クヘシ
 第十三條 留置ノ日數ハ「一日ヲ一圓」ニ折
 算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑罰
 ニ算入スヘシ
 第十四條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ留
 置セラレタル者ノ接見又ハ書類其他ノ物ノ
 接受ニ付テハ刑事訴訟法第百一十一條及ヒ第
 百十二條第一項ノ規定ヲ準用ス但接見ハ之
 ヲ禁止スルコトヲ得ス

陪審法

(大正十二年四月十八日)
法律第五十號

改正 昭和四一法律六一

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經
 タル陪審法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 陪審法

第一章 總則

第一條 裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事
 事件ニ付陪審ヲ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ
 爲スコトヲ得
 第二條 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル
 事件ハ之ヲ陪審ヲ評議ニ付ス
 第三條 長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁
 錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬
 スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ
 之ヲ陪審ヲ評議ニ付ス
 第四條 左ニ掲ケタル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ
 規定ニ拘ラス之ヲ陪審ヲ評議ニ付セス
 一 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪
 二 刑法第二編第一章乃至第四章及第八
 章ノ罪
 三 治安維持法ノ罪
 四 軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法
 ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪

五 法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタ
 ル罪
 第五條 第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ
 之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定
 メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十
 日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第六條 被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何
 時ニテモ事件ヲ陪審ヲ評議ニ付スルコトヲ
 辭シ又ハ請求ヲ取下ケルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ヲ評議ニ付
 スルコトヲ得ス
 第七條 被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取
 調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ
 陪審ヲ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被
 告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此
 ノ限ニ在ラス
 第八條 地方ノ狀況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ
 失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判
 所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 公判ニ繫屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタ
 ルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ
 第九條 前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ
 附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ
 前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢
 事ヲ經由スヘシ
 公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ
 爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知

シ且請求書ノ原本ヲ被告人ニ交付スヘシ
 被告人ハ原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日
 内ニ意見書ヲ差出スコトヲ得
 管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス
 ヘシ
 第十條 管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告
 人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定ア
 ル迄事件ヲ陪審ヲ評議ニ付スルコトヲ辭シ
 又ハ請求ヲ取下ケルコトヲ得
 被告人事件ヲ陪審ヲ評議ニ付スルコトヲ辭
 シ又ハ請求ヲ取下ケタルニ因リ事件陪審ノ
 評議ニ付スヘカラサルニ至リタルトキハ檢
 事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノ
 ト看做ス
 共同被告人中事件ヲ陪審ヲ評議ニ付スルコ
 トヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキ
 ハ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付
 亦前項ニ同シ
 第十一條 上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ
 評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章 陪審員及陪審ノ構成

第十二條 陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者ヲ
 ルコトヲ要ス
 一 帝國臣民タル男子ニシテ三十歳以上

陪審法 第二章 陪審員及陪審ノ構成

タルコト
 二 引續キ二年以上同一市町村内ニ住居
 スルコト
 三 引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ
 納ムルコト
 四 讀ミ書キヲ爲シ得ルコト
 前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一
 日ノ現在ニ依ル
 第十三條 左ニ掲ケタル者ハ陪審員タルコトヲ
 得ス
 一 禁治産者、準禁治産者
 二 破産者ニシテ復権ヲ得サルモノ
 三 懲役、監禁、盲者
 四 懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重
 罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者
 第十四條 左ニ掲ケタル者ハ陪審員ノ職務ニ就
 カシムルコトヲ得ス
 一 國務大臣
 二 在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海
 軍法務官
 三 在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所
 評定官
 四 在職ノ官内官吏
 五 現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
 六 在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳
 支廳長
 七 在職ノ警察官吏

八 在職ノ監獄官吏
 九 在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
 十 在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官
 吏
 十一 郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ
 從事スル者並船員
 十二 市町村長
 十三 辯護士、辨理士
 十四 公證人、執達吏、代書人
 十五 在職ノ小學校教員、代書人
 十六 神官、神職、僧侶、諸宗教師
 十七 醫師、齒科醫師、藥劑師
 十八 學生、生徒
 第十五條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執
 行ヨリ除外セラルヘシ
 一 陪審員被害者ナルトキ
 二 陪審員私訴當事者ナルトキ
 三 陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事
 者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ
 四 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事
 者ノ屬スル家ノ戸主又ハ家族ナルトキ
 五 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事
 者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐
 人ナルトキ
 六 陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事
 者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
 七 陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ

八 陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲
 リタルトキ
 九 陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯
 護人、補佐人又ハ私訴當事者ノ代理人
 ト爲リタルトキ
 十 陪審員事件ニ付判事、檢察、司法警
 察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタル
 トキ
 第十六條 左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭
 スルコトヲ得
 一 六十歳以上ノ者
 二 在職ノ官吏、公吏、教員
 三 貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以
 テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ
 限ル
 第十七條 市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿
 ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村內
 ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登録スヘシ
 陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、
 職業、居住地、生年月日及納税額ヲ記載ス
 ヘシ
 市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製
 シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ
 第十八條 市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其
 ノ應ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ覽覽ニ供ス
 ヘシ
 第十九條 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿

ニ登録セラレタル者ハ覽覽期間内及其ノ後
 七日内ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコト
 ヲ得
 法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登録セ
 ラレタル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立
 ヲ爲スコトヲ得
 異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ曉明
 スヘシ
 第二十條 市町村長異議ノ申立ヲ正當トスル
 トキハ通稱ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ
 其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ
 通知スヘシ
 市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ通
 稱ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判
 事ニ送付スヘシ
 第二十一條 前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判
 所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ
 其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スヘ
 シ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審
 員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命シ其ノ
 旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ
 前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル
 日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
 第二十二條 地方裁判所長ハ毎年九月一日迄
 ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域
 内ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知ス
 ヘシ

第二十三條 市町村長前條ノ通知ヲ受ケタル
 トキハ第二十二條及第二十一條ノ規定ニ依リ
 整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ
 以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數
 ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿
 ヲ調製スヘシ
 前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ
 之ヲ爲スヘシ
 第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候
 補者名簿ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ
 選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス
 區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ
 必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得
 第二十五條 市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪
 審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付
 スヘシ
 市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登録セラレ
 タル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示
 スヘシ
 第二十六條 市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審
 員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中
 死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又
 ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當
 スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ通
 稱ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ
 第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付

公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫
 メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候
 補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤
 シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ
 前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ
 爲スヘシ
 第二十八條 陪審員トシテ呼出ニ應ジタル者
 ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ
 登録セラレタル者四分ノ三呼出ニ應ジタル
 後ニ非ザレハ其ノ年内再ヒ陪審員ニ選定セ
 ラルコトナシ
 第二十九條 陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之
 ヲ構成ス
 第三十條 陪審ハ檢察被告事件ヲ陳述スル時
 ヲリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同
 一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス
 第三十一條 裁判長ハ事件二日以上引續キ開
 廷ヲ要スト恩料スルトキハ十二人ノ陪審員
 ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立
 會ハシムルコトヲ得
 補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病
 其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサ
 ル場合ニ於テ之ニ代ルモノトス
 補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務
 ヲ行フハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル
 抽籤ノ順序ニ依ル
 第三十二條 同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク

場合ニ於テハ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員
 ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ
 於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲ス
 ヘシ
 第三十三條 檢察及被告人異議ナキトキハ一
 ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日
 ニ審理スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハ
 シムルコトヲ得
 第三十四條 陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依
 リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス
 第三十條 陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依
 リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三章 陪審手續

第三十五條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付
 テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ
 第三十六條 被告人公判準備期日前辯護人ヲ
 選任セザルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在
 地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ
 被告人ノ利害相反セザルトキハ同一ノ辯護
 人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得
 第三十七條 公判準備期日ニハ被告人及辯護
 人ヲ召喚スヘシ
 公判準備期日ハ之ヲ檢察ニ通知スヘシ
 第三十八條 召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期
 日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存
 スヘシ
 第三十九條 公判期日ヲ定メタル後被告人ノ
 請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモ
 ノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備
 期日トス
 第四十條 公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數
 ノ判事、檢察及裁判所書記列席シテ之ヲ爲
 ス
 公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非
 ザレハ取調ヲ爲スコトヲ得辯護人數人ア
 ルトキハ其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足ル
 公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セス
 第四十一條 第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審
 ノ評議ニ付スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對
 シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得
 ヘキ旨ヲ告知スヘシ
 第四十二條 公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ
 公訴事實ニ付出頭シタル被告人ヲ訊問スヘ
 シ
 陪審判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スル
 コトヲ得
 檢察及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人
 ヲ訊問スルコトヲ得
 第四十三條 公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ
 必要ナル證據ヲ決定ヲ爲スヘシ
 檢察、被告人及辯護人ハ證人ヲ訊問、鑑定、
 檢證又ハ證據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求
 スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第四十四條 裁判所書記ハ公判準備書ヲ作リ公判準備期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢事被告人辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

第四十五條 公判準備書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外被審事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名並手續ヲ爲シタル裁判所年月日及裁判長陪審員檢事裁判所書記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セザルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 公判準備書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備書ヲ檢閱シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條 檢事、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前迄亦同シ

第四十八條 裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢事、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

立會フコトヲ得 裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條 前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

第五十二條 被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ理由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條 裁判所公判準備期日ニ免訴ノ理由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

付更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條 前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

第五十六條 第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス

第五十七條 公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第五十八條 陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セザルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五十九條 陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應ズルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ説明スヘシ

第六十條 陪審構成ノ手續ハ判事、檢事、裁判所書記、被告人辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

第六十一條 前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六十二條 陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

第六十三條 陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ理由アリヤ否ヲ問フヘシ

第六十四條 檢事及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告

人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條 裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

第六十六條 陪審員ニ對シテ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

第六十七條 陪審員ハ抽籤終リタル後ハ之ヲ取消スルコトヲ得ス裁判長抽籤終リタル後ハ之ヲ取消スルコトヲ得

第六十三條 出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セザル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條 檢事及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告

書類圖畫

第七十三條 裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外限ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一 共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ

二 被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ

三 被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲ササルトキ

第七十四條 前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條 證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條 證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ援用スルコトヲ得ス
被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實證據ノ要旨ヲ説示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及評議ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十八條 裁判長ノ説示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十九條 裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラズト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル事由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ間ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第八十條

陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十一條 裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審員ニ交付スヘシ
陪審員ハ問書ノ原本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ引カシムヘシ
裁判長ハ評議室ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審員ニ交付スルコトヲ得

第八十三條 陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條 陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ滞留ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條 陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セザルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得
第八十六條 陪審員ハ裁判長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條 陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ説示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條 答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラズノ語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ揚クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラズノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條 評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ
主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條 陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ
第九十一條 犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半数ノ意見ニ依ルコトヲ要ス
犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半数ニ達セザルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條 答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ
答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命スヘシ

第九十三條 裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀

セシムヘシ

第九十四條 前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條 裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條 陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲サザルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ
被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ
有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ理由アル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ
無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

第九十八條 引續キ七日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ
陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由

ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ
前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公訴棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ理由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ
第一百條 裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ説示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節 上訴
第一百一條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス
第一百二條 陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得
第一百三條 上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得但シ事實アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第一百四條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス
一 法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セザリシトキ

第十二條 第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレヘキ陪審員評議ニ關シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲ササリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 忌避セラレタル陪審員評議ニ關シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 裁判長ノ説示法律ニ違反シタルトキ裁判長證據トシテ説示シタルモノノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

第十六條 裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ説示ヲ爲シタルトキ

第十七條 上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除ク外事件ノ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

第十八條 破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戻スヘシ

第五條 陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク呼出ニ應セザルトキ

二 宣誓ヲ拒ミタルトキ

三 第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 故ナク退廷シタルトキ

五 第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第六條 陪審員評議ノ顛末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作人及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入り又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所内ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シテ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前山ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十一條 前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ニ停止スル效力ヲ有ス

第十二條 過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 市制第六條ノ市ニ於テハ本法中ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

第十四條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第十五條 第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第三十三條及第三十四條ノ規定ハ昭和二年勅令第四百四十四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス、其他ノ規定ハ昭和三年勅令第四百六十五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

少年法 (大正十一年四月十七日法律第四十二號)

第一章 通則

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ

第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第三條 本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ヲ除ク外陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ掲ケタル者ニ之ヲ適用セス

第二章 保護處分

第四條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ處スコトヲ得

一 訓誡ヲ加フルコト

二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト

三 書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト

四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト

第五條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

第六條 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

第七條 感化院ニ送致スルコト

第八條 矯正院ニ送致スルコト

第九條 病院ニ送致又ハ委託スルコト

第十條 前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三日ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ヲ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第十二條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶ほ又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

第十三條 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑事處分

第十五條 第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス

刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セズ

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人十八歳ニ達シタル後ト雖二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一 無期刑ニ付テハ七年

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年

三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトヲクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトヲクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 少年ニ對シテハ勞務場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十四條 少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケタルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

適用ニ付テハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

第四章 少年審判所ノ組織

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ設ク

第十六條 少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコトヲ得

第十八條 少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條 少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條 少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督ス

二人以上ノ少年審判官ヲ置キタル少年審判所ニ於テハ上席者前項ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ

第二十一條 少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官ハ判事ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十二條 少年審判官審判ノ公平ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事由アリト思料スルトキハ職務ノ執行ヲ避クヘシ

第二十三條 少年保護司ハ少年審判官ヲ輔佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコトヲ得

第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ從事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五節 少年審判所ノ手續

第二十六條 大審院ノ特別權限ニ關スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セズ

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢察官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セズ

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役

二 若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セズ

十四歳ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セズ

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲

スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條 少年審判所ハ少年保護司ニ命シテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命シ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述

又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 條件ヲ附シ又ハ附セズシテ保護者ニ預タルコト

二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三 病院ニ委託スルコト

四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得
 本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得
 附添人ハ辯護士、保護事業ニ従事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ
 第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ
 少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得
 審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出ササルコトヲ得
 第四十四條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ際ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得
 第四十五條 審判ハ之ヲ公行セス但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得
 第四十六條 少年審判所審判ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ

終結處分ヲ處スヘシ
 第四十七條 刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢察ニ送致スヘシ
 裁判所又ハ檢察ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴訟ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢察ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
 前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ
 檢察ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘシ
 第四十八條 訓誡ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ諭告スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ
 第四十九條 學校長ノ訓誡ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ訓誡ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ
 第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ
 第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受ケヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スヘシ
 第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ
 第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ
 第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス處アル少年ニ對シ前條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ
 第五十六條 少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ
 第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲

シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得
 第五十八條 少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ觀察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得
 第五十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢察ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢察ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢察ニ送致スヘシ
 禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ
 第六十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得
 第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス
 第六十二條 檢察少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ
 第六十三條 第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルヘキ事件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ付刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ
 少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 第六十五條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命刑事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢察ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得
 第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六十七條 勾引狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ

得ス
 拘置監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ
 第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ
 第六十九條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ
 第七十條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得
 第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ
 檢察官前項ノ決定ニ對シ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第七十二條 第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ
 第七十三條 第四十二條、第四十三條、第二項、第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス
 第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙

其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在
リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ
在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮
又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ同十二年一
月一日ヨリ施行ス)

矯正院法(大正十一年四月十七日
法律第四十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル矯正院法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 矯正院
第一條 矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル
者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院
ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス
第二條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十
三歳ヲ超ユルコトヲ得ス
第三條 矯正院ニハ特ニ區別シタル場所ヲ設
ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假
ニ委託シタル者ヲ置ク
第四條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ
從ヒ之ヲ設ク
第五條 十六歳ニ滿タル者ト十六歳以上ノ
者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收
容ス
第六條 矯正院ハ之ヲ獨立トス
第七條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス
第八條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一岡官
吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ
第九條 少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ
第十條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲メ
格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必

要ナル實業ヲ練習セシム
第十一條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事
由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受
ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲メ親權者又
ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ
得
第十二條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シ
タル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト
認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲ
シテ退院セシムヘシ
第十三條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致
シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタ
ルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件
ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得
第十四條 假退院者ハ假退院ノ期間内少
年保護司ノ觀察ニ付ス
第十五條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタル
トキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受
ケ假退院ヲ取消スコトヲ得
第十六條 在院者又ハ假退院者逃走シタルト
キハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕
スルコトヲ得
第十七條 少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス
第十八條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在

院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者
ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ
第十七條 前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判
所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ニ付
之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正
十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ同十二年一
月一日ヨリ施行ス)

矯正院處遇規程

(大正十一年十二月十八日
司法省令第三十四號)

改正 昭和四一司法省令二一
矯正院處遇規程左ノ通相定ム

第一章 收容

第一條 少年ノ收容ハ當該官廳ノ送致書、委
託書又ハ入院許可ノ裁判書ニ依ル
第二條 少年ヲ收容シタルトキハ送致又ハ委
託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ
第三條 入院者ニ付テハ各別ニ少年簿ヲ作り
之ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第二章 教導

第四條 院長ハ入院者ニ對シ遵守事項及心得
事項ヲ説示スヘシ
第五條 入院者ニ付テハ其ノ性行、境遇、經
歴、學術技能ノ程度、心身ノ狀況等身上ニ
關スル事情ヲ精査シ其ノ結果ニ基キ居室及
修習スヘキ學科、實科ノ種類、程度ヲ定ム
ヘシ
第六條 在院者ノ處遇ニ關シ必要ナル取調ヲ
爲スニ付テハ少年審判所ニ補助ヲ求ムルコ
トヲ得
第七條 院長ハ中學校及實業學校程度以下ノ
學校ニ準シ課程及教科目ヲ定メ且教科用圖
書ヲ選定シ司法大臣ニ申報スヘシ
第八條 院長ハ在院者ノ矯正ニ有益ナリト認
ムルモノニ限リ教科外ノ圖書ヲ閱讀セシム
ルコトヲ得
第九條 休日ニハ在院者ヲ休養セシメ適當ト
認ムル方法ニ依リ其ノ心身ノ修養、鍛鍊ニ
力ムヘシ
第十條 祖父母又ハ父母病篤キトキハ在院者
ヲシテ往訪セシムルコトヲ得
第十一條 祖父母又ハ父母死亡シタルトキハ
三日間謹慎セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ
祭祀ヲ行ハシムルコトヲ得父母ノ祭日亦同
シ

第三章 賞罰

第十二條 一月一日、紀元節及天長節祝日ニ
ハ在院者ヲ參集セシメ左ノ順序ニ從ヒ式ヲ
舉クヘシ
一 職員及在院者「君カ代」ヲ合唱ス
一 院長教育ニ關スル勅語ヲ奉讀シ其ノ
義ヲ衍フ
一 職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ
合唱ス
第十三條 院長ハ學科及實科ノ成績證明書ヲ
授與スルコトヲ得
第十四條 院長ハ在院者ノ成績ニ鑑ミ左ニ掲
クル等級ノ褒賞ヲ與フルコトヲ得
一 褒狀
一 賞與
一 賞票
第十五條 院長ハ成績特ニ優良ナル在院者ニ
對シ左ニ掲クル殊遇ヲ與フルコトヲ得
一 特ニ設ケタル居室器具其ノ他ノ設備
ノ使用
一 組長其ノ他名譽トスル地位ノ授與
一 定時又ハ臨時ノ外出
第十六條 在院者紀律ニ違背シタルトキハ院
長ハ情狀ニ依リ左ニ掲クル懲戒ヲ行フコト
ヲ得

一 總費
一 褒賞ノ刺章
一 直立
一 屏居
前項ノ懲戒ニ依リテハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ體罰ヲ行フコトヲ得
第十七條 懲戒ハ在院者ノ心身ノ狀況ニ注意シテ之ヲ行フヘシ

第四章 給養

第十八條 在院者ニハ衣類、寢具、學用品及雜品ヲ交付ス
第十九條 院長ハ在院者一人ニ對シ貸與又ハ給與スヘキ物品ノ種目、員數及使用期間ヲ定メ司法大臣ニ申報スヘシ
第二十條 貸與品又ハ給與品ニ付テハ其ノ區別ニ從ヒ貸與品簿又ハ給與品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第二十一條 在院者ノ食物ハ之ヲ給與スル院長ハ主食物ノ種類及分量ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第二十二條 大祭日、祝日其ノ他院長尙當ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス特別ノ食物ヲ給與スルコトヲ得
第二十三條 自辨品ハ在院者ノ紀律、衛生ニ

害ナキ限リ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第五章 衛生及診療

第二十四條 疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外入院者ヲ入浴セシメ健康診斷ヲ行フヘシ
第二十五條 居室、衣類、寢具等ハ在院者ヲシテ之ヲ整頓セシムヘシ
第二十六條 在院者ニハ院長ノ定ムル所ニ依リ髪及入浴ヲ爲サシムヘシ
第二十七條 春秋二回在院者ノ體格検査ヲ行ヒ必要アルトキハ臨時健康診斷ヲ行フヘシ
第二十八條 傳染病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ應急適切ナル處置ヲ爲スヘシ
第二十九條 傳染病發生シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ司法大臣ニ申報スヘシ
第三十條 在院者ニハ疾病豫防ノ爲必要ナル醫術ヲ行フヘシ
第三十一條 在院者重病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨委託ヲ爲シタル官廳、親權者、後見人戶主其ノ他ノ保護者ニ通知スヘシ

第六章 面會及通信

第三十二條 在院者ハ院長ノ許可ヲ受ケ面會又ハ通信ヲ爲スコトヲ得
第三十三條 面會ハ應接室ニ於テ之ヲ爲サシ

ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第七章 領置

第三十四條 院長ハ在院者ノ所有品ヲ領置シ適當ト認ムルトキハ之ヲ其ノ親權者若ハ後見人ニ交付シ又ハ本人ヲシテ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得
第三十五條 領置スヘキ物品ハ本人立會ノ上其ノ種目及數ヲ點檢シ領置品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第三十六條 在院者所有ノ金錢ハ本人立會ノ上其ノ金額ヲ計算シ本人ノ名ニ於テ郵便貯金ノ手續ヲ爲シ其ノ通帳ハ院長之ヲ保管シ領置金簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第三十七條 在院者ニ寄贈ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
第三十八條 領置ノ金品ハ退院又ハ假退院其ノ他領置ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ還付スヘシ但シ在院中ト雖必要アリト認ムルトキハ之ヲ在院者ニ交付スルコトヲ得

第八章 退院及假退院

第三十八條 院長ハ在院者ノ退院ノ許可ヲ求ムルニハ在院中ニ於ケル行狀及學科實科ノ成績ヲ表示シテ之ヲ爲スヘシ
第三十九條 在院者ノ假退院ノ許可ヲ求ムル

ニハ前條ニ定ムル事項ノ外假退院後遵守スヘキ條件及保護ヲ引受クヘキ適當ノ者アルトキハ其ノ氏名住居職業假退院者トノ關係、保護ヲ引受クヘキ適當ノ者ナキトキハ其ノ事由ヲ表示スヘシ
第四十條 假退院ノ許可アリタルトキハ直ニ假退院ノ日時ヲ定メ保護ヲ引受クヘキ者及住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ニ通知スヘシ
第四十一條 住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ハ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司ヲ定メ矯正院ニ通知スヘシ
第四十二條 院長ハ假退院ヲ許ス者ニ假退院證ヲ授與シ遵守スヘキ條件ニ付說示シ保護ヲ引受クヘキ者又ハ少年保護司ニ引渡スヘシ
第四十三條 前條ノ引渡ヲ爲シタルトキハ院長ハ之ヲ司法大臣ニ申報シ假退院ヲ許可シタル少年審判所ニ通知スヘシ
第四十四條 假退院者住居ニ到達シタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル保護者ハ少年保護司ニ届出テ少年保護司ハ矯正院ニ通知スヘシ
第四十五條 少年審判所少年保護司ノ申出ニ依リ假退院者ノ行狀其ノ他ノ事由ニ因リ指定ノ條件ヲ變更スヘキ必要アリト認ムルトキハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得
第四十六條 少年審判所假退院者ニ指定シタル

ル條件ヲ變更シタルトキハ之ヲ矯正院ニ通知シ且新ナル條件ヲ文書ニ記載シ少年保護司ヲシテ假退院者ニ交付セシムヘシ
少年保護司ハ條件ノ變更ニ付必要ナル說示ヲ爲スヘシ
第四十七條 院長ハ假退院ヲ取消シタルトキハ之ヲ少年保護司ニ通知スヘシ
少年保護司前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ入院ノ手續ヲ爲シ假退院證及前條ノ文書ヲ還納セシムヘシ
第四十八條 假退院者逃走又ハ死亡シタルトキハ保護ヲ引受ケタル者ハ直ニ少年保護司ニ届出ツヘシ其ノ軍人軍屬ト爲リタルトキ亦同シ
第四十九條 少年保護司假退院者ノ逃走若ハ死亡シタルコト又ハ軍人軍屬ト爲リタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク矯正院ニ通知スヘシ
第五十條 退院又ハ假退院ヲ爲ス者ニハ事情ニ依リ貸與品ノ全部又ハ一部ヲ給與シ且歸住旅費又ハ相當ノ衣類ヲ給與スルコトヲ得
第五十一條 在院者ニ付處分ノ取消又ハ變更アリタルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ取扱ヲ爲スヘシ處分ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第九章 逃走及死亡

第五十二條 在院者逃走又ハ死亡シタルトキハ院長ハ直ニ之ヲ司法大臣ニ申報シ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ逃走者再ヒ入院シタルトキ亦同シ
第五十三條 在院者死亡シタルトキハ院長ハ死體ノ檢視其ノ他必要ナル處置ヲ爲スヘシ
第五十四條 院長ハ病名、死因及死亡ノ日時ヲ速ニ親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者ニ通知シ死體ヲ引取ラシムヘシ
第五十五條 死體ノ引取人ナキトキハ院長ハ成規ノ手續ニ依リ之ヲ假葬シ死者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル墓標ヲ立ツヘシ

附則 本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

感化法 (明治三十三年三月十日)

改正 (明治四一法律四三)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル感化法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道及府縣ニハ感化院ヲ設置スヘシ
第二條 感化院ハ地方長官之ヲ管理ス
第三條 感化院ニ關スル經費ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス
第四條 北海道及府縣ニ於テハ其ノ區域内ニ團體又ハ私人ニ屬スル感化事業ノ設備アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ感化院ニ代用スルコトヲ得
第五條 感化院ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ入院セシム
一 滿八歳以上十四歳未滿ノ者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲スノ虞アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナク地方長官ニ於テ入院ヲ必要ト認メタル者
二 十八歳未滿ノ者ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ出願シ地方長官ニ於テ

其ノ必要ヲ認メタル者
三 裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者
四 少年審判所ヨリ送致セラレタル者
第六條 入院者ノ在院期間ハ滿二十歳ヲ越ユルコトヲ得ス但シ第五條第三號又ハ第四號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス
第七條 地方長官ハ何時ニテモ條件ヲ指定シテ在院者ヲ假ニ退院セシムルコトヲ得
假退院者ニシテ指定ノ條件ニ違背シタルトキハ地方長官ハ之ヲ復院セシムルコトヲ得
第八條 感化院長ハ在院者及假退院者ニ對シ親權ヲ行フ
在院者ノ父母又ハ後見人ハ在院者及假退院者ニ對シ親權又ハ後見ヲ行フコトヲ得ス
第九條 感化院ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ適用セス
第十條 感化院長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加フルコトヲ得
第十一條 行政廳ハ第五條第一號ニ該當スヘキ者アリト認メタルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スヘシ此ノ場合ニ於テハ假ニ之ヲ留置スルコトヲ得
前項留置ノ期間ハ五日ヲ超ユルコトヲ得ス
第十二條 地方長官ハ在院者ノ扶養義務者ヨリ在院費ノ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ費用ヲ規定ノ期限内ニ納付セザル者アルトキハ國稅徵收法ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得
第十一條ノ二 國庫ハ道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス
第十二條 在院者ノ親族又ハ後見人ハ在院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得
前項出願ノ許可ヲ得サル在院者ニ關シテハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ退院ヲ出願スルコトヲ得ス
第十三條 第五條第一號又ハ第十一條第二項ノ處分ニ不服アル者又ハ第十二條第一項ノ出願ヲ許可セラレザル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
第十三條ノ二 府縣ハ共同シテ感化院ヲ設置スルコトヲ得
前項感化院ノ管理及費用分擔ノ方法ハ關係地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ内務大臣之ヲ定ム
第十三條ノ三 第五條ニ該當スル者ニシテ別ニ命令ヲ以テ定メタル者ハ之ヲ國立感化院ニ入院セシムルコトヲ得
第六條乃至第九條、第十一條、第十二條及第十三條ノ規定ハ國立感化院ニ之ヲ適用ス
附則 本法施行ノ期日ハ地方長官ノ具申

ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

附則 (大正十一年法律第四十四號)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第四百八十七號)
以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス
第五條第一號ニ規定スル地方長官ノ權限ハ少年限リ仍從前ノ例ニ依ル

監獄法 (明治四十一年三月二十八日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則
第一條 監獄ハ之ヲ左ノ四種トス
一 懲役監 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
二 禁錮監 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
三 拘留場 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
四 拘置監 刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス

拘置監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得
警察官署ニ附屬スル拘留場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但シ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス
第二條 二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未滿ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歳ニ至ルマテ又滿二十歳ニ至リタル後三月内ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得
心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハラサルコトヲ得
第三條 監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分附ス
懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘置監ノ同一區劃内ニ在ルモノハ之ヲ分界ス
第四條 主務大臣ハ少クモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡視セシム可シ
第五條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其ノ他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得
第六條 本法ニ依リ没入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄懲罰ノ用ニ充ツ
第七條 在監者監獄ノ處理ニ關シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閱官ニ情願ヲ爲スコトヲ得
第八條 勞務場ハ之ヲ監獄ニ附設ス
第九條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除外

刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ死刑ノ言渡第
ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス
可キ規定ハ勞務場留置ノ言渡ヲ受ケタル者
ニ之ヲ準用ス
第十條 本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適
用セス

第二章 收監

第十一條 新ニ入監スル者アルトキハ合狀又
ハ判決書及ヒ執行指揮書其ノ他適法ノ文書
ヲ査閲シタル後入監セシム可シ
第十二條 新ニ入監スル婦女其子ヲ携帶セン
コトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限り
滿一歳ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得
監獄ニ於テ分機シタル子ニ付テモ亦前項ノ
例ニ依ル
第十三條 新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依
リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹
リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメザル
コトヲ得
第十四條 新ニ入監スル者アルトキハ其身體
及ヒ衣類ノ検査ヲ爲スコシ在監中ノ者ニ付
キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章 拘禁

第十五條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當
ト認ムルモノヲ除外ノ之ヲ獨居拘禁ニ付ス

第四章 戒護

第十九條 在監中逃走、暴若クハ自殺ノ虞行

第十六條 雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、
性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其監房ヲ別
異ス
第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在
監者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス
十八條 未滿十八歳以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心
身發育ノ狀況ニ因リ其必要ナシト認ムルト
キハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ
之ヲ準用ス
第十七條 刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關
連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ
於テモ其交通ヲ遮斷ス
第十八條 懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監
及ヒ勞務場ノ同一區劃内ニ在ル場合ニ於テ
ハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ教誨堂ヲ使
用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監
房若クハ座席又ハ診察若クハ教誨ノ時間ヲ
異ニス
病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セ
サルコトヲ得

アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用
スルコトヲ得
第二十條 法令ニ依リ監獄官吏ノ携帶スル劔
又ハ銃ハ左ノ各款ノ一ニ該ル場合ニ限り在
監者ニ對シテ之ヲ使用スルコトヲ得
一 人身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲
シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ
二 危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ
所持シ其ノ放棄ヲ肯セザルトキ
三 逃走ノ目的ヲ以テ多量ノ廢棄スルトキ
四 逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿
ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ
逃走セントスルトキ
第二十一條 天災事變ニ際シ必要ト認ムルト
キハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシムル
コトヲ得
前項ノ用務ニ就キタル者ニハ第二十八條ノ
規定ヲ準用ス
第二十二條 天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ選
難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所
ニ護送ス可シ若シ護送スルノ途ナキトキハ
一時之ヲ解放スルコトヲ得
解放セラレタル者ハ監獄、ハ警察官署ニ出
頭ス可シ解放後二十四時間内ニ出頭セザル
トキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷ス
第二十三條 在監者逃走シタルトキハ監獄官

史ハ逃走後四十八時間内ニ限り之ヲ逮捕ス
ルコトヲ得
前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ
妨ケス

第五章 作業

第二十四條 作業ハ衛生、經濟及ヒ在監者ノ
刑罰、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ
斟酌シテ之ヲ課ス
十八條 未滿十八歳ノ者ニ課ス可キ作業ニ付テハ前
項ノ外特ニ教養ニ關スル事項ヲ斟酌ス
第二十五條 大祭祝日、一月一日二日及ヒ十
二月三十一日ニハ就業ヲ免ス
父母ノ計ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免
ス
主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ
免スルコトヲ得
炊事、洒掃、看護其他監獄ノ經理ニ屬シ必
要ナル作業ニ就ク者ニ付テハ就業ヲ免セザ
ルコトヲ得
第二十六條 刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚
作業ニ就カントコトヲ請フトキハ其選擇スル
モノニ就キ之ヲ許スコトヲ得
第二十七條 作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得ト
ス
在監者ニシテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定
ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シ
テ其額ヲ定ム
第二十八條 在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又
ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ
營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當
金ヲ給スルコトヲ得
前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死
亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者
又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章 教誨及ヒ教育

第二十九條 受刑者ニハ教誨ヲ施スコシ其他
ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ
得
第三十條 十八歳未滿ノ受刑者ニハ教育ヲ施
スコシ其他ノ受刑者ニシテ特ニ必要アリト
認ムルモノニハ年齢ニ拘ハラズ教育ヲ施ス
コトヲ得
第三十一條 在監者文書、圖書ノ閱讀ヲ請フ
トキハ之ヲ許ス
文書、圖書ノ閱讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以
テ之ヲ定ム
第三十二條 受刑者ニハ一定ノ衣類器具ヲ著
用セシム但拘留囚ニハ白衣ノ著用ヲ許シ其
他ノ者ニハ褌衣ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第七章 給養

第三十三條 刑事被告人及ヒ勞務場留置ノ言
渡ヲ受ケタル者ノ衣類器具ハ自辨トシ其自
辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス
自辨ノ衣類器具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム
第三十四條 在監者ニハ其體質、健康、年齡
作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ
給ス
第三十五條 刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許
スコトヲ得

第八章 衛生及ヒ醫療

第三十六條 在監者ノ頭髮鬚髭ハ之ヲ剃削セ
シムルコトヲ得但刑事被告人ノ頭髮鬚髭ハ
衛生上特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除ク外
其意思ニ反シテ之ヲ剃削セシムルコトヲ得
第三十七條 在監者ハ其拘禁セラルル監房ノ
清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服スコシ
第三十八條 在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要
ナル運動ヲ爲サシム
第三十九條 在監者ニハ種痘其他傳染病豫防
ニ必要ト認ムル醫術ヲ行フコトヲ得
第四十條 在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師
ヲシテ治療セシメ必要アルトキハ之ヲ病監
ニ收容ス
第四十一條 傳染病者ハ嚴ニ之ヲ隔離シ健康

者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ス
但懲罰ヲシテ看護セシムルハ此限ニ在ラ
ス
第四十二條 病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治
療ヲ補助セシムルコトヲ得
因リ之ヲ許スコトヲ得
第四十三條 精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹
リ監獄ニ在テ適宜ノ治療ヲ施スコト能ハス
ト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ
移送スルコトヲ得
前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監
者ト看做ス
第四十四條 妊婦、産婦、老弱者及ヒ不具者
ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章 接見及ヒ信書

第四十五條 在監者ニ接見セントコトヲ請フ者
アルトキハ之ヲ許ス
受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サ
シムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル
場合ハ此限ニ在ラス
第四十六條 在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ
受クルコトヲ許ス
受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受
ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト
認ムル場合ハ此限ニ在ラス
第四十七條 受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當

ト認ムルモノハ其發受ヲ許サス
前項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ二年ヲ經
過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得
第四十八條 裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者
ニ宛テタル文書ハ披閱シテ之ヲ本人ニ交付
ス
第四十九條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ前
條ノ文書ハ本人閱讀ノ後之ヲ領置ス
第五十條 接見ノ立會、信書ノ檢閱其他接見
及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定
ム
第五十一條 在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ
之ヲ領置ス
保存ノ價値ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル
物ハ其領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得
領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在
監者相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄
スルコトヲ得
第五十二條 在監者領置物ヲ以テ其父、母、
配偶者又ハ子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テ
ントコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコ
トヲ得
第五十三條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請
フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ
許スコトヲ得

第十章 領置

第五十四條 在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ
没入又ハ廢棄スルコトヲ得
第五十五條 領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス
第五十六條 死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相
續人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス
第五十七條 死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ
一年内ニ前條ニ掲ケタル者ノ請求ナキトキ
ハ國庫ニ歸屬ス
逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內
ニ居所分明セサルトキ亦同シ

第十一章 賞罰

第五十八條 受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇
ヲ爲スコトヲ得
賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十九條 在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲
罰ニ處ス
第六十條 懲罰ハ左ノ如シ
一 叱責
二 賞遇ノ三月以内ノ停止
三 賞遇ノ廢止
四 文書、圖書閱讀ノ三月以内ノ禁止

五 請願作業ノ十日以内ノ停止
六 自辨ニ係ル衣類風具者著用ノ十五日
以内ノ停止
七 糧食自辨ノ十五日以内ノ停止
八 運動ノ五日以内ノ停止
九 作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減
削
十 七日以内ノ減食
十一 二月以内ノ輕屏禁
十二 七日以内ノ重屏禁
屏禁ハ受刑者ヲ罰室内ニ晝夜屏居セシメ情
狀ニ因リ就寢セシメサルコトヲ得重屏禁ニ
在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス
第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得
第六十一條 前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事
被告人及十八歳未満ノ在監者ニ之ヲ科セス
第六十二條 懲罰ニ處セラレタル者疫病其他
特別ノ事由アルトキハ其懲罰ノ執行ヲ停止
スルコトヲ得
懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキ
ハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第十二章 釋放

第六十三條 在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル
者ノ命令又ハ刑事ノ終了ニ因リ關係文書ヲ
査閱シテ其手續ヲ爲スコトヲ得
第六十四條 恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假
出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ許可書
ノ監獄ニ達シタル後二十四時間内ニ之ヲ釋
放ス
第六十五條 前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ
釋放ヲ爲スコキ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタ
ル後十時間内ニ之ヲ釋放ス
第六十六條 假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル
者ヲ釋放スルトキハ之ニ證書ヲ交付ス
第六十七條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間
左ノ規定ヲ遵守ス可シ
一 正業ニ就キ善行ヲ保ツコト
二 警察官署ノ監督ヲ受クルコト但警察
官署ハ監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ
委任スルコトヲ得
三 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲
サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フ
コト
主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外
ニ旅行ヲ爲スコトヲ得
第六十八條 滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午
後六時マテニ之ヲ釋放ス
第六十九條 釋放セラレ可キ者重キ疾病ニ罹
リ監獄ニ於テ治療中ナルトキハ其請求ニ因
リ仍ホ在監セシムルコトヲ得
第七十條 釋放セラレ可キ者歸住旅費若クハ
相當ノ衣類ヲ有セザルトキ又ハ監獄行政ノ
便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費

第十三章 死亡

ノ増加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ
旅費ヲ給與スルコトヲ得
第七十一條 死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於
テ之ヲ爲ス
大祭祝日、一月一日、二月二日及ヒ十二月三十一
日ニハ死刑ヲ執行セス
第七十二條 死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後
死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞
繩ヲ解クコトヲ得ス
第七十三條 在監者死亡シタルトキハ之ヲ假
葬ス
死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコ
トヲ得
死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬
スルコトヲ得
第七十四條 死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又
ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ
交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在ラス
第七十五條 受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公
務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得
附則
本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ
當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

ニ付キ亦同シ
 第三十條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ
 巡視シタル監獄官吏ハ其視察シタル事項ヲ
 典獄ニ報告ス可シ
 第三十一條 第二十五條第一項及ヒ第二項ニ
 掲ケタル受刑者ニシテ監房不足ノ爲メ獨居
 拘禁ニ付スルコト能ハサルモノ及ヒ獨居拘
 禁ノ期間満了後必要アリト認ムルモノハ之
 ヲ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ
 第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ
 之ヲ準用ス
 第三十二條 夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル
 者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在
 房セシム可シ
 第三十三條 勞務場留置ノ言渡ヲ受ケタル者
 ト受刑者トハ之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜
 居セシムルコトヲ得ス
 第三十四條 病者又ハ不具者ト健康者トハ之
 ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但看護ニ
 從事スルモノハ此限ニ在ラス
 第三十五條 雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス
 可シ但療養其他已ムコトヲ得サル場合ハ此
 限ニ在ラス
 第三十六條 雜居監房、工場、教場及ヒ教誨
 堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止
 ス可シ
 第三十七條 監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但

拘置監、女監及病監ハ此限ニ在ラス
 第三十八條 雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場
 合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得
 ス
 第三十九條 居房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ在房者
 ノ番號ヲ記載ス可シ
 第四十條 雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現
 在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ク可シ
 第四章 戒護
 第四十一條 監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニ
 シ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品
 ヲ検査ス可シ
 開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ
 監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得
 ス
 第四十二條 監獄ノ外門、各出入口、監房、
 工場及ヒ現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ
 閉鎖シ置ク可シ若シ必要ニ因リ一時開放ス
 ルトキハ其要所ヲ守衛ス可シ
 鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル
 場合ニ非サレハ其授受ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十三條 監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非
 サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ
 開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得
 ス但病監ニ在リテハ此限ニ在ラス
 第四十四條 監獄ノ構内ニ於テハ常ニ視察ノ

便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其他戒護ノ障礙ト爲ル
 可キ物ヲ置ク可ラス
 已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其他攀越
 ノ用ニ供シ得キ物ヲ構内ニ置クトキハ之
 ニ鎖鑰ヲ施ス可シ
 第四十五條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ
 毎日一回監房ノ検査ヲ爲サシム可シ
 第四十六條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ
 監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ノ
 検査ヲ爲サシム可シ
 第四十七條 在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ
 必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ
 第四十八條 戒具ハ左ノ五種トス
 一 鎖鑰衣
 二 防變具
 三 手錠
 四 頸鎖
 五 繩捕
 戒具ノ製式ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム
 第四十九條 戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレ
 ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第五十條 鎖鑰衣ハ暴行又ハ自殺ノ虞アル在
 監者、防變具ハ制止ヲ肯セシテ大聲ヲ
 發スル在監者、手錠及繩捕ハ暴行、逃走若
 クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監
 者、頸鎖ハ監外ノ作業ニ就ク受刑者ニシテ
 必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコ

トヲ得
 鎖鑰衣ハ十二時間以上、防變具ハ六時間以
 上之ヲ使用スルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必
 要アル場合ニ於テハ爾後三時間毎ニ更新ス
 ルコトヲ妨ケス
 護送中ノ者ニハ鎖鑰衣ヲ使用スルコトヲ得
 ス
 第五十一條 監獄官吏在監者ニ對シテ劔又ハ
 銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司
 法大臣ニ申報ス可シ
 第五十二條 典獄ハ懲役囚ニシテ受刑後三月
 ヲ經過シ逃走ノ虞ナキ者ノ中ニ就キ豫メ防
 防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定シ爾時
 消防演習ヲ爲サシムヘシ
 第五十三條 監獄法第二十二條ニ依リ在監者
 ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所
 ヲ告知ス可シ
 第五十四條 在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合
 ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康
 ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可
 シ
 護送ヲ停止シタルトキハ其旨ヲ關係官廳ニ
 通報ス可シ
 第五十五條 護送中ハ男女ヲ同行セシム可カ
 ラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連ス
 ルモノ亦同シ
 刑事被告人及ヒ十八歳未満ノ者ハ護送ノ際

他ノ在監者ト區分ス可シ
 第五十六條 在監者逃走シタルトキハ典獄ハ
 速ニ監獄所在地及ヒ其附近竝ニ逃走者ノ立
 寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者
 ノ人相書ヲ送ヘ逃送ノ事實ヲ通報ス可シ
 第五十七條 前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事
 實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シ
 タルトキ亦同シ
 逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ
 爲ス外逃走者及ヒ逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報
 ス可シ
 第五章 作業
 第五十八條 在監者ノ作業時間ハ司法大臣之
 ヲ定ム
 典獄ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ
 種類ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ作業時間
 ヲ伸縮スルコトヲ得
 請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時
 間以内短縮スルコトヲ得
 教育、教誨及ヒ運動ニ要スル時間ハ之ヲ作
 業時間ニ算入スルコトヲ得
 第五十九條 作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ
 受クヘシ
 第六十條 在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ
 一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ
 第六十一條 作業科程ハ普通一人ノ仕上高及

ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシ
 テ等一ニ之ヲ定ムヘシ
 仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付
 テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作
 業科程トス
 十八歳未満ノ受刑者、老若、病弱者及ヒ不
 具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付キ相當
 ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得
 第六十二條 作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セ
 シムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト
 併課スルコトヲ得
 第六十三條 一日ノ作業科程ヲ終了シタル者
 ト雖モ作業時間内ハ繼續シテ作業ニ就カシ
 ム可シ
 第六十四條 請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當
 ノ事由アルニ非サレハ其作業ヲ中止シ若ク
 ハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコ
 トヲ得ス
 第六十五條 典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在
 監者ヲ受刑作業ニ就カシムルコトヲ得
 第六十六條 刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ
 就カシムルコトヲ得ス
 刑期六月ニ滿タス又ハ受刑後三月ヲ經過セ
 サル受刑者ハ特別ノ事由アル場合ノ外監外
 ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但十八歳未
 滿ノ受刑者ヲ監外ノ農業ニ就カシムルハ此
 限ニ在ラス

第六十七條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ検査セシム可シ

第六十八條 仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條 前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲スコトヲ得

第七十條 左ニ掲クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

- 一 入監シタル翌月ヨリ二月ヲ經過セザルモノ
- 二 釋放ノ月ニ該ルモノ
- 三 行狀不良ニシテ作業成績劣等ナルモノ

就業日數十五日ニ滿タサル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ササルコトヲ得

第七十一條 作業賞與金ハ行狀、性向、作業ノ種類、成績、科程ノ了否ヲ斟酌シ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ計算スコトヲ得

第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ前條ニ依リ計算シタル額ヲ增加スルコトヲ得

第七十三條 在監者惡意又ハ重大過失ニ因リ

器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ内ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條 就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業賞與計算高ヲ告知スコトヲ得

第七十五條 作業賞與金ハ其計算高ヲ有スル者生計上必要ナキトキハ全部又ハ一部ヲ給與セサルコトヲ得

作業賞與金ハ釋放ノ際之ヲ給與ス

作業賞與金ヲ給與スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ條件ヲ指定スルコトヲ得

第七十六條 十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求其他必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條 作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條 作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月内ニ其居所分明セザルトキハ

其計算高ヲ抹消スコトヲ得

第七十九條 監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依リ手當金ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給與スコトヲ得

第六章 教誨及ヒ教育

第八十條 教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條 病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 受刑者父母ノ計ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 恩赦、假出獄若クハ假出場所ノ渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト雖モ故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施

ス受刑者ニハ毎日四時間以内小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授スコトヲ得

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應ジ毎日二時間以内相當ノ補習學科ヲ教授スコトヲ得

第八十六條 文書圖書ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及ヒ時事ノ論議ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サス

第八十七條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ增加スルコトヲ得

第八十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房内ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章 給養

第八十九條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具食器及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

- 一 常衣
- 二 作業衣
- 三 襪衣
- 四 帶

六 足袋

五 蒲團又ハ毛布

四 敷布

三 枕

二 蚊簾

一 食器

一 膳

二 飯櫃

三 箸

四 皿

五 雜具

一 手巾

二 履物

三 雨具

四 冠物

前項ニ掲クル物品ノ製式ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム

足袋ハ作業又ハ衛生上必要アル者ニ限り之ヲ交付ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ雜具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

前項ニ依リ雜具ノ品目ヲ增加シタルトキハ其事由ヲ具シ司法大臣ニ申報スコトヲ得

用紙、齒磨櫛、齒磨粉、石鹼、妻湯杖等

日常必需品ハ之ヲ給與ス

第九十條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付一箇トス但蚊簾ハ此限ニ在ラス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル箇數ヲ増減スルコトヲ得

前項ニ依リ箇數ノ増減ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ具シ司法大臣ニ申報スヘシ

病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ増減スルコトヲ得

食器及ヒ日常必需品ノ數量ハ典獄ニ於テ之ヲ定ム

第九十條ノ二 監房又ハ工場内ニ備フル器具ノ品目ハ左ノ如シ

- 一 机
- 二 塵拂
- 三 掃帚
- 四 塵取
- 五 布巾及ヒ雜巾
- 六 紙屑入れ
- 七 飲料水容器
- 八 雑用水容器
- 九 洗面器
- 十 調理用具
- 十一 唾壺
- 十二 便器
- 十三 便器

十四 履物箱

前項ニ掲クル掃除用具ハ其用途ニ從ヒ區分
ス可シ
机、寢臺、調髪用具及ヒ團扇ハ必要アル場
合ニ限リ之ヲ備フ

監房及ヒ工場ニハ第一項ノ品目並ニ數量ヲ
記載シタル小札ヲ掲ク可シ
第九十一條 受刑者ニ着用セシムル衣類ハ結
色トス

左ニ掲クル衣類臥具ハ淺葱色トス

一 刑事被告人ニ貸與スル衣類

二 勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸
與スル衣類

三 十八歳未満ノ受刑者ニ着用セシムル
衣類

四 處遇上必要アリト認メタル受刑者ニ
着用セシムル衣類

五 蒲團

護送又ハ出廷ノ場合ニ於テハ前二項ノ規定
ニ拘ラス別ニ定ムル衣類ヲ着用セシムルコ
トヲ得禁錮囚ニ付處遇上特ニ必要アルトキ
亦同シ

第九十二條 自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且
ツ監獄ノ紀律及ヒ衛生ニ害ナキ物ニ限ル
自辨ノ衣類臥具ノ品目及ヒ箇數ハ典獄之ヲ
定ム

第九十三條 自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交
換、補綴又ハ洗濯セシム可シ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ洗濯
シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條 在監者ニ給與スル糧食ノ種類及
ヒ分量ハ左ノ如シ

一 飯(下白米十分ノ四麥十分ノ六)

一人一回米一七二瓦以下

一人一日 五錢以下

地方ノ狀況若クハ物價ノ高下ニ因リ又ハ在
監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄
ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更
スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司
法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ増加スルコ
トヲ得

第九十五條 在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ
用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウル
コトヲ得

第九十六條 在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ
用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウル
コトヲ得

第九十七條 病者ノ料食及ヒ飲料ハ典獄ニ於
テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條 自辨料食ノ種類及ヒ分量ハ典獄
之ヲ定ム

第九十九條 自辨料食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス
者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其
者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨料食ノ販賣又ハ取扱
ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第一百條 自辨料食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫
其検査ヲ爲ス可シ

第一百一條 雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨
料食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用キ
シム可シ

第八章 衛生及ヒ醫療

第一百二條 監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシテ衣類
臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸氣其他適當ノ
方法ヲ用キテ之ヲ清潔ナラシム可シ

第一百三條 受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ
一回、鬚髭ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ剪
削セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ
此限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ剪
削セシムルコトヲ得

第一百四條 頭髮鬚髭ヲ剃削セシメサル場合ニ
於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ

婦女ニハ膏油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第一百八條 在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其
旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告
人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第一百九條 妊婦ハ受胎後七月以上ノ者産婦
ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病
者ニ準スルコトヲ得

第九章 接見及ヒ信書

第二十條 十四歳未満ノ者ニハ在監者ト接
見ヲ爲スコトヲ許サス

第二十一條 接見ノ時間ハ三十分以内トス
但辯護人トノ接見ハ此限ニ在ラス

第二十二條 接見ハ執務時間内ニ非サレハ
之ヲ許サス

第二十三條 接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ
十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ十五日毎ニ
一回、懲役囚ニ付テハ一月毎ニ一回トス但
シ十八歳未満ノ受刑者又ハ之ニ準スル處遇
ヲ爲ス受刑者ノ接見度數ハ典獄ニ於テ教化
上必要ト認ムル程度ヲ標準トシテ適宜之ヲ
増加スルコトヲ得

第二十四條 典獄ニ於テ處遇上其他必要アリ
ト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサル
コトヲ得

第二十五條 在監者ニ接見センコトヲ請フ
者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業、住所、

第一百五條 在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類
及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但
六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回、十月ヨ
リ五月マテハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得
ス

第一百六條 在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以
内戸外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ
種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ム可キ者ニ
付テハ此限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル
者ニ限リ一時間以内ニ伸長スルコトヲ得
受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシム
ルコトヲ得

第一百七條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニ
シテ十八歳未満ノ者ハ少クトモ三十日毎
ニ一回、其他ノ者ハ少クトモ三月毎ニ一
回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ
刑期一年以上ノ者ハ少クトモ六月毎ニ一
回監獄醫ヲシテ健康診断ヲ爲サシム可シ

第一百八條 十八歳未満ノ者ハ其他ノ者ト治療
ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ異ニス可シ

第一百九條 獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ
罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ
除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シ
タルトキハ成ル可ク病監内ノ獨居監房ニ拘
禁ス可シ

第一百十條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防

年齢、在監者トノ續柄及ヒ面談ノ要旨ヲ聞
取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項
ヲ告知ス可シ
接見セントコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其
氏名、職業及ヒ住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ
允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍ホ其
旨ヲ證明セシムヘシ
第百二十六條 接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サ
シムヘシ
在監者疾病ノ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサ
ルトキハ其居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコ
トヲ得
第百二十七條 接見ニハ監獄官吏之ニ立會フ
ヘシ
典獄ニ於テ教化上其他必要アリト認ムルト
キハ受刑者ノ接見ニ付立會ヲ爲サシメサル
コトヲ得
第百二十八條 外國語ハ典獄ノ許可アルニ非
サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス
第百二十九條 受刑者ノ發送スル信書ノ數ハ
拘留四ニ付テハ十日毎ニ一通、禁錮四ニ付
テハ十五日毎ニ一通、懲役四ニ付テハ一月
毎ニ一通ヲ超ユルコトヲ得ス但十八歳未満
ノ受刑者又ハ之ニ準スル處遇ヲ爲ス受刑者
ノ發送スル信書ノ數ハ典獄ニ於テ教化上必
要ト認ムル程度ヲ標準トシテ適宜之ヲ增加
スルコトヲ得典獄ニ於テ處遇上其他必要アリ

リト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコ
トヲ得
第百二十九條ノ二 受刑者ノ受ク可キ信書ニ
シテ教化上支障ナキモノハ其都度之ヲ本人
ニ交付ス可シ
受刑者ニ交付ス可キ信書多數ニシテ監獄ノ
取扱ニ著シキ困難ヲ來タス虞アルトキハ急
速ヲ要スル信書ヲ先ツ交付ス可シ
第百三十條 在監者ノ發受スル信書ハ典獄之
ヲ檢閲ス可シ
發信ハ封緘ヲ爲サスシテ之ヲ典獄ニ差出サ
シメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ捺押ス可
シ
第百三十一條 外國文ヲ用キタル信書ハ檢閲
ノ爲メ在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシム
ルコトヲ得
在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ
其負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許サ
サルコトヲ得
第百三十二條 受刑者ノ發送スル信書ハ急速
ヲ要スル場合ヲ除ク外日曜日、休業日又ハ
休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコ
トヲ得ス
第百三十三條 在監者信書ヲ自書スルコト能
ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ
代書ス可シ
第百三十四條 在監者ノ發送スル信書ノ郵便

稅ハ自辨トス裁判所其他公務所ニ對シ返信
ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト
能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨ス可シ
書信用紙及ヒ封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス
ルコトヲ得
第百三十五條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ
其他ノ文書ハ典獄ニ於テ教化上必要アリト
認ムル期間之ヲ本人ニ所持セシムルコトヲ
得
第百三十六條 信書ノ檢閲、發送及ヒ交付ノ
手續ハ成ル可ク速ニ之ヲ爲ス可シ
第百三十七條 信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ
年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ
第百三十八條 監獄法第四十七條第一項ニ依
リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添付シ
置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ
本人ニ交付ス可シ
第百三十九條 接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閲ノ
際行刑上參考ト爲ル可キ事項ヲ發見シタル
トキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可
シ
第十章 領置
第百四十條 領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置
金品基帳ニ記載シ領置金品基帳ニハ典獄之
ニ認印ス可シ
第百四十一條 金銀ニ非サル領置物ハ本人ノ

請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スル
コトヲ得
領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ
本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキ
トキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得
第百四十二條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論
說ヲ記載シタル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス
可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス
第百四十三條 受刑者ニハ法令其他典獄ニ於
テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便
切手、郵便葉書、金銀及ヒ教化上特ニ必要
ト認ムル物ヲ除ク外差入ヲ爲スコトヲ得ス
但自辨ヲ許シタル物ハ此限ニ在ラス
第百四十四條 刑事被告人ニハ前條ニ掲ケタ
ル物ノ外衣類臥具、飲食物、手巾及ヒ履物
ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得
第百四十五條 衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九
十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條
ノ規定ヲ準用ス
第百四十六條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ
請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業及ヒ
住所ヲ調査ス可シ
第百四十七條 在監者ニ宛テ送致シ來リタル
物及ヒ差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上
看守之ヲ檢査ス可シ
飲食物ノ檢査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシム
可シ

第百四十八條 自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ
本人ニ交付セサルトキト雖モ携有物ノ例ニ
依リ領置ノ手續ヲ爲スコトヲ得
第百四十九條 飲食物ニ付テハ領置ニ關スル
規定ヲ適用セス
第百五十條 没入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタル
トキハ没入廢棄簿ニ品目、數量並ニ處分ヲ
爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ典獄之ニ
認印ス可シ
第百五十一條 死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク
可キ者遺地ニ在ルトキハ其請求ニ因リ遺留
物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得但遞
送費ハ請求者ノ負擔トス
第十一章 賞罰
第百五十二條 賞遇ヲ爲スコキ者ニハ賞表ヲ
付與ス可シ
賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス
第百五十三條 賞表ハ長六幅三釐ノ白色ノ
布ヲ用キ上衣ノ左被肩臂間ノ表面ニ繡著セ
シム可シ
第百五十四條 賞遇ハ左ノ如シ
一 第百二十三條ニ定メタル接見ノ度數
及ヒ第百二十九條ニ定メタル信書發送
ノ度數ヲ一回宛増加スルコト
二 襯衣ノ自辨ヲ許スコト
三 作業ノ變更ヲ許スコト

四 第七十一條ニ依ル作業賞與金計算高
ヲ賞表一箇毎二十分ノ二宛増加スルコ
ト
五 特別ノ料食及ヒ飲料ヲ給與スルコト
第百五十五條 賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ
賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ
其期間賞表ヲ除去ス可シ
第百五十六條 在監者左ノ各號ニ該行爲ア
ルトキハ五圓以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得
一 在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタ
ルトキ
二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セン
トスル者ヲ捕拿シタルトキ
三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ
用務ニ服シ功勞アリタルトキ
第百五十七條 減食ハ本人ニ給與スル料食ノ
一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス
第百五十八條 懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ
之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘
禁ス可シ
第百五十九條 懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スコ
シ
第百六十條 懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス
可シ
戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレ
タル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セ
シメ其健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サ

レハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス
 第六十一條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時時其健康ヲ診斷セシム可シ
 第六十二條 減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ
 前項ニ掲ケタル者ヲ移監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ
 停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス
 第六十三條 戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診斷セシム可シ
 第六十四條 懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以內ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ
 收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス
 第六十五條 在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得
 第六十六條 在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲罰簿ニ記載ス可シ
 第六十七條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セララル

可キ受刑者ハ釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ諭告ヲ爲ス可シ
 第六十八條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セララル可キ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前途ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査スヘシ
 第六十九條 典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セララル可キ者ノ性格及ヒ行狀並ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者ニ通報ス可シ
 第七十條 釋放セララル可キ者ノ領置物及ヒ作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ置ク可シ
 第七十一條 釋放ノ際著用ス可キ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若クハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス可シ
 第七十二條 受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄監吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其居住地又ハ乘船所迄最近ノ場所ニ至ル迄ノ乗車券又ハ乘船切符ヲ購入シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ
 第七十三條 受刑者ニ付假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ謄本並ニ行狀簿及ヒ身上調査

書類ヲ添ヘ司法大臣ニ具申ス可シ
 受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲ス可シ
 第七十四條 假出獄ニ因リ釋放ス可キ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付ス可シ
 第七十五條 假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知りタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ
 第七十六條 第七十三條及ヒ第七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依リ假出場ノ場合ニ可ヲ準用ス
 第十三章 死亡
 第七十七條 在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視ス可シ
 病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歴、死因及ヒ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名ス可シ
 自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名並ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載ス可シ
 第七十八條 死亡者ノ病名、亡因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親

族ニ通報ス可シ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ
 第七十九條 受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ司法大臣ニ於テ指定シタル病院、學校又ハ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得
 死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料ス可キトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ背セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 第八十條 死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタルトキハ其旨ヲ死亡帳ニ記載ス可シ
 第八十一條 死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第七十九條ノ場合ヲ除ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬ス可シ
 火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ
 假葬ノ場合ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツ可シ
 第八十二條 死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツ可シ
 墓標ニハ石ヲ用ウ可シ
 附則
 本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

思想犯保護觀察法

(昭和十一年五月二十八日)
法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル思想犯保護觀察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

思想犯保護觀察法

第一條 治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合又ハ訴訟ヲ必要トセサル爲公訴ヲ提起セサル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ決議ニ依リ本人ヲ保護觀察ニ付スルコトヲ得本人刑ノ執行ヲ終リ又ハ假出獄ヲ許サレタル場合亦同シ

第二條 保護觀察ニ於テハ本人ヲ保護シテ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止スル爲其ノ思想及行動ヲ觀察スルモノトス

第三條 保護觀察ハ本人ヲ保護觀察所ノ保護司ノ觀察ニ付シ又ハ保護者ニ引渡シ若ハ保護團體、寺院、教會、病院其ノ他適當ナル者ニ委託シテ之ヲ爲ス

第四條 保護觀察ニ付セラレタル者ニ對シテハ居住、交友又ハ通信ノ制限其ノ他適當ナル條件ノ遵守ヲ命スルコトヲ得

第五條 保護觀察ノ期間ハ二年トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ

決議ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第六條 第一條ニ定ムル事由ノ生シタル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ニ對シ保護觀察審査會ノ決議前假ニ第三條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 第三條又ハ第四條ノ處分ハ其ノ執行中何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得前條ノ處分ニ付亦同シ

第八條 保護觀察所ハ必要アルトキハ保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第九條 保護觀察所及保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ屬託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第十條 本人ヲ保護團體、寺院、教會、病院又ハ適當ナル者ニ委託シタルトキハ委託ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リテ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第十一條 前條ノ費用ハ保護觀察所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ其ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得此ノ命令ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 少年ニシテ治安維持法ノ罪ヲ犯シ

タル者ニハ少年法ノ保護處分ニ關スル規定ヲ適用セス

第十三條 本法ハ陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

第十四條 保護觀察所及保護觀察審査會ノ組織及權限並ニ保護觀察ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年勅令第四百號ヲ以テ同年十一月二十日ヨリ施行ス)

本法ハ本法施行前ニ第一條ニ定ムル事由ノ生シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

恩赦令

(大正元年九月二十六日)
勅令第二十三號

改正 昭和二十一年勅令一〇

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ恩赦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 大赦、特赦、減刑及復権ハ本令ノ定ムル所ニ依リ

第二條 大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

第三條 大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ

言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ

二 未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條 特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第五條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除ス但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條 減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第七條 勅令ニ依リ減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ノ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス但シ特別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其ノ減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條 復権ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニ對シ勅令ヲ以テ要件ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ特定ノ者ニ付之ヲ行フ但シ刑ノ執行ヲ終ラサル者又ハ執行ノ免除ヲ得サル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス(昭和二年勅令

第十號ヲ以テ改正)

第十條 復権ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス

復権ハ特定ノ資格ニ付之ヲ行フコトヲ得

第十一條 刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦特赦、減刑又ハ復権ニ因リ變更セラザルコトナシ

第十二條 特赦又ハ特定ノ者ニ對スル減刑若ハ復権ハ司法大臣之ヲ上奏ス(同上本條ヲ改正)

第十三條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ經由スヘシ

第十四條 特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 判決ノ謄本又ハ抄本

二 刑罰計算書

三 犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルルヘキ事項ニ關スル調査書類

第十五條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ハ職權ヲ以テ又ハ本人ノ出願ニ依リ司法大臣ニ復権ノ申立ヲ爲スコトヲ得

復権ノ出願ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ非

サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 復権ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 判決ノ謄本又ハ抄本

二 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ證スル書類

三 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後ニ於ケル本人ノ行狀、現在及將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルルヘキ事項ニ關スル調査書類

本人ノ出願ニ依リ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ願書ヲ添附スヘシ

第十七條 特赦、減刑又ハ復権ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀、減刑狀又ハ復権狀ヲ送付シ之ヲ本人ニ下付セシムヘシ

第十八條 大赦、特赦、減刑又ハ復権アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ハ判決ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十九條 本令中司法大臣ノ職務ハ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣、朝鮮臺灣關東南洋群島又ハ帝國力治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ朝鮮總督臺灣總督關東長官內閣總理大臣又ハ外務大臣之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官、法院ノ檢察官、領事